

平成27年度障害者スポーツ振興事業
「地域における障がい者スポーツの振興事業」

報 告 書

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

目 次

はじめに

I 振興事業の概要	1
1. 助成の目的	
2. 委託先対象	
3. 対象事業	
4. 活動の範囲	
5. 委託費と対象経費	
6. 地域振興事業検討委員会の設置	
II 実施事業の概要	4
III まとめと今後の課題	16
1. 事業実施の背景	
2. 事業内容の特徴	
3. 組織連携の取り組み	
4. 障がい者スポーツ指導者の活動	
5. 地域振興事業の成果	
6. 今後の課題	
7. おわりに	
IV 事業実施団体の報告	27
1. 公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会	
2. 新潟県障害者スポーツ協会	
3. 公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会	
4. 一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会	
5. 公益財団法人島根県障害者スポーツ協会	
6. 一般社団法人山口県障害者スポーツ協会	
7. 愛媛県障害者スポーツ協会	
8. 福岡県障害者スポーツ協会	
9. 鹿児島県障害者スポーツ協会	
10. 特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会	

はじめに

近年、わが国のスポーツ施策は、平成23年8月に施行されたスポーツ基本法を契機に、スポーツ基本計画の策定、2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催決定、障がい者スポーツの所管が厚生労働省から文部科学省に移り、平成27年10月にスポーツ庁が新設されるなど、大きな変革を迎えております。

そのような中、地方自治体においても、新たなスポーツ振興計画が策定され、地域で開催される多くのスポーツ事業についても、障がいのある方がスポーツに参加する環境、体制の整備が進められ、その取り組みに期待がされているところであります。

日本障がい者スポーツ協会では、平成23年度より国庫補助事業として、都道府県・指定都市障がい者スポーツ協会を対象とした「地域における障がい者スポーツの振興事業」を実施してまいりました。

この事業は、障がい者が身近な地域において、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができる環境づくりをめざし、都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、それぞれの地域特性にあわせた各種事業を計画し、さまざまな関係団体と連携、協働し、障がい者スポーツの振興体制を拡充していくことを目的としています。

今年度は、10 団体が特色ある事業を実施することができました。それぞれの地域の実情にあわせた多様なスポーツ事業では、多くの障がい者がスポーツの楽しさを体験するとともに、この取り組みにより、さまざまな人や組織との連携が広がっている状況もみえてきました。

本報告が、障がいのある人が身近な地域で生涯にわたりスポーツに参加できる環境整備のための取り組み事例として、地域の障がい者スポーツの振興に役立てていただければ幸いです。

今後とも、関係の皆様の一層のご理解とご支援、ご協力をお願いいたします。

平成28年3月

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

I 振興事業の概要

1. 助成の目的

障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指し、障がい者スポーツ指導者の活用を促し、障がい者向けのスポーツ教室や障がい特性を踏まえたスポーツイベント等の開催を通じて、参加した障がい者が、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができるクラブやネットワーク等の組織・体制づくりの構築を目的とする。また、都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、体制および組織強化に寄与できることを目的とする。

2. 委託先対象

平成27年度公益財団法人日本障がい者スポーツ協会障がい者スポーツ協会協議会登録団体を対象に、助成事業の実施体制が整っていることを条件とする。

今年度は、申請のあった10団体を対象に助成した。

3. 対象事業

本事業は助成の目的に合致し、地域の障がい者スポーツ協会と障がい者スポーツ指導者協議会が協力・連携した体制で実施するものであること。下記の例を参考とした地域における障がい者スポーツ振興にかかわる事業とする。

【事業内容例】

- (1) 障がい者のスポーツ教室事業
- (2) 障がい者スポーツ指導者の育成事業
- (3) 障がい者スポーツ指導者の派遣事業
- (4) 選手発掘・育成事業
- (5) 障がい者スポーツ理解啓発事業(大会等イベントも含む)
- (6) 障がい者スポーツにおける情報発信事業(広報)
- (7) 組織連携強化事業

※注) 厚生労働省が実施している「地域生活支援事業」内の「スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」で助成を受けている事業は重複して申請はできない。

4. 活動の範囲

事業は原則として一つの都道府県内(指定都市を含む)を対象とすること。なお、実施場所は、競技特性等の理由により当該の都道府県内で実施が困難な場合はこの限りではない。

5. 委託費と対象経費

委託費は、各団体に200万円または100万円とする。また、委託費の支出科目は国庫補助金の規程に準じて、以下のとおりとする。諸謝金、旅費交通費、消耗品費、会議費、賃借料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費、賃金、保険料とし、備品の購入は認めない。また、支出については、すべて委託先団体の規程によるものとする。

6. 地域振興事業検討委員会の設置

委託先団体の選定は、「地域振興事業検討委員会」を設置し、申請事業について本事業の目的に沿った内容であるかどうか審査し決定した。

また、検討委員会により、本事業の総括を行い、今後の日本における障がい者スポーツ推進の参考にするための総括をおこなった。

地域振興事業 検討委員会委員（技術委員会 地域振興班）

	氏 名	役 職
1	大久保春美	(公財) 日本障がい者スポーツ協会技術委員長
2	三上 真二	大阪市長居障がい者スポーツセンター 館長
3	高山 浩久	(公社) 東京都障害者スポーツ協会 事業推進部地域スポーツ振興課 課長
4	藤田 紀昭	同志社大学 スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 教授
5	山崎 珠美	長野県障がい者福祉センター サンアップル スポーツ課 係長
6	山下 慎	広島市心身障害者福祉センター 業務係 次長
7	森 慶一	(公社) 東京都障害者スポーツ協会 事業推進部事業推進課 係長
8	丸田 徹	(社福) 新潟県身体障害者団体連合会 新潟県障害者交流センター 統括部長

事務局（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）

	氏 名	役 職
1	水原 由明	スポーツ推進部 部長
2	滝澤 幸孝	スポーツ推進部 課長
3	小島 武志	スポーツ推進部 課長代理
4	屋敷 優友	スポーツ推進部 主査

◆会議の開催

第1回会議

日 時：平成27年5月21日（木）

場 所：人形町区民館 洋室4号室

内 容：1. 平成27年度申請団体の実施内容について

- ・申請団体の事業実施体制の適正
- ・申請内容の確認

2. 平成27年度委託先の審査・選定

第2回会議

日 時：平成28年3月9日（月）

場 所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 会議室

内 容：1. 平成27年度事業の報告書の作成について

- ・各団体からの報告内容の確認
- ・報告書の骨組、今後の作業スケジュールの確認

2. 平成28年度障がい者スポーツ振興事業について

- ・開催要項（案）の内容等

◆事業の視察

(1) 静岡県

日 時：平成 28 年 1 月 9 日（土）～10 日（日）

場 所：J-ステップ（清水ナショナルトレーニングセンター） 他

内 容：第 1 回静岡障がい者サッカーフェスティバル

- ・事業運営についての情報収集
- ・参加者の障がい状況および支援者の参加状況等についての調査

(2) 山口県

日 時：平成 28 年 2 月 11 日（火）

場 所：山口県セミナーパーク体育館

内 容：山口防府地域（山口市）障害者スポーツ教室

- ・事業運営についての情報収集
- ・参加者の障がい状況および支援者の参加状況等についての調査

◆事業報告会の開催

日 時：平成 28 年 2 月 23 日（火）

場 所：全国障害者総合福祉センター（戸山サンライズ）2 階 大会議室

参加者：事業実施 10 団体 計 14 名

（北海道、新潟県、静岡県、鳥取県、島根県、山口県、愛媛県、福岡県、鹿児島県、沖縄県）

日本障がい者スポーツ協会技術委員会（地域振興班） 計 8 名

日本障がい者スポーツ協会スポーツ推進部（事務局） 計 5 名

内 容：1. 本事業の骨子について

- ・当協会が考える地域振興について、本事業の目的、今後の展望など

2. 各団体からの事業報告

- ・事業実施の背景、目的（ねらい）、内容、連携団体、成果・効果、課題など

3. 全体ディスカッション

- ・各地域における現状や課題の共有

II 実施事業の概要

10 団体からの報告を基に、今年度の地域振興事業の全体像を把握するために、実施事業の概要をまとめた。また、それぞれの「地域のスポーツ環境の特色」「地域の実情・課題点」、「事業のねらい」、実施された「事業内容」、「連携・協力団体」、「障がい者スポーツ指導者の活動・役割」、そして「事業成果」、「事業課題」の 8 項目から実施概要を整理した。

それぞれの団体の活動の詳細については、「IV. 実施事業団体」の報告を参照いただきたい。

【実施内容区分 一覧】							
No.	団 体 名	障がいのスポーツ 教室事業	障がいのスポーツ 指導者の育成事業	障がいのスポーツ 指導者の派遣事業	選手発掘 ・育成事業	障がいのスポーツ 理解啓発事業 (大会等イベントも含む)	組織連携推進 強化事業
1	(公財)北海道障がい者スポーツ協会	●					
2	新潟県障害者スポーツ協会		●				●
3	(公財)静岡県障害者スポーツ協会	●				●	
4	(一社)鳥取県障がい者スポーツ協会	●					
5	(公財)島根県障害者スポーツ協会	●	●				
6	(一社)山口県障害者スポーツ協会	●	●			●	
7	愛媛県障害者スポーツ協会					●	
8	福岡県障害者スポーツ協会	●				●	
9	鹿児島県障害者スポーツ協会	●			●	●	
10	(特非)沖縄県障がい者スポーツ協会	●		●			
		8	3	1	1	5	1

平成27年度 障害者スポーツ振興事業
地域における障がい者スポーツの振興事業 実施団体一覧

No.	団体名	金額 (千円)	事業名/内容
1	公益財団法人 北海道障がい者スポーツ協会	2,000	北海道における障がい児者スポーツの振興事業
			①全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業
2	新潟県障害者スポーツ協会	1,000	NIIGATA 障がい者スポーツ連携推進・人材育成事業
			①障がい者スポーツ指導員ネットワーク化事業
			②特別支援学校連携促進事業
			③スポーツ関係者向け障がい者スポーツ支援者育成事業
3	公益財団法人 静岡県障害者スポーツ協会	2,000	静岡県における障がい者スポーツの地域連携振興事業
			①静岡県地域ネットワーク型障がい者スポーツトライアル教室開催事業
			②静岡県障害者スポーツフォーラム開催事業
4	一般社団法人 鳥取県障がい者スポーツ協会	1,000	鳥取県における総合型地域スポーツクラブへの障がい者参加推進事業
			①障がい者のスポーツ教室事業
5	公益財団法人 島根県障害者スポーツ協会	1,000	島根県における冬季障がい者スポーツの理解・障がい者スポーツの振興事業
			①スキー・スノーボード教室の開催
			②チェアスキー・バイスキースタッフ研修会
6	一般社団法人 山口県障害者スポーツ協会	2,000	山口県における障害者スポーツ地域推進事業
			①地域障害者スポーツ教室開催事業
			②障害者スポーツ体験教室事業
			③障害者交流スポーツ大会開催事業
			④障害者スポーツ指導者養成及び派遣事業
7	愛媛県障害者スポーツ協会	1,000	愛媛県障害者スポーツ理解啓発事業
			①愛媛県障害者サイクリング大会開催事業
			②愛媛県障害者ハンドサイクル等体験会
			③愛媛県障害者スポーツ紹介事業
8	福岡県障害者スポーツ協会	1,000	福岡県内における障害者スポーツ振興事業
			①スポーツフェスタ（車椅子バスケットボール等）
			②マリンスポーツ教室
			③車椅子ソフトボール教室
9	鹿児島県障害者スポーツ協会	2,000	鹿児島県障がい者スポーツ普及・振興・強化事業
			①全国障害者スポーツ大会団体種目普及育成事業（知的障がい者バスケットボール）
			②鹿児島県知的障がい者デュアルレーン方式によるボウリング教室及び大会
			③県民レクリエーション祭における障がい者スポーツブース設置事業
10	特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会	2,000	障がい者スポーツキャラバンおきなわ
			①うるま市就労支援施設ネットワーク連絡協議会スポ・レク大会
			②浦添市制45周年記念ユニバーサルスポーツフェスタ
			③特別支援学校及び小中学校等障がい者スポーツ体験教室

No.	実施団体名	実施概要
	事業名	
1	(公財)北海道障がい者スポーツ協会 北海道における障がい児者スポーツの振興事業 ①全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業 [金額200万円]	【地域のスポーツ環境の特色】 ◆当道全域における裾野の拡大をめざすとともに、障がいのある人とない人がスポーツに親しむことにより、障がい者スポーツの理解を深め、障がい者が主体的にスポーツに参加する機会の充実や環境の整備を図る必要がある。
		【地域の実情・課題点】 ◆当道の障がい者スポーツ事業は、主に15歳以上の者を対象としているため、小中学校の特別支援学級の児童生徒のスポーツ支援が遅れている現状がある。障がい者スポーツ人口の裾野を広げるためには基盤となる年齢層の支援促進が求められる。 ◆他県にない広い面積と多数の市町村を有しており、地方の隅々まで事業を浸透させるための指導及び支援を行うための体制づくりが必要である。 ◆スポーツ支援活動をするための会場の確保が困難であり、障がい者スポーツ指導員の活動の場が限られている。
		【事業のねらい】 ◆特別支援学級で学ぶ児童生徒のスポーツに対する潜在的なニーズを顕在化させることを目的とする。 ◆14行政区(振興局)全エリアでの巡回スポーツ教室を開催することにより、障がい者スポーツ普及の地域の偏りを是正するとともに、開催後の活動の場としての学校体育館の利用の継続をめざす。
		【事業内容】 ①全道巡回障がい児者スポーツ教室 ◆特別支援学級の児童生徒を対象として、適したスポーツ種目(ドッチビー、ふうせんバレー、フライングディスク、ポッチャ、車いすバスケットボール、ゴールボールなど)を紹介するとともに、障がい種別を問わず楽しめるプログラムを提供した。 ◆道内21市町の特別支援学級において30教室を実施、延べ567名の児童生徒が教室に参加した。 ◆スポーツを通じた相互理解を深めるため、特別支援学級と通常学級の合同教室を開催した。
		【連携・協力団体】 ◆NPO法人あ・りーさだ、北海道教育委員会、北海道特別支援学級設置学校長協会、北海道内の小中学校、北海道内の高齢者大学 ◆企業の支援参加 札幌トヨペット株式会社:巡回教室用の車両提供
		【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】 ◆メイン講師として全教室に赴いた上級障がい者スポーツ指導員は、本事業の企画から運営に至るまでスポーツ教室全般にわたり主導的な役割を担った。 ◆障がい者スポーツ指導員を対象に本教室のボランティアを募集し、47名の指導員から申し込みがあり、その内の22名の指導員が11教室に補助員として参加した。
		【事業成果】 ◆昨年に引き続き、特別支援学級の児童生徒を対象としたスポーツ教室を行うことで、実施した各学校の担当教諭からは、子供たちに自主性や仲間と協力しながら進めていく様子がみえ、高い評価を受けた。 ◆特別支援学級と通常学級との合同教室を中学校において1校開催することができ、障がいのない生徒にとり新鮮であり相互理解が深まった。
		【事業の課題】 ◆定期的な巡回教室を継続していくには、平日に活動を行える指導員の確保が課題である。 ◆特別支援学級と通常学級との合同教室では、低学年においてはメニューの工夫が必要であり、高学年を対象に行う必要がある。

No.	実施団体名	実施概要
	事業名	
2	新潟県障害者スポーツ協会 N I I G A T A障がい者スポーツ連携推進・人材育成事業 ①障がい者スポーツ指導員ネットワーク化事業 ②特別支援学校連携促進事業 ③スポーツ関係者向け障がい者スポーツ支援者育成事業 〔金額100万円〕	<p>【地域のスポーツ環境の特色】 当県の「県民スポーツ振興プラン」は、平成18年度から平成28年度まで11年間の計画であり、本協会からも委員として参画している。計画では「障がい者スポーツの地域への浸透と定着」が主課題としてあげられている。</p>
		<p>【地域の実情・課題点】 ◆当県は総面積が広く、離島もあることから、県内のどの地域においても障がい者が継続的にスポーツに参加できる環境整備が進まない現状がある。平成25年～26年で障がい者スポーツの普及や支援者・指導者等の養成を重点的取り組んできた。3年目としての課題は、①実施場所の整備②質の高い障がい者スポーツ指導員や支援者・理解者を地域ごとに養成③地域のスポーツ指導者との連携に取り組むということである。</p>
		<p>【事業のねらい】 ◆障がい者スポーツ指導員の情報共有のためのネットワークづくり ◆特別支援学校の体育館、グラウンドを利用したスポーツ環境づくり ◆総合型地域スポーツクラブ、公共体育施設等のスタッフや支援関係者を対象に障がい者スポーツへの理解促進に取り組む</p>
		<p>【事業内容】 ◆障がい者スポーツ指導員ネットワーク化事業 県内に登録している障がい者スポーツ指導員の指導専門種目等を把握するとともに、指導員の電子メール登録を進めることで、適宜、必要な情報を提供する整備を行った。 ◆特別支援学校連携促進事業 休日の特別支援学校の体育館を活用したバスケットボール教室を開催し、サークル化した団体が継続して施設を使用できるための施設開放につなげた。 ◆スポーツ関係者向け障がい者スポーツ支援者育成事業 各地域の総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員協議会と連携を図り、スポーツ関係者向けの支援者講習会を開催した。</p>
		<p>【連携・協力団体】 ◆新潟県体育協会（広域スポーツセンター）、総合型地域スポーツクラブ、各市町村スポーツ振興担当課及び福祉担当課、スポーツ推進委員連盟、県特別支援学校体育連盟、江南高等特別支援学校及び保護者、F I D新潟バスケットボールチーム</p>
		<p>【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】 ◆各市町村のスポーツ担当課、総合型スポーツクラブ、スポーツ推進委員が障がい者スポーツに取り組む事例が増える中、障がい者スポーツ指導員の派遣申請が増加するとともに、各地域のスポーツ関係者が積極的に「障がい者スポーツ指導員」の資格取得をめざす効果がみられた。 ◆講師は、上級障がい者スポーツ指導員、補助員には、初・中級スポーツ指導員を活用した。</p>
		<p>【事業成果】 ◆障がい者スポーツ指導員ネットワーク化事業 登録している障がい者スポーツ指導員へのアンケート調査の実施による活動実態や要望を把握し、情報の電子化により、情報収集・交換・発信が可能になった。 ◆特別支援学校連携促進事業 土日、祝日等の特別支援学校の体育館開放の促進が進み、様々な障がい者スポーツ団体の利用も図られるようになった。 ◆地域振興の取り組みが3年目を迎え、佐渡地域（離島）に「佐渡障がい者スポーツ協会」が設立された。 ◆スポーツ関係者向け障がい者スポーツ支援者育成事業 スポーツ関係者向けの支援者講習会を開催したことにより、障がい者スポーツへの理解促進が進み、「初級障がい者スポーツ指導員研修会」の受講へとつながった。</p>
<p>【事業課題】 ◆障がい者スポーツの地域振興に取り組む中で、各地域において福祉とスポーツの行政・団体間の連携がみられるようになったが、今後もコーディネーター・支援者・指導者等の養成、拠点となる活動場所の確保、物の整備、情報収集・発信などの環境整備を各地域バランスよく推進していくことが課題である。</p>		

No.	実施団体名 事業名	実施概要
3	<p>(公財) 静岡県障害者スポーツ協会</p> <p>静岡県における障害者スポーツの地域連携振興事業</p> <p>①静岡県地域ネットワーク型障がい者スポーツトライアル教室開事業 ②静岡県障がい者スポーツフォーラム開催事業</p> <p>[200万円]</p>	<p>【地域のスポーツ環境の特色】 「静岡県スポーツ推進計画」に基づきライフステージに応じたスポーツ活動の推進を目標に、障がいのある人とない人が共にスポーツができる機会の提供や、障がい者スポーツ指導員の養成と育成を推進している。 県内各市町の福祉担当課・生涯スポーツ主管課との意思の疎通が図られ、障がいのある方のスポーツ振興の状況の把握と理解が進んでいるが、各地域においてより一層気軽にスポーツを楽しめる環境づくりが必要である</p> <p>【地域の実情・課題点】 ◆重度化・高齢化を踏まえ、スポーツやレクリエーションをしたくても受け入れ可能な場所が無い、また遠方に行くことができない等の現状を改善し、公認障がい者スポーツ指導者と地域の連携により、普及の進んでいない地域を重点的にスポーツのできる環境に整えること。</p> <p>【事業のねらい】 ◆各地域に合った方法で、公認指導者と地域が連携してスポーツ環境を根付かせるとともに生涯スポーツとして継続・発展させること。</p> <p>【事業内容】 ◆静岡県地域ネットワーク型障がい者スポーツトライアル教室開事業 ①静岡県草薙総合運動場（静岡市駿河区） 県体育協会主導で各種スポーツ体験・体力測定を実施 ②静岡県武道館（藤枝市） 藤枝市障害福祉担当課・生涯スポーツ担当課協働主導で各種スポーツ体験・健康チェックを実施 ③清水ナショナルトレーニングセンター・IAI スタジアム日本平・静岡市立庵原中学校（清水区）サッカー競技団体主導でサッカーをテーマに多障害別の大会・体験教室・交流を実施 ④静岡市中央体育館（静岡市葵区） 協会主導で県理学療法士会と共催で体力測定・運動能力測定を実施。また、各競技団体に依頼し体験教室やパラ出場選手による教室を開催。 ◆静岡県障がい者スポーツフォーラム開催事業 実行委員会形式で県内の障がい者スポーツの状況を、県民に啓発するイベントを開催。（障がい者スポーツ指導員の役割を再考する講演会やプログラム・記念誌の作成・配布）</p> <p>【連携・協力団体】 ◆障がい者スポーツ指導者協議会、県障害者支援局、教育委員会、県スポーツ推進委員連絡協議会、各市町障害者福祉担当課、各市町村生涯スポーツ担当課、県内特別支援学校・支援学級、県身体障害者福祉会、各市町身体障害者福祉会、県知的障害者福祉協会、県手をつなぐ育成会、各市町手をつなぐ育成会、精神障害者スポーツ推進協議会、各市町社会福祉協議会、各健康福祉センター、各市町体育協会、県理学療法士会、総合型スポーツクラブ他</p> <p>【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】 ◆内容、実施方法、当日の運営について検討を重ね実施した。 ◆地域開催については、その地域の指導員を派遣し、関係団体ならびに地域の障がいのある方との親睦を図った。 ◆関係競技団体主導開催については、障害のある方への指導法についてレクチャーをした。 ◆実行委員会を組織し、内容について検討。協議会20周年を機に、記念誌を作成し、指導員の仲間を増やすため各実行委員が参加者募集を地域で行った。</p> <p>【事業成果】 ◆県内各市町の福祉担当課・生涯スポーツ主管課との意思の疎通が図られ、障がいのある方のスポーツ振興の状況の把握と理解が進んだ。 ◆スポーツ推進委員、理学療法士等関連団体との連携も深まった。 ◆初級指導員養成講習会への参加や問い合わせも増えており、各市町における障がい者スポーツへの取り組みや相談も増加した。</p> <p>【事業の課題】 ◆市町レベル（より狭い範囲）での開催を検討する必要がある。 ◆重度障害者へ対応できる体制づくりが必要である。 ◆スキルアップ講習会、現任研修会の定期的な開催を行い、活動できる（派遣できる）指導員をより多く増員する必要がある。またその中で、関連団体の連携をコーディネートできる「中核となる指導員」の育成も急務。 ◆実施主体である事務局体制の強化。</p>

No.	実施団体名 事業名	実施概要
4	<p>(一社)鳥取県障がい者スポーツ協会</p> <p>鳥取県における総合型地域スポーツクラブへの障がい者参加推進事業</p> <p>①障がい者のスポーツ教室事業 [100万円]</p>	<p>【地域のスポーツ環境の特色】</p> <p>◆当県では、スポーツのさらなる推進を図るため、「鳥取県スポーツ推進計画」を平成26年3月に策定し、様々な年代の人々が年齢や性別、障がい等を問わず、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備し、心豊かな生活を営むことができる社会をめざしている。</p> <p>◆同計画では平成26年度から平成35年度までの10年計画を策定しており、目標のひとつとして「地域におけるスポーツ人材の育成とスポーツ環境の充実」を掲げていることから、今回、県内にある総合型地域スポーツクラブと連携し、身近な地域でスポーツができる教室を企画し実施した。</p> <p>【地域の実情・課題点】</p> <p>◆当協会では、障がい者の自立と社会参加を促進し、共生社会の実現に向け様々な事業を展開している。スポーツ教室の開催や支援学校での部活動の推進、生徒の卒業後も活動ができる受け皿として競技団体の育成等に努力している。</p> <p>◆しかし、障がいの重度化や高齢化、地域の特性として一人一台の車社会のため、公共交通機関の利便性が大変悪く、事業参加の送迎に苦慮する現状がある。</p> <p>【事業のねらい】</p> <p>◆上記の課題のとおり、スポーツ活動を実施するにあたり交通手段がなく、参加が難しい障がい者の運動機会を確保する目的で、居住地域で展開している総合型地域スポーツクラブと連携し、次のようなねらいで障がい者スポーツ教室を開催した。</p> <p>①障がい者のスポーツ教室を支援し実現する。 …障がい者が総合型地域スポーツクラブに参加できる体制を整える</p> <p>②クラブ指導者が障がい者への対応が適切にできるよう養成する。 …クラブ指導者に障がい者スポーツ指導員資格の取得を促す</p> <p>③障がい者の個々の状態に適切に対応できるスタッフを確保する。 …クラブスタッフに障がい者スポーツ指導員やスポーツ推進委員の参加を促す</p> <p>【事業内容】</p> <p>◆県内の総合型地域スポーツクラブの中で活発に活動している5クラブを指定し、障がい者スポーツ体験教室(全19回)を実施した。</p> <p>①NPO法人 地域スポーツ推進協会 …子供の体操教室を実施している体育館にて、トランポリン教室を実施(1回)</p> <p>②若桜町総合型地域スポーツクラブ・若桜クラブ …町民体育館にて、フライングディスク、スポーツ吹き矢、室内グラウンド・ゴルフ、卓球バレーなどのニュースポーツ教室を実施(5回)</p> <p>③一般社団法人 山陰リンクの会 …養護学校体育館にて、室内グラウンド・ゴルフ教室を実施(5回)</p> <p>④ほうきスマイリースポーツクラブ …総合スポーツ公園等にて、グラウンド・ゴルフ(屋外・室内)、卓球バレー、カローリングなどのニュースポーツ教室を実施(3回)</p> <p>⑤南部町総合型地域スポーツクラブ スポnet 南部 …総合福祉センター等にて、軽体操、卓球バレー、スポーツ吹き矢、水中運動、ディスコン、エアボールゲームなどのスポーツ・レクリエーション広場を実施(5回)</p> <p>【連携・協力団体】</p> <p>◆鳥取県、鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会、鳥取県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、鳥取県身体障害者福祉協会、鳥取県社会福祉協議会、鳥取県レクリエーション協会、倉吉市身体障害者福祉協会、若桜町身体障害者福祉協会、鳥取県立倉吉養護学校、特定非営利活動法人伯耆みらい、西部やまと園、ちゃれきんぐ株式会社</p> <p>【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】</p> <p>◆障がい者スポーツ指導者協議会とスポーツ協会、レクリエーション協会が連携し、地域の指導者が教室の指導、用具確保、事務連絡等を担った。</p> <p>◆今回の事業で、居住地域でスポーツ活動への参加の機会が増え指導員活用の場面が広がった。</p> <p>【事業成果】</p> <p>◆県として初めて総合型地域スポーツクラブと連携し事業を実施することができ、クラブ側も初めて障がい者スポーツに触れる方がほとんどであった。</p> <p>◆県内5地区19回のスポーツ教室を行うことで、スポーツ活動への参加機会が少ない中山間地域の方々のきっかけ作りとなり、身近な場所で運動ができる環境を作ることができた。</p> <p>◆適切に対応ができる指導員を配置し、施設職員等を補助員として活用することで、参加者の安心感が増し安全で楽しい教室となった。</p> <p>◆他団体と新しい連携ができたり、人材の発掘ができた今後に繋がる成果が得られた。</p> <p>【事業の課題】</p> <p>◆参加費やクラブ会員費徴収の課題が明らかになり、受益者負担についての検討が必要である。</p> <p>◆在宅の障がい者の送迎の確保や指導員の活動しやすい日程と会場施設との日程調整が必要である。</p> <p>◆各地域の総合型地域スポーツクラブでの自主運営を長期目標としながら、行政機関等と連携し、財政面の支援やスポーツ指導員の確保など体制を整える必要がある。</p>

No.	実施団体名 事業名	実施概要
5	<p>(公財) 島根県障害者スポーツ協会</p> <p>島根県における冬季障がい者スポーツの理解・障がい者スポーツの振興事業</p> <p>①スキー・スノーボード教室の開催 ②チェアスキー・バイスキースタッフ研修会</p> <p>[100万円]</p>	<p>【地域のスポーツ環境の特色】 ◆当県においては、平成24年度にスポーツ推進計画が策定され、平成28年度を目標年度とする5か年計画で実施されている。 障がい者スポーツについては、健常者と同様にスポーツに参画する機会を確保するため、スポーツを提供する組織・団体を支援・育成することとしている。 そこで、障がい特性に応じて、だれもが参加し楽しむことができるスポーツ活動の推進に向け、健常者と障がい者が一緒にできるスポーツ、イベントを実施したり、スポーツ指導者の研修会等でのテーマに障がい者スポーツを取り上げるなどの事業展開をおこなっている。</p> <p>【地域の実情・課題点】 ◆当県は寒冷地指定の地域であり、スキー場も多くあるにもかかわらず、これまで冬季スポーツに取り組む者はあまり多くはなかった。また、冬季には屋外スポーツはあまり行われず、障がい者が年間を通じてスポーツに親しむという風土が希薄である。 ◆一方、県内にはスキー場が多くあるにも関わらず、利用者として障がい者を受け入れる体制がソフト・ハード面とも脆弱であることから、冬季スポーツに取り組む障がい者が増えていない。 そこで、障がい者が通年でスポーツを楽しむことの普及啓発の観点からも、冬季スポーツにも恵まれた環境である当県の特性を活かし、冬季スポーツへの取り組みを促進するとともに、スキー場側にも障がい者が利用した場合の配慮（リフト乗降時の介助方法や施設のバリアフリー化の重要性など）を学ぶ機会を創出する必要がある。</p> <p>【事業のねらい】 ◆本事業により、障がい者が身近な地域で冬季スポーツを経験する機会を提供することで、障がい者の冬季スポーツへの参加促進を図る。 ◆東部・西部それぞれに指導ならびに介助スタッフを育成し、冬季スポーツに取り組むことができる環境を整備する。 さらに、これまで障がい者との関わりの少なかったスキー場関係者との連携・協働による事業実施を通じて、多くの方々への障がいの理解ならびに障がい者スポーツの振興を図ることを目的に実施する。</p> <p>【事業内容】 ◆県内4か所あるスキー場のうち3か所で、事前研修やスキー場・宿泊施設のバリアフリーについて関係者とともに確認していき、障がい者に対しての必要な設備について確認や提案を行った。 ◆1回目については、1日目の午前中にスタッフ研修会とし、午後からと2日目で教室を開催した。 ◆2回目については、1日目を午後から開催し、スタッフ研修と教室を同時進行で行った。</p> <p>【連携・協力団体】 ◆スキー場 ◆日本身体障害者スキー協会、島根県スキー協会、スキースクール ◆特別支援学校 ◆島根県障がい者スポーツ指導者協議会 ◆開催地行政、開催地社会福祉協議会</p> <p>【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】 ◆障がい者スキーの体験 ◆障がい者スキー介助体験 ◆宿泊時における、参加者への生活介助（入浴・食事等）</p> <p>【事業成果】 ◆2回のスキー教室とともに、参加者同士の交流や実技を通じて冬季スポーツに取り組む動機づけとして十分な成果があった。 ◆スタッフ研修を通じて、障がいについて学んだり、バイスキーの介助をできるようになり、障がい者のスキーに対しての支援体制が広がり、より安全にスキー教室ができる体制が整備された。 ◆スキー場に対して、障がい者のスキー教室開催や会場視察を打診したことは大きな成果であった。なぜなら、スキー場自体、修学旅行などを受け入れる中で障がい者（特に肢体不自由者）に対して対応ができず、見学を強いられていたからである。スキー場は、障がい者への対応の必要性は感じつつも何もできない状態であった。 このスキー教室（視察）で、スキー場も必要な設備や器具、支援団体等を知ることで障がい者を受け入れる心構えができたと考えられる。</p> <p>【事業の課題】 ◆スキー場のバリアフリー整備と冬季スポーツの普及・啓発が課題としてあげられる。 ◆事業開催時に低年齢の参加者に対する遊び等も検討することが課題としてあげられる。 ◆冬季種目の指導ができ、多様な障がい者に対応できるようなスタッフのレベルアップが課題としてあげられる。</p>

No.	実施団体名 事業名	実施概要
6	<p>(一社) 山口県障害者スポーツ協会</p> <p>山口県における障害者スポーツ地域推進事業</p> <p>①地域障害者スポーツ教室開催事業 ②障害者スポーツ体験教室事業 ③障害者交流スポーツ大会開催事業 ④障害者スポーツ指導者養成及び派遣事業</p> <p>[200万円]</p>	<p>【地域のスポーツ環境の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆一昨年に「山口県スポーツ推進計画」を策定し、「生涯スポーツの推進」「競技水準の向上」「人材の育成」「地域の活性化」を基本方針として、地域の障がい者が自主的、主体的に参加できるスポーツ環境づくりを推進している。 ◆地理的には山口市を中心としているが、各地に同規模の都市が点在し、障がい者スポーツの拠点化には苦勞しているため、障がい者がより身近な地域で楽しくスポーツ活動が実践できるように、障がい者スポーツ推進委員を各地域に配置し、諸環境の整備に努めている。 <p>【地域の実情・課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆平成23年に開催した「おいでませ山口大会」の成果で、県民の障がい者スポーツへの理解や障がい者のスポーツへの意欲は大いに高まってきているが、障がい者が各地域で実践するには、指導者・支援者・拠点施設・仲間・経費等、多くの問題や課題を残している。 ◆当協会では、県内7ブロックに障がい者スポーツ推進員1名を配置し、地域における障がい者スポーツの推進に努めている。今後は推進員がこれまで進めてきた地域の組織（拠点）づくりだけでなく、総合型地域スポーツクラブや地域のスポーツ推進委員に働きかけ、推奨スポーツ（ポッチャ、卓球バレー、ふうせんバレー）の障がい者スポーツ教室や大会開催支援を積極的に実施すること、そして指導者や支援者の養成が急務のため、本事業を実施する。 <p>【事業のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆共生社会の実現に向けて推奨している、ポッチャ・卓球バレー・ふうせんバレーのレクリエーションスポーツを県内7ブロックの多様な地域の組織（拠点）に普及させることや総合型地域スポーツクラブや地域のスポーツ推進委員、特別支援学校に働きかけ、障がい者スポーツ教室や大会開催支援を積極的に実施することにより、健常者と障がい者が一緒にスポーツを楽しむ交流スポーツ大会を実現させることを目的とする。 ◆教室や大会の充実のために、企画立案やコーディネートできる指導者や支援者やボランティアの養成と確保を行う。 <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆身近な地域で障がいのある人とない人が交流する、地域障害者スポーツ教室事業を開催した。 ◆障がいのある児童生徒がスポーツの楽しさを体験する、障害者スポーツ体験教室事業を開催した。 ◆障がい者のスポーツを支える指導者・ボランティアを養成する講習会等を開催した。 ◆県内の障がい者スポーツクラブチームを紹介する情報発信事業を行った。 <p>【連携・協力団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆障がい者スポーツ指導員、スポーツ医、スポーツトレーナー、心理サポート、看護師、公認栄養士、スポーツボランティア ◆競技団体及びスポーツ指導員・審判員 ◆スポーツ推進委員（協議会）、総合型地域スポーツクラブ ◆県、市町 ◆障がい者団体、校長会、障がい者関係団体、保健施設、県立・義務制小・中学校、特別支援学校、大学 ◆体育施設 <p>【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域で事業を行う際に、県内を7つに区分けしている中から役員を出してもらっているため、その人を中心に事前準備や審判、企画や運営等を行ってもらった。 ◆障害者スポーツ協会と指導者協議会とで、主催・共催を受け持ちながら事業を開催している。 ◆指導員間で情報交換しながら活動の場を広げていった。 <p>【事業成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今年度は障害者だけでなく県民参加型のスポーツ教室も開催し、共にスポーツを楽しむことを楽しめた。また、地域間の格差はあるものの指導員が主体となって企画運営するスポーツ教室も増えてきた。前年に引き続きの事業であるため、指導員の企画運営力も向上した。 ◆障がいがあっても生涯にわたってスポーツを楽しめる児童生徒の育成をめざして実施した。支援学校の実情に応じて実施したため、運営もスムーズに行え、児童生徒もスポーツを体験する機会を持てた。 ◆気軽に参加できるスポーツ大会を開催し、障がいの有無にかかわらず交流を深めた。競技団体から審判員の派遣協力も受けたが、障がい者スポーツ指導員が事前に審判講習会を行って、大会で審判をする大会もあった。 ◆障がい者スポーツボランティアを育成する講習会の参加者が、地域のスポーツ教室にも参加するようになり、障がい者スポーツを支える人材が増えてきた。また、障がい者スポーツ指導員のための医・科学相談会を実施し、指導法等今後の活動に活かせる情報を発信した。 <p>【事業の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆障害者スポーツ教室の開催については、指導者の人材育成と予算の確保が課題としてあげられる。 ◆障害者スポーツ体験事業については、ニーズに合わせた実際に体験してもらった種目の再検討が課題としてあげられる。 ◆障害者交流スポーツ大会の開催については、協会主導ではなく各競技団体と障がい者スポーツ指導員との連携により、自主的な運営ができるようになることが課題としてあげられる。 ◆障害者スポーツ指導者養成及び派遣事業については、新たな人材の確保とスキルアップを目指していきたい。

No.	実施団体名 事業名	実施概要
7	愛媛県障害者スポーツ協会	<p>【地域のスポーツ環境の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆平成23年に「愛媛県スポーツ振興計画（後期）」が策定され、子どもから高齢者・障がい者まで住民誰もが身近に好きなスポーツを気軽に楽しめるよう、地域に根ざしたスポーツの振興を図っている。 ◆平成29年の全国障害者スポーツ大会の開催が決まり、障がい者スポーツの理解と認識を積極的に推進していく必要がある。
	愛媛県障害者スポーツ理解啓発事業	<p>【地域の実情・課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆愛媛県障害者スポーツ協会が平成25年4月に発足し、当初は県からの委託事業の実施が主な部分であった。しかし、自主事業として振興事業を運営する中で障がい者スポーツの普及及び啓発や、指導員の養成及び支援・連携等を強化している。今後は障がい者スポーツへの理解と認識を深めるための事業展開がより必要になってくると考えられる。
	<p>①愛媛県障害者サイクリング大会開催事業 ②愛媛県ハンドサイクル等体験会事業 ③愛媛県障害者スポーツ紹介事業</p> <p>[100万円]</p>	<p>【事業のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆全国障害者スポーツ大会の啓発と、障がい者の心身の健康増進と社会参加に対する理解を図ること。 ◆単独でサイクリングする機会がほとんどないため、その機会の提供と障がい者の健康増進と障がい者間の交流を図ること。 ◆特に外へ出かける機会の少ない肢体不自由者に対して、サイクリングをきっかけとした外出の機会の提供と体を動かすことの楽しさを感じてもらふこと。
		<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆愛媛県障害者サイクリング大会開催事業 しまなみ海道の自転車専用部分及び一般道【今治～（来島海峡）～大島】約20^{キロ}のコースを、普段自転車に乗る機会のほとんどない視覚障がい者や知的障がい者等が、タンデム自転車やハンドサイクル等で、途中の島四国めぐりを巡りながらサイクリングを楽しむ事業。 ◆愛媛県ハンドサイクル等体験会事業 日頃、自転車に乗る機会の少ない障がい者に、ハンドサイクルやハンドバイクの試乗体験を通して、障がい者の自立と支援を行うとともに、障がい者の健康増進と障がい者スポーツの振興を図る事業。 ◆愛媛県障害者スポーツ紹介事業 県内市町等を訪問し、障がい者スポーツ体験会（フライングディスク）を実施。併せて障がい者スポーツの啓発チラシ及びグッズを作成し、県内各市町の福祉団体や障がい者関係機関等に配布する形で障がい者スポーツの普及啓発。
		<p>【連携・協力団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆愛媛県、内子町、西条市、愛南町、愛媛県教育委員会、愛媛県障害者スポーツ指導者協議会、NONちゃん倶楽部、愛媛県庁サイクリングチーム、愛媛銀行サイクリングチーム、フライングディスク協会、理学療法士会 他
		<p>【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆サイクリング大会においては、パイロットとしての役割は勿論、カメラマンやDVD編集係、事前準備等幅広く協力していただき、一つの事業を実施することで今まで以上に連携が図れた。 ◆障害者スポーツ紹介事業においては、フライングディスク協会のサポートや生徒の手足となり動いていただいた。 ◆障がい者スポーツ指導者と障害者スポーツ協会との連携の大切さを改めて感じた。
		<p>【事業成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆外に出る機会が少なく、自転車が初体験の障がい者も多く、ハンドサイクルやハンドバイク、タンデム自転車でサイクリングを楽しむことができたことは有意義で障がい者の人たちも十分満足した様子であり、思い出に残る大変貴重な体験ができた。 ◆啓発チラシ及びグッズを作成し配布することで、平成29年に本県で開催される全国障害者スポーツ大会の普及啓発が一層図れた。また障がい者スポーツ体験会（フライングディスク）で、普段体験したことのない障がい者スポーツを体験することができ、大変有意義な事業となった。 ◆サイクリング関係者や市町の福祉関係部局等、いままでつながりのなかった団体間との連携が新たに生まれるとともに活動の輪が広がり大きな成果があった。
		<p>【事業の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆より多くの方楽しんでもらえるよう実施方法の検討や、より多くのボランティアスタッフ等の協力が得られるよう、応援者の人員の確保が必要である。 ◆紹介できる種目数を増やすために、関係機関との連携の幅を広げる必要がある。

No.	実施団体名 事業名	実施概要
8	福岡県障害者スポーツ協会 福岡県内における 障害者スポーツ振興事業 ①スポーツフェスタ (車椅子バスケットボール等) ②マリンスポーツ教室 ③車椅子ソフトボール教室 [100万円]	【地域のスポーツ環境の特色】 ◆当県では、平成26年に「福岡県スポーツ推進計画」が策定され、「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」「学校や地域における子供のスポーツ機会の充実」「県民に希望や元気を与える競技スポーツの推進」「スポーツの活力を活かした地域の魅力と国際交流の推進」の5つの柱で展開している。その中で、障がい者スポーツの推進では、「場づくり」「人づくり」「しくみづくり」などに取り組み、関係機関と連携しスポーツ活動の推進を行っている。
		【地域の実情・課題点】 ◆これまで、地域におけるスポーツ活動の場づくり、認定校の学生や地域指導者の経験の場づくりなど、より身近な地域でスポーツ活動ができるよう拠点づくりを中心に、「場づくり」「人づくり」「しくみづくり」に取り組んできた。昨年までの本事業の成果もあり、地域での活動も定着しつつあり、参加できる教室等も少しずつではあるが県域に増えてきている。しかし、障がい者が自らスポーツを楽しむ機会はまだまだ少なく、活動の場や種目は限られているのが現状である。
		【事業のねらい】 ◆本事業では、日頃経験することができない「マリンスポーツ」や「車椅子ソフトボール教室」などを実施し、障がい者が自らスポーツを楽しみ、環境（サポート体制）づくりを中心に、イベントや教室の開催を行う。 ◆認定校との連携により、大学のスポーツ施設を活用することで、地域での障がい者スポーツ活動の拠点となり、今後の地域の障がい者スポーツを担う指導者の育成や人材確保につなげる。
		【事業内容】 ◆障害者スポーツフェスタ2015 障がい者スポーツの理解促進を目的に参加型イベント「車椅子バスケットボール」体験、交流試合を認定校の学生を対象に開催した。 ◆マリンスポーツ教室 海に行く機会が減多にない、馴染みがない小中高生の身体障がい児・者を対象に、カヤックや水陸両用バギーの体験、潮干狩り体験を実施した。 ◆車椅子ソフトボール教室（4回） 認定校、総合型地域スポーツクラブ等と連携し、小学生以上の身体障がい児・者が学生などとともに、新しいスポーツを体験するきっかけとして実施した。
		【連携・協力団体】 ◆福岡大学地域ネットワークセンター、福岡大学バスケットボール部、車椅子バスケットボールクラブ「福岡 Breez」、NPO法人福岡海浜スポーツ振興協会、福岡市海浜公園指定管理者 マリゾン・博多湾環境整備共同体事業、福岡県・ハンディキャップスポーツ・サポートの会（F.H.Sの会）、北九州市立大学地域創生学群、総合型地域スポーツクラブ桜花台クラブ
		【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】 ◆3事業とも、障がい者スポーツ指導員が実行委員として参画し、スポーツ協会職員や学生らとともに企画、準備、当日の運営を主体的に行った。
		【事業成果】 ◆障がい者との交流が少ない学生にとって、選手との交流や障がい者スポーツの体験は貴重な経験の場となった。 ◆障がい者スポーツ指導員が若い世代と協働することにより、リーダー的な役割を果たす良い機会になった。 ◆障がいに対する理解やスポーツを実践するうえでの安全に留意すれば、海のスポーツ活動も可能なことを当事者や保護者、サポートスタッフが理解できた。 ◆福岡地区、筑後地区の複数の地域で開催し、車椅子ソフトボールという新しいスポーツを知るきっかけになった。 ◆チームを結成して、車椅子ソフトボール大会への出場するという新たな目標ができた。
		【事業の課題】 ◆障害者スポーツフェスタ2015 興味関心を持った学生は多数いたものの、在学中から積極的に活動する者は少ない。また、理解啓発の場に終わるのではなく、指導者の育成や継続的な活動の場へつなげていくことが課題となった。 ◆マリンスポーツ教室 安全面や事前準備等のために多数のスタッフが必要なこと、また、天候に左右される事業のため、日程調整や実施体制が難しいことが明らかになった。 ◆車椅子ソフトボール教室 継続的な活動につなげていくには、北九州地区のように核となる場や指導者の確保が課題となった。また、予定していた活動場所が確保できず、会場変更、回数の削減をせざるを得なかった。

No.	実施団体名	実施概要
	事業名	
9	鹿児島県障害者スポーツ協会	<p>【地域のスポーツ環境の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆条例に基づいて作成された「スポーツ振興かごしま基本方針」では、障がい者がスポーツに親しむことで自立や社会参加、県民の障がい者への理解が促進され、ノーマライゼーション推進につながると期待されている。 ◆当県では文部科学省系の担当課やスポーツ推進委員等の連携が進んでいる。平成 32 年には、東京パラリンピック開催とともに当県で国体と全国障害者スポーツ大会が開催されるため、今後、障がい者スポーツは、さらに県民から注目されることが予想される。
	鹿児島県障がい者スポーツ普及・振興・強化事業	<p>【地域の実情・課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆平成 32 年に当県で全国障害者スポーツ大会が開催されるが、現在、団体競技のブロック予選には 5 競技 5 種目しか出場できていない。そのため早急な普及・強化が必要である。 ◆知的障がい者のボウリングでは、デュアルレーン方式に対応できる選手が少なく、全国障害者スポーツ大会への選手選考に苦慮している。 ◆県民にとってオリンピックや国体は認知度が高いが、パラリンピックや全国障害者スポーツ大会の認知度は低い。
	①全国障害者スポーツ大会団体種目普及育成事業 (知的障がい者バスケットボール)	<p>【事業のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆当県の知的障がい者バスケットボールは、今年度男子が予選出場を果たしたが、初戦敗退。女子はチームが組めない状況である。この事業を通して選手の発掘や活動拠点としての協力・連携が期待される。 ◆知的障がい者を対象にデュアルレーン方式によるボウリング教室及び大会を開催する。県大会でもデュアルレーン方式を採用できるよう浸透を図るとともに、競技力向上も期待される。 ◆例年、レクリエーション関係者やスポーツ関係者約 3000 人が参加する県民レクリエーション大会において障がい者スポーツブースを設置し、競技体験や展示閲覧を通し障がい者スポーツの理解促進を図る。
	②鹿児島県知的障がい者デュアルレーン方式によるボウリング教室及び大会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆全国障害者スポーツ大会団体種目普及育成事業 特別支援学校や総合型地域スポーツクラブと連携を図り、選手発掘を兼ねた知的障がい者向けのバスケットボール練習会を 13 カ所で開催した後に、審判技術の向上も兼ねて特別支援学校対抗のバスケットボール大会を実施した。また、男子チームの強化を図ることを目的にプロバスケットチームのチャレンジマッチ（前座試合）を 4 回実施した。 ◆知的障がい者ボウリング教室及び大会 知的障がい者によるデュアルレーン方式のボウリング教室を実施後に大会を開催した。 ◆イベントにおける障がい者スポーツブースの設置 県民レクリエーション祭において障がい者スポーツブースを設置し、体験会（競技用車椅子、ポッチャ）及びパネル展示を行った。
	③県民レクリエーション祭における障がい者スポーツブース設置事業 [200 万円]	<p>【連携・協力団体】</p> <p>鹿児島県教育委員会、鹿児島県特別支援学校長会、鹿児島県バスケットボール協会、プロバスケットボールチームレノヴァ鹿児島、特別支援学校、NPO 法人奄美スポーツアカデミー、鹿児島県障害者自立交流センター、FID バスケットボール審判部、鹿児島県手をつなぐ育成会、鹿児島県ボウリング連盟、鹿児島県レクリエーション協会、鹿児島県スポーツ推進委員協議会</p>
		<p>【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆県障害者スポーツ指導者協議会バスケットボール専門部会が当事業の企画運営を担当、指導や大会での審判を行った。 ◆ボウリング大会で総務、司会、各レーンの指導、選手誘導を行った。 ◆スポーツブースの設営、ボールひろい、タイムトライアルコース整備を行った。
		<p>【事業成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆平成 32 年の全国障害者スポーツ大会かごしま大会に向けたスポーツの普及・強化・県民への啓発の一助となった。 ◆本事業により連携した各団体と、今後も手を取り合い、本県の障がい者スポーツ普及・促進・啓発に取り組んでいく契機となった。
		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆鹿児島県は南北 600 km にわたり離島が点在するなど、1 カ所に集まりにくく、障がい者スポーツの普及推進を行うには拠点となる場所の確保や中核人材の発掘・育成が急務となる。全国障害者スポーツ大会開催を契機に、県内全ての障がい者が身近な地域でスポーツに親しめるよう各エリアのスポーツ・福祉関係者の連携作りが課題となる。

No.	実施団体名 事業名	実施概要
10	<p>特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会</p> <p>障がい者スポーツキャラバンおきなわ</p> <p>①うるま市就労支援施設ネットワーク 連絡協議会スポ・レク大会 ②浦添市制 45 周年記念ユニバーサル スポーツフェスタ ③特別支援学校及び小中学校等 障がい者スポーツ体験教室</p> <p>[200 万円]</p>	<p>【地域のスポーツ環境の特色】 ◆当県のスポーツ推進計画における障がい者スポーツの振興においては、特別支援学校等の関係機関と連携し、障がい児等の状態や程度等に適したスポーツの指導に協力し、推進している。 ◆学校等においては、障がい者スポーツ種目の理解不足や用具等の未整備が目立つが、徐々にその解消されつつある。現在、教育委員会への周知を含め、学校、福祉施設等の障がい者に合わせたスポーツの振興に特化するよう努めている。</p> <p>【地域の実情・課題点】 ◆障がい者スポーツ協会が設立されて3年目であるが、関係機関等への周知活動、事業の企画等を啓発し続けているが、各学校においては、県のスポーツ推進計画の周知が十分ではない等の状況にある。都市部の市部等を中心に現在展開している関連の事業について、本事業を活用することにより、さらに周知、啓発の推進の強化が期待される。</p> <p>【事業のねらい】 ◆障がい者のスポーツ活動は、残存機能の向上など心身の健康づくりに大きな影響をおよぼしている。仲間づくりはもとより、施設や病院から離れ、心身の自立により地域で暮らせるとともに、一般の人々と共生する社会の構築につながる。 ◆障がい者スポーツが障がい者だけに限らず、年齢や性別を問わず全ての人が共有できる認識を定着させ、それによりスポーツ指導員やボランティアの育成が広がりを持ち、日常的に地域で展開される社会の構築を目指す。</p> <p>【事業内容】 ◆うるま市就労支援施設ネットワーク連絡協議会スポ・レク大会 市内の知的障がい者施設利用者を対象にスポーツ・レクリエーション大会を開催した。実施種目はダンス、ポッチャ、フライングディスク（アキュラシー）を実施した。事前に参加対象施設職員と事務局で5回の打合せを実施するとともに、ダンスの担当者練習を行った。 ◆浦添市制 45 周年記念ユニバーサルスポーツフェスタ 市内の障がい者及び広く市民を対象にスポーツフェスタを開催した。実施種目は車いすテニス、ポッチャ、ふうせんバレー、ハンドサイクル等を実施した。本事業の計画に浦添市も賛同し、「市制 45 周年」の冠大会としたことで広く市民への理解促進につながった。 ◆特別支援学校及び小中学校等障がい者スポーツ体験教室 スポーツ指導員を派遣して障がい者スポーツ体験教室を実施した。高校（福祉科）では障がい者スポーツの種類、特徴、留意点等の基本的事項の講座及び車いすバスケ、ポッチャ、卓球バレー等の実技指導をした。</p> <p>【連携・協力団体】 ◆うるま市役所、うるま市社会福祉協議会、ネットワーク施設、浦添市役所、浦添市スポーツ推進委員協議会、浦添市内高等学校・福祉施設、各市の小・中・高校、教育委員会等</p> <p>【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】 ◆スポーツ指導員の実演による指導、施設職員と連携し利用者の障がいの程度について事前検討会で協議した。 ◆イベント開催時の参加者の移動補助や各体験教室の指導、サポートに当たった。また、受付等の事務や各競技団体相談ブースや出店サポートも行った。 ◆障がい者スポーツの歴史、パラリンピック競技の種類、日本代表の県選手、各種目の特徴と実施方法について座学を実施、併せて実技指導を実施した。</p> <p>【事業成果】 ◆障がい者福祉施設等の余暇活動（QOL の支援）に、スポーツの活動を通して仲間作りや交流、健康増進に大きな役割を果たした。また、障がい者スポーツをツールとして市町村行政や地域自治会等との連携が促進された。今後、地域の企業団体等にも交流の幅を広げ、ノーマライゼーション理念の推進に寄与するよう拡大の必要がある。 ◆市民活動として展開した意義は行政から高く評価されている。また、既に他市からの実施計画が要望として挙がっている。今後の拡大に当助成の効果は今後にも期待が広がっている。</p> <p>【課題】 ◆各種の事業展開において重要な役割を果たす障がい者スポーツ指導員の数、質、幅の充実が必要である。また、指導員組織の活動体制の構築が今後の大きな課題となる。</p>

Ⅲ まとめと今後の課題

本事業は、障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりをめざすために、障がい者スポーツ指導者の活用を促し、スポーツ教室やスポーツイベント等の開催を通じて、参加した障がい者が、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができること、そして、都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、体制および組織強化に寄与することを目的に 10 団体が事業を実施した。

まず、10 団体の事業内容を整理し、以下のようにまとめた。

※文中で、事業を実施した 10 団体を総称する場合「県障がい者スポーツ協会」とし、県と政令市を含む地域全体をさす場合も「県」と表現した。

1 事業実施の背景

1) 県のスポーツ推進計画に基づいて、障がい者スポーツが推進されている

平成 23 年に制定された「スポーツ基本法」や「スポーツ基本計画」に基づき、各県では、それぞれの実態に応じたスポーツ振興に関する計画が策定され、中でも障がい者スポーツの推進に具体的な目標や取組みを掲げた地域も増えてきている。

しかしながら、県民それぞれのライフステージに沿ったスポーツ振興を謳いながらも、障がい者が身近な場所でスポーツを継続し、楽しむ環境づくりにはまだまだ障壁が多い。

そのような中、本事業での取り組みは、各県の計画を推進するための「仕組み」をつくる役割を担うとともに、県域における地域のスポーツ環境整備へのきっかけづくりとなっていると考えられる。

以下に、今回事業を実施した各県のスポーツ推進に関わる計画やそれに基づいた状況を挙げる。

北海道	平成 25 年より、概ね 5 年間の計画期間を設け「北海道スポーツ推進計画 ～スポーツ王国北海道プラン～」を策定し、子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、道民の誰もがスポーツを通じて健康で心豊かなライフスタイルを築く「生涯スポーツ社会」の実現に向けた取組みが進められている。
新潟県	平成 18 年度から 28 年度までの 11 年間の計画で「県民スポーツ振興プラン」を策定しているが、「障がい者スポーツの地域への浸透と定着」が主な課題となっている。県協会からも委員として参画している。
静岡県	平成 23 年度に策定された「静岡県スポーツ推進計画」に基づき、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進を目標に、障がいのある人とない人が共にスポーツができる機会の提供や、障がい者スポーツ指導員の養成と育成を推進している。
鳥取県	平成 26 年 3 月に策定された「鳥取県スポーツ推進計画」では、様々な年代の人々が年齢や性別、障がい等を問わず、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備し、心豊かな生活を営むことができる社会をめざしている。
島根県	平成 25 年 2 月に「島根県スポーツ推進計画」を策定され、障がい者スポーツに関しては健常者と同様にスポーツに参画する機会を確保するために指導者育成やスポーツを提供する組織・団体を支援・育成することを推進している。
山口県	平成 25 年 3 月に「山口県スポーツ推進計画」を策定され、「輝く、夢あふれるスポーツ元気県やまぐち」の実現をめざし、県民誰もが、ライフステージを通じてスポーツ活動に参画できるという基本方針のもとに、障がい者がスポーツに参加しやすい環境づくりと競技力の向上を推進している。
愛媛県	平成 23 年 3 月に「愛媛県スポーツ振興計画（後期）」を策定し、地域住民誰もが身近に好きなスポーツを気軽に楽しむことができるよう、地域に根ざしたスポーツの振興を図ることをめざしている。
福岡県	平成 26 年 3 月に「福岡県スポーツ推進計画」が策定され、障がい者スポーツにおいては、「場づくり」「人づくり」「しくみづくり」の観点からの取り組みが明記され、関係機関と連携しスポーツ活動が推進されていくことをめざしている。

鹿児島県	平成 22 年 6 月に制定された「スポーツ振興かごしま県民条例」に基づき、「スポーツ振興かごしま基本方針」が策定され、市町村及びスポーツ関係団体等と協力して、障がいの種類及び程度に応じたスポーツ活動への参加の機会の提供していく等、障がい者スポーツが推進されていく中で、障がい者の自立や社会参加、県民の障がいに対する理解が深まるものと期待されている。
沖縄県	平成 25 年 3 月に策定された「沖縄県スポーツ推進計画」の中で、障がい者スポーツ協会の役割が明記され、障がい者スポーツの振興について、指導者の養成や活用、事業の企画・運営や特別支援学校等の関係機関との連携による障がいの状況やニーズに応じたスポーツが推進されるよう取り組まれている。

2) 地域の特性や課題に即した事業が企画実施されている

各県では、それぞれの地域が抱える課題（障がい者層の重度化や高齢化、地域内の移動等アクセス、県域の立地条件、気候など）に向き合い、そこに視点を当てた事業が企画され、地域における障がい者スポーツの環境整備を図るための様々な工夫がみられた。

<本事業での主な取り組み>

静岡県では障がいのある人の重度化・高齢化を踏まえ、障がい者スポーツの普及が進んでいない地域を重点にスポーツ環境を整えることを目的に、県内各地域の公認指導者と地域との連携により、各地域に合った方法での事業展開を行っている。

鳥取県では、障がいの重度化や高齢化、地域の特性として一人一台の車社会のため、公共交通機関の利便性が大変悪く、事業参加の送迎に苦慮する現状があることから、今回、県内にある総合型地域スポーツクラブと連携し、身近な地域でスポーツができる教室を企画し実施した。

島根県では、寒冷地という関係から屋外で障がい者がスポーツを行う機会が少なく、スキー場はあっても障がい者に対する指導者不足、受入れが可能なスキー場等も少ないことから、障がい者スキーの指導者やチェアスキー・バイスキーの介助ができる人の育成とスキー場の障がい者対応を含めた支援方法の啓発を企画し実施した。

山口県では、山口市を中心とした地域での活動は活発ではあるが、地域間の格差があるため、各地域で障がい者スポーツが実践できるよう指導者・支援者・仲間を育成し、地域のスポーツ推進委員等に働きかけて事業を企画し実施した。

2 事業内容の特徴

1) 県域をいくつかに分けし、事業を実施する形態がみられた

事業を実施するにあたり、いくつかの県の事業実施の計画には、「地域差」というキーワードがあった。それを解消するための手段として、広い県域をいくつかに分けし、事業を展開する方法がとられる等、障がいのある方が身近な地域でスポーツに参加し、楽しめる環境づくりには、それぞれの地域の実情に合わせた工夫やねらいが考えられていた。また、本事業終了後にも継続した活動ができる体制を視野に入れ、事業が計画・実施された。

<本事業での主な取り組み>

新潟県では、東西に長い県域を分けし、年度毎に重点地域（平成 25 年度：佐渡地域、平成 26 年度：上越地域、平成 27 年度：中越・一部の下越地域）として定め、計画的に事業を実施し、体制を整備した。

島根県では、県内の多くの障がいのある方にスキーを体験していただくため、スキー教室事業を東部・西部に分けて開催する計画をした。（暖冬の影響で西部地区での開催が困難になったため、西部地区の参加者を東部地区までバス輸送することとして開催をした）

山口県では、山口市を拠点として7ブロックに分けて、各地域で障がい者スポーツの普及・振興を行うとともに、地域の拠点づくりや活動の中心的役割を担える指導者・支援者の育成を実施した。

2) スポーツ推進委員協議会、特別支援学校（学級）、大学、総合型地域スポーツクラブとの連携を推進する動きが出てきた

本事業は、事業を実施する県障がい者スポーツ協会が地域の行政、教育・スポーツ・福祉等の関係団体からの協力を得て、連携をしながら事業を実施している。その連携団体は事業内容に応じて、拡がりを見せている。団体間での障がい者スポーツの理解啓発だけでなく、事業実施団体のパートナーとして企画から運営に至るまで、それぞれの団体の得意分野を活かした連携がみられた。

<本事業での主な取組み>

北海道では、特別支援学級と連携し、児童生徒を対象としたスポーツ教室を21市町で30教室実施した。

新潟県では、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員協議会と連携を図り、スポーツ関係者向けの支援者講習会を開催した。

静岡県ではスポーツ教室事業において、実行委員会形式によりスポーツ推進委員を中心とした運営や競技団体を中心とした運営を行い、それぞれの事業の中で障がい者スポーツ指導員との繋がりを強化した。

鳥取県では、県内の総合型地域スポーツクラブの中で活発に活動している5クラブを指定し、障がい者スポーツ体験教室（全19回）を実施した。

島根県では、特別支援学校との連携をとり、障がい児の参加を呼びかけた。

山口県では、スポーツ教室や体験教室、交流スポーツ大会の開催については特別支援学校（学級）・スポーツ推進委員・総合型地域スポーツクラブとの連携を図り事業を開催した。指導者の養成については、スポーツ推進委員のみの連携ではあったが、教育委員会との連携も含めた事業展開となった。

福岡県では、認定校との連携により、大学のスポーツ施設を活用することで、地域での障がい者スポーツ活動の拠点となり、今後の地域の障がい者スポーツを担う指導者の育成や人材確保につながった。

沖縄県では、市役所と連携し、市制45周年事業の冠大会としてユニバーサルスポーツフェスタを企画したことで、市内福祉施設からの参加者の増加とともにスポーツ推進委員協議会の全面的なバックアップを受けることとなった。

3) 拠点の整備が困難な地域では、出張型の事業が進められている

本事業は、「障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりをめざす」ことを目的に実施しており、身近な地域でのスポーツ環境の整備、「拠点づくり」についても必須課題でもある。

しかし、県域においても地域差がある中で、拠点の整備が難しい地域では、「出張型の事業」を実施することで、地域の障がい者のスポーツ参加の機会を増やすことができ、また地域の障がい者スポーツ指導員の活動の機会の提供や支援者の理解啓発につなげることができた事業もあった。

このような「出張型の事業」を通じて、支援者、理解者を増やし、広めていくことが、「拠点づくり」へのアプローチへとつながっている。

<本事業での主な取組み>

北海道では、14行政区（振興局）の全エリアでの巡回スポーツを開催することにより、障がい者スポーツ普及の地域の偏りを是正し、学校体育館の利用の継続をめざした。

新潟県では、出張型の事業に対する要望に応えるために、県内550名の障がい者スポーツ指導員へアンケート調査を実施した。アンケートは活動実態や要望の把握とともに、情報発信の電子化により、必要な情報の迅速な交換、発信が可能となり、より派遣等の要望に対応できるようになった。

鳥取県では、県内5地区19回のスポーツ教室を行うことで、スポーツ活動への参加機会が少ない、中山間地域の障がい者のスポーツ活動のきっかけづくりとなり、身近な場所で活動できる環境を整備す

ることができた。

山口県では、県協会職員が中心となり7ブロック15か所において障がい者スポーツ教室事業を開催した。

愛媛県では、障がい者スポーツの普及啓発を目的に県内市町3地域計4回訪問し、障害者スポーツ体験会（フライングディスク）を実施した。

沖縄県では、小・中学校への体験教室や高校の福祉教育の授業に障がい者スポーツ指導員を派遣して障がい者スポーツの普及や理解促進に取り組んだ。

4) 事業を拡充するために、特別支援学校や公共体育施設等を有効活用した

本事業では、休日の学校体育施設や公共の体育施設、または海浜公園やスキー場などあらゆる施設での事業展開がみられた。どの施設でも今後、障がい者が継続してスポーツが実施できる環境整備を進めることを視野に入れ、施設側への理解啓発を含めた取組みが実施された。

<本事業での主な取組み>

新潟県では、休日の特別支援学校の体育館を活用したバスケットボール教室を開催し、サークル化した団体が継続して活動し、施設開放につながった。

島根県では、障がい者スキー教室を民間のスキー場を利用して開催したことから、スキー場の職員等においても、障がい者が利用する際の支援方法等の理解につながった。

山口県では、7ブロック15か所で開催した教室事業において、県内の大学や公共の体育館、福祉センター、小・中学校を利用して開催した。

福岡県では、海に行く機会が少ない、馴染みがない身体障がい児・者を対象に、県域の海浜公園を活用し、カヤックや水陸両用バギー、潮干狩りの体験会を開催した。

鹿児島県では、県内13カ所の特別支援学校等でバスケットボール練習会を実施して普及を進めるとともに、成果発表の場として「特別支援学校対抗バスケットボール大会」を開催した。

5) 全国障害者スポーツ大会の開催を控える県では、大会に向けた県民への理解啓発、選手発掘・育成事業等の取組みが広がった

<本事業での主な取組み>

愛媛県では、平成29年の「笑顔つなぐえひめ大会」の普及啓発事業として、障害者スポーツ体験会と合わせてチラシ及びグッズの作成・配布を行った。

鹿児島県では、平成32年の「燃ゆる感動かごしま大会」の開催に向け、県内の未普及競技の選手育成や支援者確保に資する事業を実施するとともに、県民レクリエーション祭において、県民への理解促進を目的とした障がい者スポーツ展示ブースを設置した。

3 組織連携の取組み

各団体は、1. 2)に記したとおり、地域の実情や内容に合わせて連携すべき人や組織、機関の協力を得て事業の運営を行っている。

本事業では、各団体と障がい者スポーツ指導者協議会との連携強化を図ることを事業のねらいの一つにしているが、各団体では、さらに地域の実情や事業の内容に合わせて様々な地域の人や組織と連携し事業を実施していることが明らかになった。

各団体の組織連携を次の表のとおり整理した。

【連携団体 一覧】

◆各都道府県 障がい者スポーツ指導者協議会は除く

No.	連 携 先		北海道	新潟県	静岡県	愛媛県	鳥取県	島根県	山口県	福岡県	鹿児島県	沖縄県
			2年目	3年目	3年目	2年目	初	3年目	3年目	5年目	初	3年目
1	行政関係	14 県・市担当主管課		●	●	●	●		●		●	●
2		7 県・市教育委員会	●	●	●	●			●		●	●
3	教育関係	18 学校長会 (特別支援学級設置校含む)	●									
4		3 特別支援学校長会							●		●	●
5		4 小・中学校・高校	●		●				●			●
6		2 専門学校・大学							●	●		
7		6 特別支援学校・学級	●	●	●	●	●	●				
8		2 特別支援学校体育連盟		●					●			
9	スポーツ関係	23 県・市・町体育協会		●	●							
10		2 県レクリエーション協会					●				●	
11		6 スポーツ推進委員協議会		●	●	●			●		●	●
12		3 一般競技スポーツ団体			●				●		●	
13		1 スポーツ関連団体								●		
14		6 総合型地域スポーツクラブ		●	●		●		●	●	●	
15		2 企業スポーツ団体				●	●					
16		1 プロスポーツ団体									●	
17	医療関係	2 県理学療法士会			●	●						
18	福祉関係	24 県・市・町社会福祉協議会		●	●		●		●			●
19		1 民生委員							●			
20		3 障がい児・者施設					●		●			●
21		4 身体障害者福祉協会		●	●		●		●			
22		3 身体障害者団体連合会		●					●		●	
23		2 知的障害者福祉協会			●				●			
24		3 手をつなぐ育成会			●				●		●	
25		1 精神障害者福祉会連合会 精神保健福祉連合会			●							
26		1 障害者施設協議会		●								
27		1 その他 障がい者団体							●			
28	障がい者 スポーツ関係	12 障がい者競技スポーツ団体		●		●		●	●		●	
29		3 障がい者スポーツ関連団体	●		●					●		
30		2 障がい者スポーツセンター		●							●	
31		2 障がい者スポーツの クラブ・サークル			●					●		
32	その他	6 市・町婦人会							●			
33		2 メディア (新聞社、放送局等)			●	●						
34		2 一般企業	●						●			
35		1 指定管理者								●		
			6	13	17	8	8	4	18	6	12	7

今年度は半数を超える団体が県の福祉行政、教育委員会、特別支援学校・学級、総合型地域スポーツクラブ、社会福祉協議会、障がい者競技スポーツ団体などと連携を図り事業を進めており、この傾向は昨年の本事業とほぼ同様であり、地域における障がい者スポーツの振興には、上記のような関係機関や団体との連携が不可欠であることがうかがえる。

また、本事業を複数年実施している団体は、今年度初めて実施した団体と比べて、連携数が倍近い団体も多く、事業を継続して実施することが地域との連携を深めることに繋がっていると思われる。

しかしながら、複数年実施団体の中には昨年度より連携数が減っている団体もあり、これは自己努力で事業を推進する力がついてきたこと、事業内容に応じて連携先を絞り、効率的に事業が実施できるようになったことがうかがえる。また、新規事業に移行したことによる連携先の変化が考えられる。

4 障がい者スポーツ指導者の活動

本事業は、障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりのために、障がい者スポーツ指導者の活用を促すこととしている。障がい者スポーツ指導者の活動は、単なる補助ではなく、事業の企画や運営、また他団体の指導者とのコーディネーターとしての役割が期待されており、年々そのような取り組みが広がっている。

<本事業での主な取り組み>

北海道では、巡回教室の運営に道内の障がい者スポーツ指導員を対象に公募をし、47名の指導員からの応募があった。スケジュール調整の結果、11回の巡回教室に22名の指導員が参加した。

新潟県では、障がい者スポーツ指導員の派遣依頼が増加し、また、地域のスポーツ関係者が「障がい者スポーツ指導員」の資格取得をめざす効果がみられた。また、講師として、上級障がい者スポーツ指導員、サポート役として初・中級スポーツ指導員を活用した。

静岡県では、障がい者スポーツ指導員が事業の事前準備より関わりを持ち、内容・実施方法・当日の運営等について検討を重ね実施できた。また実施地域に関わりのある指導員を派遣し、関係団体ならびに地域の障がいのある方との連携を図った。

鳥取県では、障がい者スポーツ指導者協議会と県協会、レクリエーション協会が連携し、地域の障がい者スポーツ指導者が教室の指導、用具確保、事務連絡等を担った。

島根県では、障がい者スポーツ指導員が障がい者スキーや介助の方法を体験することによって、今後の教室等のスタッフとして活動できる機会となった。

山口県では、4つの事業すべてに障がい者スポーツ指導員が関わり、ある時は指導員自身が講師となり、特にスポーツ教室の開催においては、企画会議から参加者の募集・プログラムや資料の作成・教室の運営までを協力し、地域における核となっている。

愛媛県では事業の直接的な指導から運営団体のサポートまで、また事前準備からの関わりも含め幅広くその役割を担った。

福岡県では、今回実施した3事業の実行委員会すべてに、障がい者スポーツ指導員が実行委員として参画し、スポーツ協会職員や学生らとともに企画、準備、当日の運営を主体的に取り組んだ。また、障がい者スポーツ指導員が、認定校の学生などの若い世代と協働することにより、リーダー的な役割を経験する良い機会になっている。

鹿児島県では、障がい者スポーツ指導者協議会のバスケットボール専門部会が企画運営を担当し、バスケットボール協会やプロバスケットボールチームと連携を図りながら指導や大会審判等を担当した。

沖縄県では、各種の派遣事業において、障がい者スポーツの歴史や特徴に関する講義や障がい者スポーツ特有の種目の実技指導に障がい者スポーツ指導員が中心的役割を担った。

5 地域振興事業の成果

地域のスポーツ実情は異なっており、各団体が様々なアプローチでスポーツ推進に取り組んでいることがわかる。昨年度からの継続によってみえてきた成果を含めて、下記の4項目について各地域での成果を挙げる。

1) 事業実施が、次の取り組みへとつながった

- ・地域の実情を考慮し、都市部以外の地域で多くのスポーツ教室を行うことで、スポーツ活動への参加機会が少ない中山間地域の障がい者に活動のきっかけ作りとなった。
- ・障がい者スポーツ指導員が、認定校の学生など若い世代と協働することにより、リーダー的な役割を経験し、今後につながる良い機会となった。
- ・障がい児・者に馴染みの少ない海のスポーツ活動でも、障がいに対する理解やスポーツを实践するうえでの安全に留意すれば、十分可能なことを当事者や保護者、サポートスタッフが理解することができた。
- ・障がいのある人もない人も参加できる県民参加型のスポーツ教室も取り入れたことから、参加者が共にスポーツを行うことの楽しさを理解し、企画運営については障がい者スポーツ指導員が行ったことから、地域における核となる人材の育成や障がい者スポーツの普及・振興につながった。
- ・障がい者スキーを通じて、スタッフの育成からスキー場の理解まで幅広い普及につながり、特に、スキー場の職員に対する障がい者スキーの啓発とスタッフによる生活面での支援の方法が理解できた。
- ・障がい者スポーツ紹介事業が、大会参加へのきっかけやボランティア活動へのきっかけとなる可能性が広がった。
- ・関連団体との連携を深める中で初級指導員養成講習会への参加や問い合わせも増え、各市町における障がい者スポーツへの取り組みや相談も増加した。

2) 企画段階から運営まで関わる人材が増えた

- ・障がい者スポーツ指導員が、事業の企画から運営までを行ったことにより、地域における核となる人材が育ってきた。
- ・実行委員会形式で行った事業については、各関係団体間の関わりをより強化することができた。
- ・各事業において、行政、障がい者施設、スポーツ推進委員協議会、学校等との実行委員会形式による連携が進み、細かな配慮の行き届いた企画運営ができた。

3) 多様な人材（スポーツ推進委員、施設職員、学生等）が事業運営、実施にかかわるようになった

- ・スポーツ教室事業において、適切に指導ができる障がい者スポーツ指導員を配置し、また、施設職員等を補助員として活用することで、参加者の安心感が増し安全で楽しい教室運営ができた。
- ・地域のスポーツ推進委員に対する教室を開催したことにより、障がいのある人もない人も共に活動できることを啓発でき、地域における活動の幅が広がったと考える。
- ・県理学療法士会と共催で事業を開催することにより、障がいのある人に対するスポーツ指導を医学的知識の上で捉えてもらうことができた。

4) 事業実施を通じて、新たな連携先が生まれ、他の団体からのアプローチが増えるなど、波及効果がみられた

- ・初めて総合型地域スポーツクラブと連携し事業を実施することができ、クラブ側も障がい者スポーツに初めて触れる方がほとんどであり、新たな連携先が生まれた。
- ・県内2地区で車椅子ソフトボールという新しいスポーツの教室を開催したことで、チームを結成して、車椅子ソフトボール大会への出場をめざすという新たな目標ができた。
- ・サイクリング関係者や市町の福祉関係部局等、今までつながりのなかった団体間との連携が新たに生まれるとともに、活動の輪が広がり、大きな成果があった。
- ・バスケットボール教室や大会、理解促進イベント等の開催を通じて、プロバスケットボールや総合型地域スポーツクラブ、レクリエーション協会などのスポーツ関係団体との連携に繋がった。

本事業の目的である「障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境を作る」という視点で見ると、障がい者が本事業を通じてスポーツに参加する機会が拡充し、個々の生活に今までに増してスポーツが好意的に取り入れられ、スポーツを行うことができた。

また、本事業で上記の「成果」にもあるように、県の障がい者スポーツ協会が中心となり、障がい者スポーツ指導者協議会だけでなく、行政、教育・スポーツ・福祉等の様々な関係団体がそれぞれの専門性を活かして連携、協働することにより、新たな人材、団体との出会いが生まれ、障がい者スポーツの振興体制をさらに大きく構築することができた。まさに「連携」とは、「事業を共に実施しないと構築できない」と言い切れるほど、事業を通じた連携は大きく、強いものになったことがうかがえる。

さらに、連携の形も事業当日の運営支援だけでなく、企画・立案段階から連携し、事業を実施した取り組みも見られた。このことは、今回の事業成果としてだけではなく、事業終了後の継続した活動にもこの成果は引き継がれていくことを期待したい。

6 今後の課題

今後の地域振興事業における課題について、以下のようにまとめた。

1) 事業の中核を担える障がい者スポーツ指導者の育成が急務である

- ・車椅子ソフトボール教室のような新たな取り組みを行ったが、継続的な活動につなげていくには、核となる場や指導者の確保が課題となった。
- ・障がい者スポーツ指導員の育成という、この課題をクリアできるよう継続した事業を実施してきたことから、少しずつではあるが中核となる人材が育ってきたが、全ての県域で色々な事業が開催できるよう、各地域での更なる人材の育成が課題となった。
- ・上級障がい者スポーツ指導員がメインとなり、企画から運営に至るまで全教室に関わったが、少数のメンバーで実施するのではなく、各地域に配置し、育成していくことが課題となった。
- ・地域で活動できる指導員の固定化の解消に向け、各地域における新たなコーディネーター、指導者、支援者の養成をバランスよく推進していくことが課題となった。
- ・スキルアップ講習会、現任研修会の定期的な開催を行い、活動できる（派遣できる）指導員をより多く増員することと同時に、関連団体の連携をコーディネートできる「中核となる指導員」の育成が課題となった。
- ・障がい者スポーツ指導員の派遣ニーズが高まっているが、指導員の数、質、組織の体制整備が急がれている。

2) 一過性の事業ではなく、継続的な事業に繋げていく必要がある

- ・総合型地域スポーツクラブとの連携事業では、参加費やクラブ会員費徴収の課題が明らかになり、受益者負担についての検討が必要となった。また、在宅の障がい者の送迎や指導員の活動しやすい日程と会場確保との調整が課題となった。
- ・認定校を活用した事業を進めたが、興味関心を持った学生は多数いたものの、在学中から積極的に活動する者は少ないことが判った。また、単なる理解啓発の場に終わるのではなく、指導者の育成や継続的な活動の場へつなげていくことが課題となった。
- ・巡回教室を年1回だけでなく、定期的な開催を望む声も出てきているが、限られた予算と少数スタッフでは困難であるため、地域住民が主体となって自主的な活動を行い、小中学校を核とした障がい者スポーツを支援する地域づくりが課題となった。
- ・実施した種目をより多くの方に継続して楽しんでもらえるよう実施方法の検討と同時に、より多くのボランティアスタッフ等の協力が得られるよう、応援者の人員の確保が課題となった。
- ・全国障害者スポーツ大会終了後も、各地域において活動が継続できるよう、県内に複数の拠点場所を確保し、地域の関係機関と連携した取り組みを進めることが課題となった。

3) ニーズに対応した実施種目、方法の検討が必要である

- ・より多くのきっかけ作りのためには、体験や紹介できる種目数を増やす必要があり、関係機関との連携の幅を広げることが課題となった。
- ・重度障がい者が気軽にスポーツに参加できる環境作りへ対応が課題となった。

4) 県内の主要都市だけでなく、市町と連携できる環境整備が必要である

- ・新潟県では、H25年度に本事業で取り組んだ佐渡地域（離島）において、H28年度3月末に「佐渡障がい者スポーツ協会」が連携した行政・団体のもと設立された。
- ・スポーツ環境の普及が進んでいない市町レベル（より狭い範囲）での事業開催を検討する必要性が明らかとなった。

本事業は平成23年度から始まり、5年目を迎えた。その間、多くの関係者、関係団体との連携、協働が生まれ、障がい者のある方のスポーツの振興が進められてきた。そのような中、今回の事業では、いくつかの課題が見えてきた。

一つ目は、地域で障がい者スポーツを振興する上で「事業の中核を担える障がい者スポーツ指導者の育成」についての課題。指導者に求められる資質とは、障がい者との接し方はもちろんのこと、スポーツの指導力、事業の企画運営のマネジメント力や地域で様々な支援者、連携団体と共に取り組んでいく環境を整えるコーディネート力、時にはリーダーシップを発揮し、皆をまとめ、計画を進めていく推進力が求められている。現在、障がい者スポーツ指導員は、初級・中級・上級でそれぞれに役割があるが、地域においては、資格の種別の他に、指導員個々の得意分野や専門性を活かした活動や核となるリーダーを育成し、県域のいくつかの地域に配置することで指導者も身近な地域での活動が活性化することが期待できる。

二つ目は、実施した事業を一過性にせず、「継続的な事業に繋げていく」必要性とその工夫についての課題。今年度、事業を実施した10団体は、それぞれの地域の実情やニーズに合わせて、企画、計画をたて、多くの連携団体と共に事業に取り組み、障がいのある方が身近な地域でスポーツに参加する機会を設け、それぞれの成果を上げた。しかし、事業の成果を継続した活動に移行していく「しくみづくり」は、今後の大きな課題となっており、事業を計画・実施する際からその「しくみづくり」を視野に入れ

ての実施が求められている。今回の事業でも、「しくみづくり」を視野に入れ、計画・実施された取り組みがあったが、本事業の成果が今後数年をかけて地域に根付き、継続した活動に繋がっていくことを期待したい。

三つ目は、事業実施の規模についての課題。今までは、県内の主要都市で事業を実施する事業も多くあり、障がい者スポーツを多くの県民へ理解してもらうには、広報効果等も含め大きな成果があった。また、近年は、多くの団体が県域における障がい者スポーツ振興の地域差について課題を上げ、県域をいくつかの区域に分けることや年度毎に障がい者スポーツの普及振興の重点地域を決め、そこに出向き、計画的に組織的に環境を整備してくことなど、より地域を絞ってコアな環境の中で事業を実施し、事業成果を根付かせ、振興を図る取り組みが出てきた。これは双方にメリット、デメリットがあるが、事業の目的や課題に応じて、使い分ける等、事業計画を作成する際の運営側の視点が見え、課題解消に向けた取り組みが進められていることが見えてきている。

7 おわりに

当協会のビジョンでは、障がいのある人たちが、障がいの種類や程度、さらにはライフステージに応じて、身近な地域でみんなと一緒に日常的にスポーツを楽しめる「生涯スポーツ」の環境の整備を挙げている。そのためには、県障がい者スポーツ協会と障がい者スポーツ指導者、地域の関連団体が連携、協働しながら障がい者スポーツの裾野を広げることが大切である。

本事業を実施する中で、それぞれの地域において取り組みは異なるが、行政、教育・スポーツ・福祉・医療等の関係団体からの支援や協力が少しずつ芽生え、それぞれの団体の関わりが相乗効果を上げ、事業実施の運営基盤を強固にし、地域の課題に向けた取り組みが進められていることがみられた。

本事業を通じて、県障がい者スポーツ協会が地域の統括組織として、地域の関係者を巻き込みながら事業の企画や運営を進めてきた「連携のしくみづくり」は、この地域振興事業の成果と考えられ、今後さらに多くの団体が取り組むことを期待したい。

北海道における障がい児者スポーツの振興事業

◆ 全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業

公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会

平成27年度地域における障がい者スポーツの振興事業「北海道における障がい児者スポーツの振興事業」
全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業報告書

1 はじめに

一人でも多くの障がい児者にスポーツをする楽しさを感じてもらいたいという願いを込めた「全道巡回障がい児者スポーツ教室」は、本道におけるスポーツ振興事業として昨年度スタートした。昨年度に実施した教室は全29回、教室に参加した児童生徒が延べ429名、教員父兄は延べ217名に及び、開催地域は20市町にわたっており、初年度の本教室事業は、所期の目標を達成することが出来た。

二年目となる今年度は、さらなるスポーツ振興を図るため、昨年度の教室事業において明らかになった課題や反省点などを踏まえながら、より効果的で実効性のある教室事業計画を立案した。

スポーツは、身体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、精神的な充足や楽しさ、喜びをもたらすものであり、スポーツに触れる機会の少ない障がい児者に、その時間と場所を提供することができれば、スポーツを日常化する一歩が踏み出せるというコンセプトのもとに、今年度の教室事業をスタートさせた。

2 事業の目的

道内の特別支援教育の就学状況であるが、平成27年5月1日現在、特別支援学校に就学している児童生徒数は5,528名であるのに対し、小中学校の特別支援学級には11,375名もの就学者がおり、その数は、実に特別支援学校の就学者数の二倍にあたる数字になる。

児童生徒数の推移では、平成18年度のデータと比較した場合、特別支援学校は1.2倍の伸びになっているのに対し、特別支援学級は2.0倍の伸びを示しており、特別支援学級の教育ニーズの高さが明らかになっている。

また、特別支援学級の児童生徒数の推移において、障がい種別のデータを見ると、「自閉症・情緒障害」が著しく増えており、現在では全体の56%を占めている状況にある。

これまで、スポーツ大会などの当協会の事業を開催するにあたり、特別支援学級の児童生徒に対しては、積極的な参加のアプローチをしてこなかったため、スポーツ大会に参加する10代の選手の多くは、特別支援学校の児童生徒であった。

特別支援学校に就学する児童生徒の倍の数を有する特別支援学級に対して、重点的かつ集中的にスポーツニーズの掘り起こしをすることによる波及効果は極めて大きいと想定されることから、道内にある特別支援学級の3,762学級（平成27年5月1日現在）を対象としたスポーツ教室を昨年度に引き続き実施することにした。

3 事業の概要

スポーツ教室の実施内容は、基本的には昨年度と同様に、道内の小中学校の特別支援学級に就学する児童生徒を対象に、教室の開催を希望する道内の特別支援学級を巡回するものである。

本年度の巡回教室も、引き続き、自らもNPO法人の代表として障がい児のスポーツ支援事業を主宰し、指導経験が豊富で、長年の実績もある上級障がい者スポーツ指導員1名をメイン講師に固定し、全教室に派遣した。そのことにより、本教室事業のカリキュラムや運営内容については、全教室を通じて高いクオリティを維持することが可能となった。

本年度の教室事業は下表のとおり、道内21市町の特別支援学級において30教室を実施し、延べ567名の児童生徒が教室に参加した。教室を実施するにあたっては、事前に学校の特別支援学級を担当する教諭と綿密な打ち合わせを行い、対象者に応じたメニューを組み立てた。

No.	開催年月日(曜日)	開催場所	参加者数(人)			講師・補助(人)		
			児童生徒	教員父兄	合計	講師	補助	合計
1	H 27. 7. 7 (火)	美唄市立東小学校	12	21	33	2		2
2	H 27. 7. 21 (火)	江別市立江別小学校	8	3	11	2		2
3	H 27. 8. 24 (月)	恵庭市立恵み野旭小学校	6	4	10	2	1	3
4	H 27. 9. 2 (水)	浜頓別町立浜頓別小学校	13	9	22	2		2
5	H 27. 9. 4 (金)	千歳市立北陽小学校	37	7	44	2		2
6	H 27. 9. 7 (月)	当麻町立当麻小学校	12	14	26	2	1	3
7	H 27. 9. 24 (木)	別海町立中春別小学校	4	9	13	2	1	3
8	H 27. 9. 25 (金)	旭川市立東明中学校	8	8	16	1	3	4
9	H 27. 9. 29 (火)	むかわ町立穂別小学校	6	5	11	2		2
10	H 27. 10. 2 (金)	小清水町立小清水小学校	悪天候による臨時休校のため開催中止					
11	H 27. 10. 5 (月)	千歳市立北進小中学校	76	21	97	4	5	9
12	H 27. 10. 6 (火)	江別市立江別第三小学校	15	8	23	1	1	2
13	H 27. 10. 23 (金)	士別市立士別小学校	12	6	18	2		2
14	H 27. 10. 28 (水)	北見市立北中学校	5	4	9	2	2	4
15	H 27. 11. 5 (木)	厚真町立厚真中央小学校	10	17	27	2	2	4
16	H 27. 11. 12 (木)	釧路市立東雲小学校	22	8	30	2		2
17	H 27. 11. 13 (金)	清里町立清里小学校	15	5	20	2		2
18	H 27. 11. 19 (木)	稚内市立潮見が丘中学校	19	12	31	2		2
19	H 27. 11. 25 (水)	江別市立江別第二中学校	49	8	57	3		3
20	H 27. 11. 26 (木)	旭川市立愛宕中学校	9	1	10	2	1	3
21	H 27. 11. 26 (木)	旭川市立永山南小学校	39	12	51	2	4	6
22	H 27. 12. 4 (金)	苫小牧市立凌雲中学校	7	3	10	2	2	4
23	H 27. 12. 8 (火)	釧路町立富原小学校	42	13	55	3		3
24	H 27. 12. 11 (金)	小樽市立長橋中学校	5	8	13	2		2
25	H 27. 12. 15 (火)	今金町立種川小学校	14	4	18	3		3
26	H 27. 12. 15 (火)	今金高等養護学校(2学年)	24	5	29	3		3
27	H 27. 12. 16 (水)	今金高等養護学校(1学年)	22	6	28	3		3
28	H 27. 12. 16 (水)	今金高等養護学校(3学年)	27	4	31	3		3
29	H 27. 12. 17 (木)	せたな町立瀬棚中学校	15	2	17	3		3
30	H 27. 12. 21 (月)	千歳市立祝梅小学校	9	4	13	2	1	3
31	H 28. 1. 27 (水)	旭川市立大有小学校	25	16	41	2	3	5
合 計			567	247	814	67	27	94

4 障がい者スポーツ指導者の活動・役割

メイン講師である上級障がい者スポーツ指導員は、教室の企画立案から進行手順まで主導的な役割を果たし、アシスタント講師やボランティアの補助員に対しては、指導的な立場での確かな助言を行い、全ての巡回教室を統括した。

また、昨年度の教室事業では、道内で活動する日本障がい者スポーツ協会公認の障がい者スポーツ指導員を十分に活用することができなかった点を踏まえ、事業を開始するにあたり、有資格者の障がい者スポーツ指導員を対象として本教室のボランティアを募集したところ、47名の指導員からボランティア登録の応募があり、その内の22名の指導員が、11の教室に補助員として教室事業に参画した。

5 成果および評価

昨年度の教室事業は、新規事業ということもあり、全道の小中学校に本事業の周知が行き渡るまでに数カ月を要し、教室事業が本格的に始動したのが12月以降になったことを反省点として踏まえ、今年度は、教室開催の案内文書を、各小中学校の特別支援学級の担当教諭宛てにダイレクトに送付したところ、昨年度の教室事業の評判が口コミで広がった効果もあって、事業開始早々から順調に教室開催の申込みがあり、当初に計画していた30教室は、秋頃までには全てのスケジュールが埋まり、1月開催の1教室を除き、12月末までに29教室を実施するに至った。

また、今年度の新しい試みとして、特別支援学級と通常学級の合同教室も開催しており、障がいのない児童生徒にとって障がい者スポーツに初めて接したことは、ことのほか新鮮な体験であったようで、両学級の相互理解がより深まり、学校内における共生社会の形成が芽生えた。

教室の終了後、全ての学校においてアンケート調査を実施しており、次のような回答が寄せられている。

○本教室に参加した感想

- ・ 子どもたちにとって、将来的にスポーツが生活の一部になれば良いと思った。
- ・ 運動が好きでない児童でも楽しく活動していた。
- ・ 子どもたちの将来スポーツや余暇活動のひとつとして良い体験ができた。
- ・ スポーツの楽しさを体験することによって、仲間同士のコミュニケーションが高まった。
- ・ 保護者にとっても家庭での運動の習慣を見直す良い機会となった。
- ・ 障がい者スポーツを学習に取り入れるための研修の場となった。

○本教室に参加した児童生徒の反応

- ・ とても楽しんで心に強く残った様子。保護者にも嬉しそうに報告していた。
- ・ ルールを学び、積極的に活動しようとする姿勢が見られた。
- ・ 普段、触れることのできない用具を使うことが出来て、子どもたちが生き生きとしていた。
- ・ 日頃の体育の授業では見られない生徒たちの表情や自主性、積極性が見られた。
- ・ 子どもたちが楽しそうに運動していて、笑顔が溢れていたのが印象的だった。
- ・ 初めてのことに消極的であったり、不安感を持つ児童も、楽しく積極的に活動していた。
- ・ いつもは、途中で集中力が切れてしまうような児童も、最後まで活動に参加していた。
- ・ 自分のできるレベルに合わせて参加していたので、運動の苦手な子どもたちも楽しめた。

○本教室を開催した教育効果

- ・ 普段は別々に学習している子どもたちが、コミュニケーションを高めることができた。
- ・ 通常学級の子どもたちも参加したが、とても反応は良かった。
- ・ 学校の教育の場では経験できない体験をすることができた。
- ・ 新しい運動の経験ができて、運動意欲の向上にも繋がった。
- ・ 学校ではなかなか準備できないような用具で学習することが出来た。
- ・ 異なる学年、異なる学級の構成で参加したが、教室を通じて相互の交流が生まれた。
- ・ ハンドサイクルなどに試乗し、普段は使わない体の部位を使うことができた。

○本教室への意見や要望

- ・ 障がいの理解が深まるように、通常学級と交流して共に体験したい。
- ・ 参加費が無料で、事前準備の必要がないという点で、利用しやすい。
- ・ 障がい特性が多様な生徒たち全員が楽しみ、またやりたいという気持ちになっていた。
- ・ どの子どもも楽しめる簡単なスポーツやゲームを通じたレク的な内容を希望する。
- ・ 教室で紹介していただいたスポーツを学校での学習にも取り入れていきたい。
- ・ 予期不安のある子どもには、最初に教室の内容の大まかな説明があれば良かった。
- ・ スポーツ性の高いメニューも取り入れていただきたい。

6 今後の課題

昨年度の教室事業実施後に課題として挙げていた開催日程の調整や指導者の活用については、今年度の取り組みにおいて適切な改善策を講じたことにより、解消された部分も多かったが、新たな課題も生じている。

(1) 巡回教室後の地域におけるスポーツ振興

教室後に学校の関係者から「大変有意義な教室なので、年に1回ではなく、定期的な開催を望む。」という要望が複数寄せられた。このような意見は、本事業の成果について高い評価をいただいた証左であり、事業の実施者として喜ばしいことではあるが、限られた予算と少数スタッフの中で、定期的な巡回教室の実施は明らかに困難な現状にある。

だとすれば、この巡回教室事業の効果を一過性のものとして終わらせるのではなく、その後も、その地域において、継続したスポーツ振興が図られるような仕組みを作る必要がある。そのためには、この巡回教室の開催を契機として、地域住民が主体となって自主的な活動を行い、小中学校を核とした、障がい者スポーツを支援する地域づくりを推し進めていかなければならない。

今後は、巡回教室事業と並行して、他県の取り組みや他団体の成功事例などを参考にしながら、障がい者スポーツが地域に根付くための方策について、学校関係者や保護者とディスカッションする機会を設けていく考えである。

(2) 特別支援学級と通常学級との合同教室の推進

通常学級との合同教室は、今年度、2学校（中学校1校、小学校1校）において実施したが、両学級に在籍する児童生徒が一緒に同じ場で、障がい者スポーツを学ぶ時間を共有できたことは、大変有意義な試みであった。

今後も、合同教室の学校数を増やす方針であるが、ひとつ留意しなければならない点は、対象

学年を絞る必要があるということだ。今年度において小学校で教室事業を実施した際は、通常学級の児童が低学年であったことから、集中力に欠け、注意も散漫となる児童も多く、教室の内容を理解するには至らず、事業効果は乏しいものとなった。

このことから、小学校において合同開催をする場合は、高学年の学級を対象とすることを原則とし、低学年の学級を対象とする場合には、低学年の児童に応じたメニューを新たに設定する必要がある。

7 おわりに

2020年東京パラリンピックに向け、日本体育大学では、陸上競技部内に「障がい者アスリート部」を昨年発足させ、同大の学生やOBを日本代表として送り出す計画であり、さらには、国内では初となるスポーツ教育を前面に打ち出した同大附属の高等支援学校が、道東の網走市に17年4月に開校する。

東京パラリンピックが追い風となり、国内の障がい者スポーツを取り巻く環境は著しく変化しており、国民的ムーブメントとして社会生活や文化活動にまで影響を及ぼしている。

当協会では、この現象を好機と捉え、昨年度から新たな事業に取り組んでおり、この巡回教室事業もその一環としてスタートした。

試行錯誤の末、二年間の実績を積んだ巡回教室は、教室開催に参加いただいた各学校の関係者の熱心なサポート協力を得て、やっと軌道に乗り始めたところである。この教室事業を継続することの意義を改めて実感しており、今後も、この事業を通じて、本道の全ての障がい児者に身体を動かすスポーツの楽しさを届けたいと願っている。

「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,1		
実施日	2015年7月7日 火曜日						実施時間	10:25 ~ 12:05			2時限	100			
学校名	美唄市立東小学校														
住所	〒	072-0801		北海道美唄市東7条北1丁目3-1											
参加数	生徒	12名		職員	9名		父兄	12名		他	名		合計	33名	
障害種別	知的	7名		発達障害	3名		身体	1名		他	1名		合計	12名	
指導者数	講師	2名		スタッフ	0名		ボランティア	0名		他	0名		合計	2名	
実施内容															
9:30	学校着・挨拶・準備														
10:25	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:45	ハンドサイクル・車椅子体験														
11:10	フライングディスク・ボッチャ														
11:40	ディスクゴルフ大会														
12:00	修了式											修了書			
12:05	終了・片付け														
12:30	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,2		
実施日	2015年7月21日 火曜日						実施時間	10:30 ~ 12:00			2時限	90			
学校名	江別市立江別小学校														
住所	〒	067-0071		北海道江別市萩ヶ岡19											
参加数	生徒	8名		職員	3名		父兄	名		他	名		合計	11名	
障害種別	知的	5名		自閉情緒	3名		身体	0名		他	0名		合計	8名	
指導者数	講師	2名		スタッフ	0名		ボランティア	0名		他	0名		合計	2名	
実施内容															
9:30	学校着・挨拶・準備														
10:30	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:45	ハンドサイクル・車椅子体験														
11:00	フライングディスク・ボッチャ														
11:20	ディスクゴルフ大会														
11:45	修了式											修了書			
12:00	終了・片付け														
12:30	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容											No, 3				
実施日	2015 年 8 月 24 日 金 曜日					実施時間	10:35 ~ 12:10		2時限	95					
学校名	恵庭市立恵み野旭小学校														
住所	〒	061-1374		北海道恵庭市恵み野北4-1-1											
参加数	生徒	6 名		職員	4 名		父兄	0 名		他	0 名		合計	10 名	
障害種別	知的	2 名		自閉症	2 名		身体	1 名		他	1 名		合計	6 名	
指導者数	講師	2 名		スタッフ	0 名		ボランティア	1 名		他	0 名		合計	3 名	
実施内容															
9:35	学校着・挨拶・準備														
10:35	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:45	ハンドサイクル・車椅子体験														
11:10	フライングディスク・ポッチャ														
11:40	ディスクゴルフ大会														
12:10	修了式											修了書			
12:20	終了・片付け														
12:50	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容											No, 4				
実施日	2015 年 9 月 2 日 水 曜日					実施時間	10:30 ~ 12:05		2時限	95					
学校名	浜頓別町立浜頓別小学校														
住所	〒	098-5741		北海道枝幸郡浜頓別町旭ヶ丘3丁目15番地											
参加数	生徒	13 名		職員	6 名		父兄			他	3 名		合計	22 名	
障害種別	知的	5 名		ADHD	3 名		発達	3 名		自閉/他	2 名		合計	13 名	
指導者数	講師	2 名		スタッフ	0 名		ボランティア	0 名		他	0 名		合計	2 名	
実施内容															
9:30	学校着・挨拶・準備														
10:30	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:45	ハンドサイクル・車椅子体験														
11:00	フライングディスク・ポッチャ														
11:20	ディスクゴルフ大会														
12:05	修了式											修了書			
12:10	終了・片付け														
12:40	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No, 5		
実施日	2015 年 9 月 4 日 金 曜 日						実施時間	10:30 ~ 12:00		2時限	90				
学校名	千歳市立北陽小学校														
住所	〒 066-0032 北海道千歳市北陽3丁目9-1														
参加数	生徒	4	名	職員	4	名	生徒 健	33	名	他	3	名	合計	44	名
障害種別	身体	1	名	ダウン症	1	名	脳性マ	1	名	他	1	名	合計	4	名
指導者数	講師	2	名	スタッフ	0	名	ボランティア	0	名	他	0	名	合計	2	名
実施内容															
9:30	学校着・挨拶・準備														
10:30	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:45	ハンドサイクル・車椅子体験														
11:00	フライングディスク・ボッチャ														
11:20	ディスクゴルフ大会														
12:00	修了式														
12:05	終了・片付け														
12:35	学校挨拶・撤収														
	修了書(支援級のみ)														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No, 6		
実施日	2015 年 9 月 7 日 月 曜 日						実施時間	10:30 ~ 12:00		2時限	90				
学校名	当麻町立当麻小学校														
住所	〒 078-1313 北海道上川郡当麻町3条東3丁目13-1														
参加数	生徒	12	名	職員	7	名	父兄	7	名	他		名	合計	26	名
障害種別	知的	4	名	情緒	5	名	身体	2	名	他	1	名	合計	12	名
指導者数	講師	2	名	スタッフ	0	名	ボランティア	1	名	他	0	名	合計	3	名
実施内容															
9:30	学校着・挨拶・準備														
10:30	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:45	ハンドサイクル・車椅子体験														
11:00	フライングディスク・ボッチャ														
11:20	ディスクゴルフ大会														
12:00	修了式														
12:05	終了・片付け														
12:35	学校挨拶・撤収														
	修了書														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No, 7		
実施日	2015 年 9 月 24 日 木 曜日					実施時間	10:30 ~ 12:05		2時限	95					
学校名	別海町立中春別小学校														
住所	〒	086-0653		北海道野付郡別海町中春別西町34											
参加数	生徒	4 名		職員	3 名		父兄	3 名		他	3 名		合計	13 名	
障害種別	身体	1 名		ダウン症	1 名		脳性元	1 名		他	1 名		合計	4 名	
指導者数	講師	2 名		スタッフ	0 名		ボランティア	1 名		他	0 名		合計	3 名	
実施内容															
9:30	学校着・挨拶・準備														
10:30	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:45	ハンドサイクル・車椅子体験														
11:00	フライングディスク・ポッチャ														
11:20	ディスクゴルフ大会														
12:05	修了式											修了書			
12:10	終了・片付け														
12:40	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No, 8		
実施日	2015 年 9 月 25 日 金 曜日					実施時間	10:40 ~ 12:30		2時限	110					
学校名	旭川市立東明中学校														
住所	〒	078-8356		北海道旭川市東光16条7丁目											
参加数	生徒	8 名		職員	8 名		父兄	0 名		他	0 名		合計	16 名	
障害種別	知的	4 名		筋ジス	1 名		発達	2 名		アスペルカ	1 名		合計	8 名	
指導者数	講師	1 名		スタッフ	0 名		ボランティア	3 名		他	0 名		合計	4 名	
実施内容															
9:40	学校着・挨拶・準備														
10:40	開始(生徒挨拶)・準備運動														
11:00	ハンドサイクル・車椅子体験														
11:30	フライングディスク・ポッチャ														
12:00	ディスクゴルフ大会														
12:30	修了式											修了書			
12:35	終了・片付け														
13:05	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容												No,9			
実施日	2015年9月29日 火曜日					実施時間	8:40 ~ 10:15		2 時限	95					
学校名	むかわ町立穂別小学校														
住所	〒	054-0211		北海道勇払郡むかわ町穂別114-2											
参加数	生徒	6名		職員	4名		父兄	0名		他	1名		合計	11名	
障害種別	知的	3名		情緒	3名			0名		他	0名		合計	6名	
指導者数	講師	2名		スタッフ	0名		ボランティア	0名		他	0名		合計	2名	
実施内容															
7:40	学校着・挨拶・準備														
8:40	開始(生徒挨拶)・準備運動														
9:00	ハンドサイクル・車椅子体験														
9:30	フライングディスク・ポッチャ														
9:45	ディスクゴルフ大会														
10:15	修了式											修了書			
10:20	終了・片付け														
10:50	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容												No,10			
実施日	2015年10月5日 月曜日					実施時間	9:30 ~ 12:00		2 時限	150					
学校名	千歳市立北進小中学校														
住所	〒	066-0036		北海道千歳市北栄1丁目2番6号											
参加数	生徒	76名		職員	7名		父兄	0名		他	14名		合計	97名	
障害種別	記入なし														
指導者数	講師	4名		スタッフ	0名		ボランティア	5名		他	0名		合計	9名	
実施内容															
8:30	学校着・挨拶・準備														
9:30	開始(生徒挨拶)・準備運動														
9:45	小学生 ハンドサイクル・車椅子体験							中学生 休憩							
10:00	休憩							ハンドサイクル・車椅子体験							
10:15	フライングディスク														
10:30	休憩														
10:30	フライングディスク														
10:45	ディスクゴルフ大会														
12:00	修了式							12:50		終了					

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,11		
実施日	2015 年 10 月 6 日 火 曜日						実施時間	10:00 ~ 12:00		2 時限	120				
学校名	江別市立江別第三小学校														
住所	〒	067-0002		北海道江別市緑町西1丁目37											
参加数	生徒	15	名	職員	6	名	父兄	0	名	他	2	名	合計	23	名
障害種別	知的	9	名	情緒	5	名	身体	1	名	他	0	名	合計	15	名
指導者数	講師	1	名	スタッフ	1	名	ボランティア	0	名	他	0	名	合計	2	名
実施内容															
9:00	学校着・挨拶・準備														
10:00	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:15	ハンドサイクル・車椅子体験														
10:45	フライングディスク・ポッチャ														
11:15	ディスクゴルフ大会														
12:00	修了式											修了書			
12:05	終了・片付け														
12:35	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,12		
実施日	2015 年 10 月 23 日 金 曜日						実施時間	10:35 ~ 12:10		2時限	95				
学校名	士別市立士別小学校														
住所	〒	095-0003		北海道士別市東3条北3丁目											
参加数	生徒	12	名	職員	6	名	父兄	0	名	他	0	名	合計	18	名
障害種別	知的	2	名	情緒	4	名	ダウン症	1	名	他	5	名	合計	12	名
指導者数	講師	2	名	スタッフ	0	名	ボランティア	0	名	他	0	名	合計	2	名
実施内容															
9:35	学校着・挨拶・準備														
10:35	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:50	ハンドサイクル・車椅子体験														
11:20	フライングディスク・ポッチャ														
11:50	ディスクゴルフ大会														
12:10	修了式											修了書			
12:15	終了・片付け														
12:45	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,13		
実施日	2015 年 10 月 28 日 水 曜日						実施時間	9:45 ~ 11:35		2時限	110				
学校名	北見市立北中学校														
住所	〒 090-0062 北海道北見市美山町南10丁目31番地1														
参加数	生徒	5	名	職員	4	名	父兄	0	名	他	0	名	合計	9	名
障害種別	知的	2	名	情緒	2	名	ADHD	1	名	他	0	名	合計	5	名
指導者数	講師	2	名	スタッフ	0	名	ボランティア	2	名	他	0	名	合計	4	名
実施内容															
8:45	学校着・挨拶・準備														
9:45	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:00	ハンドサイクル・車椅子体験														
10:30	フライングディスク・ボッチャ														
11:00	ディスクゴルフ大会														
11:35	修了式											修了書			
11:40	終了・片付け														
12:10	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,14		
実施日	2015 年 11 月 5 日 木 曜日						実施時間	9:00 ~ 11:00		2 時限	120				
学校名	厚真町立厚真中央小学校(開場：厚真スポーツセンター)														
住所	〒 059-1623 北海道勇払郡厚真町字新町 9 2 番地														
参加数	生徒	10	名	職員	8	名	父兄	9	名	他	0	名	合計	27	名
障害種別	発達	7	名	自閉	2	名	脳性まひ	1	名	他	0	名	合計	10	名
指導者数	講師	2	名	スタッフ	0	名	ボランティア	2	名	他	0	名	合計	4	名
実施内容															
8:00	学校着・挨拶・準備														
9:00	開始(生徒挨拶)・準備運動														
9:15	ハンドサイクル・車椅子体験														
9:45	フライングディスク・ボッチャ														
10:15	ディスクゴルフ大会														
11:00	修了式											修了書			
11:05	終了・片付け														
11:35	学校挨拶・撤収														

教室の様子



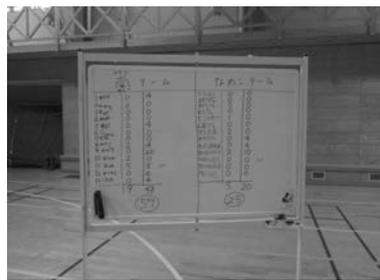
「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,15		
実施日	2015 年 11 月 12 日 木 曜日						実施時間	13:25 ~ 14:55		2時限	90				
学校名	釧路市立東雲小学校														
住所	〒	085-0804		北海道釧路市白樺台3-19-24											
参加数	生徒	22	名	職員	6	名	父兄	0	名	他	2	名	合計	30	名
障害種別	知的	8	名	情緒	14	名		0	名	他	0	名	合計	22	名
指導者数	講師	2	名	スタッフ	0	名	ボランティア	0	名	他	0	名	合計	2	名
実施内容															
12:25	学校着・挨拶・準備														
13:25	開始(生徒挨拶)・準備運動														
13:40	ハンドサイクル・車椅子体験														
14:00	フライングディスク・ポッチャ														
14:10	ディスクゴルフ大会														
14:55	修了式											修了書			
15:00	終了・片付け														
15:30	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,16		
実施日	2015 年 11 月 13 日 金 曜日						実施時間	10:30 ~ 12:00		2時限	90				
学校名	清里町立清里小学校														
住所	〒	099-4405		北海道斜里郡清里町羽衣町33番地											
参加数	生徒	15	名	職員	5	名	父兄	0	名	他	0	名	合計	20	名
障害種別	発達	5	名	自閉	4	名	知的	3	名	身体他	3	名	合計	15	名
指導者数	講師	2	名	スタッフ	0	名	ボランティア	0	名	他	0	名	合計	2	名
実施内容															
9:30	学校着・挨拶・準備														
10:30	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:45	ハンドサイクル・車椅子体験														
11:15	フライングディスク・ポッチャ														
11:25	ディスクゴルフ大会														
12:00	修了式											修了書			
12:05	終了・片付け														
12:35	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,17		
実施日	2015 年 11 月 19 日 木 曜日						実施時間	10:00 ~ 12:00		2時限	120				
学校名	稚内市内中学校合同(稚内・南・東・天北・潮見が丘)														
住所	〒	097-0013		北海道稚内市若葉台1丁目2290番地											
参加数	生徒	19	名	職員	12	名	父兄	0	名	他	0	名	合計	31	名
障害種別	知的	7	名	情緒	10	名		0	名	他	2	名	合計	19	名
指導者数	講師	2	名	スタッフ	0	名	ボランティア	0	名	他	0	名	合計	2	名
実施内容															
9:00	学校着・挨拶・準備														
10:00	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:15	ハンドサイクル・車椅子体験														
10:45	フライングディスク・ポッチャ														
11:15	ディスクゴルフ大会														
12:00	修了式											修了書			
12:05	終了・片付け														
12:35	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,18		
実施日	2015 年 11 月 25 日 水 曜日						実施時間	9:35 ~ 11:25		2時限	110				
学校名	江別市立江別第二中学校														
住所	〒	069-0817		北海道江別市野幌代々木町53番地											
参加数	生徒	10	名	職員	8	名	生徒健	39	名	他	0	名	合計	57	名
障害種別	知的	6	名	情緒	3	名	身体	1	名	他	0	名	合計	10	名
指導者数	講師	3	名	スタッフ	0	名	ボランティア	0	名	他	0	名	合計	3	名
実施内容															
8:00	学校着・挨拶・準備						8:45	3年生通常学級 講義							
9:35	開始(生徒挨拶)・準備運動														
9:50	ハンドサイクル・車椅子体験														
10:20	フライングディスク・ポッチャ														
10:50	ディスクゴルフ大会														
11:25	修了式											修了書			
11:30	終了・片付け														
13:30	学校挨拶・撤収						12:10	3年生通常学級 給食・振返り講義							

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容												No,19			
実施日	2015 年 11 月 26 日 木 曜日					実施時間	9:45 ~ 11:35		2時限	110					
学校名	旭川市立愛宕中学校														
住所	〒	078-8238		北海道旭川市豊岡8条10丁目											
参加数	生徒	9	名	職員	1	名	父兄	0	名	他	0	名	合計	10	名
障害種別	知的	3	名	情緒	6	名		0	名	他	0	名	合計	9	名
指導者数	講師	2	名	スタッフ	0	名	ボランティア	1	名	他	0	名	合計	3	名
実施内容															
8:45	学校着・挨拶・準備														
9:45	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:00	ハンドサイクル・車椅子体験														
10:30	フライングディスク・ポッチャ														
11:00	ディスクゴルフ大会														
11:35	修了式											修了書			
11:40	終了・片付け														
12:00	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容												No,20			
実施日	2015 年 11 月 26 日 木 曜日					実施時間	13:30 ~ 15:10		2時限	100					
学校名	旭川市永山南小学校														
住所	〒	079-8419		北海道旭川市永山9条6丁目1-20											
参加数	生徒	39	名	職員	12	名	生徒健	0	名	他	0	名	合計	51	名
障害種別	一部のみ表記														
指導者数	講師	2	名	スタッフ	0	名	ボランティア	4	名	他	0	名	合計	6	名
実施内容															
12:30	学校着・挨拶・準備														
13:30	開始(生徒挨拶)・準備運動														
13:45	ハンドサイクル・車椅子体験														
14:15	フライングディスク・ポッチャ														
14:45	ディスクゴルフ大会														
15:10	修了式											修了書			
15:15	終了・片付け														
15:45	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,21		
実施日	2015 年 12 月 4 日 金 曜日						実施時間	13:10 ~ 15:00		2時限	110				
学校名	苫小牧市立凌雲中学校														
住所	〒	059-1263		北海道苫小牧市青雲町2-15-3											
参加数	生徒	7 名		職員	3 名		父兄	0 名		他	0 名		合計	10 名	
障害種別	知的	3 名		情緒	4 名			0 名		他	0 名		合計	7 名	
指導者数	講師	2 名		スタッフ	0 名		ボランティア	2 名		他	0 名		合計	4 名	
実施内容															
12:10	学校着・挨拶・準備														
13:10	開始(生徒挨拶)・準備運動														
13:25	ハンドサイクル・車椅子体験														
13:55	フライングディスク・ポッチャ														
14:25	ディスクゴルフ大会														
15:00	修了式											修了書			
15:05	終了・片付け														
15:35	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,22		
実施日	2015 年 12 月 8 日 火 曜日						実施時間	8:40 ~ 10:15		2時限	95				
学校名	釧路町立富原小学校														
住所	〒	088-0618		北海道釧路郡釧路町富原2											
参加数	生徒	42 名		職員	10 名		父兄	0 名		他	3 名		合計	55 名	
障害種別	知的	8 名		情緒	28 名		言語	3 名		他	4 名		合計	42 名	
指導者数	講師	3 名		スタッフ	0 名		ボランティア	0 名		他	0 名		合計	3 名	
実施内容															
8:00	学校着・挨拶・準備														
8:40	開始(生徒挨拶)・準備運動														
8:55	ハンドサイクル・車椅子体験														
9:25	フライングディスク・ポッチャ														
9:45	ディスクゴルフ大会														
10:15	修了式											修了書			
10:20	終了・片付け														
10:50	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容												No,23			
実施日	2015 年 12 月 11 日 金 曜 日					実施時間	10:40 ~ 12:30		2時限	110					
学校名	小樽市長橋中学校														
住所	〒	047-0036		北海道小樽市長橋4丁目16番1号											
参加数	生徒	5 名		職員	8 名		父兄	0 名		他	0 名		合計	13 名	
障害種別	知的	3 名		情緒	2 名			0 名		他	0 名		合計	5 名	
指導者数	講師	2 名		スタッフ	0 名		ボランティア	0 名		他	0 名		合計	2 名	
実施内容															
9:40	学校着・挨拶・準備														
10:40	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:55	ハンドサイクル・車椅子体験														
11:25	フライングディスク・ポッチャ														
11:50	ディスクゴルフ大会														
12:30	修了式											修了書			
12:35	終了・片付け														
13:05	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容												No,24			
実施日	2015 年 12 月 15 日 火 曜 日					実施時間	10:00 ~ 12:00		2時限	120					
学校名	今金町立種川小学校														
住所	〒	049-4324		北海道瀬棚郡今金町字種川369											
参加数	生徒	1 名		職員	4 名		生徒健	13 名		他	0 名		合計	18 名	
障害種別	※全校生徒14名(知的障害1名)														
指導者数	講師	3 名		スタッフ	0 名		ボランティア	0 名		他	0 名		合計	3 名	
実施内容															
9:00	学校着・挨拶・準備														
10:00	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:15	ハンドサイクル・車椅子体験														
10:45	フライングディスク・ポッチャ														
11:15	ディスクゴルフ大会														
12:00	修了式											修了書			
12:05	終了・片付け														
12:30	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,25		
実施日	2015 年 12 月 15 日 火 曜日					実施時間	13:05 ~ 15:00		2時限	115					
学校名	北海道今金高等養護学校2年生														
住所	〒	049-4304		北海道瀬棚郡今金町今金454番地1											
参加数	生徒	24	名	職員	5	名	父兄	0	名	他	0	名	合計	29	名
障害種別	知的	24 名													
指導者数	講師	3	名	スタッフ	0	名	ボランティア	0	名	他	0	名	合計	3	名
実施内容															
12:50	学校着・挨拶・準備														
13:05	開始(生徒挨拶)・準備運動														
13:20	ハンドサイクル・車椅子体験														
13:40	フライングディスク														
14:00	ゴールボール・車椅子リレー大会														
15:00	修了式												修了書		
15:05	終了・片付け														
15:35	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,26		
実施日	2015 年 12 月 16 日 水 曜日					実施時間	10:00 ~ 12:00		2時限	120					
学校名	北海道今金高等養護学校1年生														
住所	〒	049-4304		北海道瀬棚郡今金町今金454番地1											
参加数	生徒	22	名	職員	6	名	父兄	0	名	他	0	名	合計	28	名
障害種別	知的	22 名													
指導者数	講師	3	名	スタッフ	0	名	ボランティア	0	名	他	0	名	合計	3	名
実施内容															
9:00	学校着・挨拶・準備														
10:00	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:15	ハンドサイクル・車椅子体験														
10:40	フライングディスク														
11:00	ゴールボール・車椅子リレー大会														
12:00	修了式												修了書		
12:05	終了														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容												No,27			
実施日	2015 年 12 月 16 日 水 曜日					実施時間	13:05 ~ 15:00		2時限	115					
学校名	北海道今金高等養護学校3年生														
住所	〒	049-4304		北海道瀬棚郡今金町今金454番地1											
参加数	生徒	27 名		職員	4 名		父兄	0 名		他	0 名		合計	31 名	
障害種別	知的	27 名													
指導者数	講師	3 名		スタッフ	0 名		ボランティア	0 名		他	0 名		合計	3 名	
実施内容															
12:50	学校着・挨拶・準備														
13:05	開始(生徒挨拶)・準備運動														
13:20	ハンドサイクル・車椅子体験														
13:40	フライングディスク														
14:00	ゴールボール・車椅子リレー大会														
15:00	修了式											修了書			
15:05	終了・片付け														
15:35	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容												No,28			
実施日	2015 年 12 月 17 日 木 曜日					実施時間	10:25 ~ 12:15		2時限	110					
学校名	せたな町立瀬棚中学校														
住所	〒	049-4827		北海道久遠郡せたな町瀬棚区共和404-1											
参加数	生徒	2 名		職員	2 名		生徒健	13 名		他	0 名		合計	17 名	
障害種別	知的	2 名		※支援級なしのため通常学級1クラスで受講											
指導者数	講師	3 名		スタッフ	0 名		ボランティア	0 名		他	0 名		合計	3 名	
実施内容															
9:00	学校着・挨拶・準備														
10:25	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:40	ハンドサイクル・車椅子体験														
11:20	フライングディスク・ボッチャ														
11:40	ディスクゴルフ大会														
12:15	修了式											修了書			
12:20	終了・片付け														
12:50	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,29		
実施日	2015 年 12 月 21 日 月 曜日						実施時間	10:40 ~ 12:10		2時限	90				
学校名	千歳市立祝梅小学校														
住所	〒	066-0025		北海道千歳市梅ヶ丘3丁目2-1											
参加数	生徒	9 名		職員	2 名		父兄	0 名		他	2 名		合計	13 名	
障害種別	知的	4 名		情緒	5 名			0 名		他	0 名		合計	9 名	
指導者数	講師	2 名		スタッフ	0 名		ボランティア	1 名		他	0 名		合計	3 名	
実施内容															
9:40	学校着・挨拶・準備														
10:40	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:55	ハンドサイクル・車椅子体験														
11:25	フライングディスク・ポッチャ														
11:40	ディスクゴルフ大会														
12:10	修了式											修了書			
12:15	終了・片付け														
12:45	学校挨拶・撤収														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツ振興事業」 全道巡回障がい児・者スポーツ教室 実施内容													No,30		
実施日	2016 年 1 月 27 日 水 曜日						実施時間	10:00 ~ 12:00		2時限	120				
学校名	旭川市立大有小学校														
住所	〒	070-0831		北海道旭川市旭町1条6丁目											
参加数	生徒	25 名		職員	9 名		父兄	7 名		他	0 名		合計	41 名	
障害種別	知的	8 名		情緒	15 名		身体	1 名		他	1 名		合計	25 名	
指導者数	講師	2 名		スタッフ	2 名		ボランティア	1 名		他	0 名		合計	5 名	
実施内容															
9:00	学校着・挨拶・準備														
10:00	開始(生徒挨拶)・準備運動														
10:15	ハンドサイクル・車椅子体験														
10:45	フライングディスク・ポッチャ														
11:15	ディスクゴルフ大会														
12:00	修了式											修了書			
12:05	終了・片付け・撤収・給食														
13:00	学校挨拶														

教室の様子



「平成27年度地域における障がい者スポーツの振興事業」
全道巡回障がい児者スポーツ教室開催要領

1 目的

本道の障がい児者が、身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指し、スポーツ教室を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、自主的、積極的、継続的にスポーツに取り組む意欲を涵養し、障がい児者の健康の維持と社会参加の促進を図ることを目的とする。

2 主催

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益財団法人北海道障害者スポーツ振興協会

3 共催

NPO法人あ・りーさだ、北海道障害者スポーツ指導者協議会

4 開催期日

平成27年6月から平成28年1月末まで（平日の2時間を原則）

5 開催場所

全道の小中学校の体育館（14振興局全エリアの30校予定）

6 教室内容

小中学校の特別支援学級の児童・生徒を対象として、障がい児者に適応したスポーツ種目を紹介するとともに、競技用具や競技ルールの説明を行い、基礎的な実技指導および応用技術やトレーニング方法などについて指導する。

7 講師

正木 英之 氏（NPO法人あ・りーさだ代表理事）ほか

8 参加対象者

- (1) 特別支援学級の児童・生徒
- (2) 小中学校の教職員
- (3) その他関係者

9 参加費

無料

10 申込先

公益財団法人北海道障害者スポーツ振興協会
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 4階
TEL 011-261-6970 FAX 011-261-6201 担当：細田

11 その他

- (1) 参加者は、スポーツに適した服装・上靴を着用すること。
- (2) 主催者は、参加者を対象とした傷害保険に一括加入する。

平成27年度 地域における障がい者スポーツの振興事業

全道巡回 障がい児者スポーツ教室

参加無料
お申込受付中

講師が全道の小中学校に出向き、特別支援学級に就学する児童・生徒を対象としたスポーツ教室を開催します。
この教室に、障がいのない児童・生徒も一緒に参加することもできます。別紙「開催申込書」に必要事項をご記入の上、お申込みください。

開催場所

全道の小中学校
体育館

2015年6月～2016年1月末まで 平日の2時間

参加対象者 特別支援学級の児童・生徒（小中学校の教職員・その他関係者）

参加者は、スポーツに適した服装・上靴の着用をお願いいたします。

障がい児者に適応したスポーツ種目を紹介するとともに、競技用具や競技ルールの説明を行い、基礎的な実技指導および応用技術、トレーニング方法について指導いたします。

講師

- 正木 英之（NPO法人あ・りーさだ 代表理事）ほか
あ・りーさだは、「公益財団法人北海道障害者スポーツ振興協会」との共同事業により、北海道全域の特別支援学級への出張教室を行っています。

教室内容例

- フライングディスク ● ボッチャ ● ゴールボール ● ドッチビー など



お申込先 公益財団法人北海道障害者スポーツ振興協会 担当/細田 (ほそだ)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 4階

TEL 011-261-6970 FAX 011-261-6201

E-mail tanto-3@do-syospo.or.jp

裏面もご覧ください
『よくある質問(FAQ)』

主催/公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益財団法人北海道障害者スポーツ振興協会

共催/NPO法人あ・りーさだ、北海道障害者スポーツ指導者協議会

全道巡回障がい児者スポーツ教室

よくある質問(FAQ)

Q. 「全道巡回障がい児者スポーツ教室」は、どんな内容なのですか？

A. 全道の特別支援学級の児童・生徒を対象としたスポーツ教室です。教室開催を希望する学校に講師を派遣し、学校の体育館で出前教室を行います。

Q. 教室の開催地域に制限はあるのですか？

A. 道内であれば、どの地域にも出向いて教室を開催します。

Q. 教室の開催に費用はかかるのですか？

A. 学校側で負担する費用は一切ありません。教室に参加する児童・生徒や教職員の皆さんの参加も無料です。

Q. 講師はどうするのですか？

A. 当協会と事業提携しているNPO法人あ・りーさだの代表理事である正木 英之氏をはじめ、障がい児者スポーツに精通している指導者数名を現地に派遣します。講師陣は、日本障がい者スポーツ協会の公認指導者の資格を有しています。

Q. 競技用具はどうするのですか？

A. 教室で使用する用具は、現地に赴く講師が全て持参しますので、学校側においてご準備いただく必要はありません。

Q. 教室の開催日はどのように決めるのですか？

A. 学校側のご希望の日時に応じます。ただし、平成27年度の単年度事業ですので、平成28年1月31日(日)までとします。

Q. 教室は、何時間になるのですか？

A. おおよそ2時間を目安としていますが、児童・生徒の体力等を勘案して、時間は弾力的に調整します。

Q. これまでの教室開催の実績は？

A. 今年度が二年目となる事業ですが、昨年度は、全道各域の小中学校において29回の教室を開催しました。

Q. 教室開催の申込方法は？

A. 別紙「開催申込書」に必要事項をご記入の上、お申込みください。教室の詳細については、別途、ご相談いたします。

この教室事業は、北海道特別支援学級設置学校長協会のご協力を得て、実施しております。
是非、この機会に、障がい児者スポーツ教室をご体験ください。

NIIGATA 障がい者スポーツ連携推進・人材育成事業

- ◆ 障がい者スポーツ指導員ネットワーク化事業
- ◆ 特別支援学校連携促進事業
- ◆ スポーツ関係者向け障がい者スポーツ支援者育成事業

新潟県障害者スポーツ協会

平成27年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」
【N I I G A T A障がい者スポーツ連携推進・人材育成事業】事業報告書

1 はじめに

本協会では、平成24年度以降、文科省が実施するレクリエーション協会や総合型地域スポーツクラブとの連携事業、貴協会が委託する「地域における障がい者スポーツの振興事業」の実施を通じて、県内各地域（平成25年度：佐渡地域、平成26年度：上越地域）での障がい者スポーツの普及や支援者・指導者等の養成を重点的に取り組んできた。

上記事業の開催を通じて、大きな課題としてあげられたことは、スポーツの実施場所の整備と共に各地域別に質の高い障がい者スポーツ指導員や支援者をバランスよく養成し、指導者協議会を中心に組織連携機能体制を構築することである。特に、各地域の特別支援学校の体育館やグラウンド等を有効活用すること、各地域の総合型地域スポーツクラブスタッフやスポーツ推進委員等を障がい者スポーツに誘導することは、本件の障がい者スポーツ支援における最重要課題であると考えており、県及び市町村の教育委員会やスポーツ振興担当課、特別支援学校等との連携した事業の実施が強く望まれている。

2 実施目的

本年度は、文科省の「障がい者スポーツ普及促進事業」の受託を活用し、中越地域の振興に取り組んでいるが、これまでの様々な取り組みの中で上げられた課題としては、

- ①場所の確保・整備と共に、質の高い「障がい者スポーツ指導員」や支援者・理解者を地域別にバランスよく養成し、「指導者協議会」を中心に組織連携体制を構築すること
- ②土日・祝日や夏休み等に各地の特別支援学校の体育館やグラウンドを有効活用すること
- ③各地域の総合型地域スポーツクラブのスタッフやスポーツ推進員等を障がい者スポーツに誘導していくこと

であり、上記項目を今後の活動場所や支援人材の拡充を考えていく際の重要課題と考え、本事業の実施に至った。

3 実施内容及び実施体制

(1) 障がい者スポーツ指導員ネットワーク化事業

日 程：平成27年12月7日（各地区指導員代表者会議）、平成28年1月（指導員調査）
会 場：新潟ふれ愛プラザ
参 加 者：11名（内訳：4地区《上越、中越、下越、佐渡》代表の指導員8名、事務局3名）

(2) 特別支援学校連携推進事業

日 程：平成27年8月9日（日）～8月30日（日）※全6回コース
会 場：新潟県立江南高等特別支援学校体育館
参 加 者：185名（内訳：知的障害者144名、引率者41名）
スタッフ：30名（内訳：講師12名、補助員12名、事務局6名） ※延べ人数

(3) スポーツ関係者向け障がい者スポーツ支援者育成事業

①新発田市

日 程：平成 27 年 5 月 31 日（日）

会 場：新発田市カルチャーセンター

参加者：22 名（福祉関係者、総合型地域スポーツクラブ関係者他）

スタッフ：8 名（講師 2 名、補助員 4 名、事務局 2 名）

②長岡市

日 程：平成 27 年 7 月 12 日（日）

会 場：長岡市市民体育館

参加者：121 名（スポーツ推進委員他）

スタッフ：9 名（講師 3 名、補助員 4 名、事務局 2 名）

③十日町市

日 程：平成 27 年 11 月 1 日（日）

会 場：十日町総合体育館

参加者：10 名（総合型地域スポーツクラブ関係者、福祉関係者他）

スタッフ：8 名（講師 2 名、補助員 4 名、事務局 2 名）

4 障がい者スポーツ指導者の活動・役割

当協会の事業全般は、日頃から連携して障がい者のスポーツ振興を推進している「社会福祉法人新潟県身体障害者団体連合会（新潟県障害者交流センター）」や「新潟県障がい者スポーツ指導者協議会」と協働して取り組んでいる。本事業の実施に際しても、上記団体に所属する経験豊富な職員（障がい者スポーツ指導員有資格者）に参画してもらった。

また、アンケート調査の実施により、日頃の活動状況や指導員の専門（得意種目等）メールアドレス等を把握できたことにより、今後、事業案内や協力依頼等の実施が行い易くなった。

5 成果及び評価

①県内約 550 名の「障がい者スポーツ指導員への一斉アンケート調査」の実施による活動実態や要望の把握と共に、情報発信の電子化による低コストでタイムリーな情報収集・交換・発信が可能となった。

②特別支援学校や同 PTA と連携を図って休日の学校体育館を活用したバスケットボール教室を開催した結果、参加者のサークル化により継続的な活動につながった。また、本事業をきっかけに土日・祝日等の特別支援学校の体育施設開放の検討が進み、他の障がい者スポーツ団体の利用も図られるようになった。

③新発田市（下越）の総合型地域スポーツクラブ、長岡市・周辺市町村（中越）のスポーツ推進委員協議会、十日町市（中・上越）の総合型地域スポーツクラブと連携を図って、スポーツ関係者向けの支援者講習を開催したことにより障がい者スポーツへの理解促進が進み、本講習会終了後に下越地域と中越地域で開催した「初級障がい者スポーツ指導員研修会」では支援者講習会を受講した関係者から 21 名の参加があった。

6 今後の課題

平成 25 年度の佐渡地域、平成 26 年度の上越地域、平成 27 年度の中越地域と各年度毎に重点地域を定め、障がい者スポーツの地域振興に取り組む中で、各地域において福祉関係とスポーツ関係の行政・団体間の連携がみられるようになった。その結果、佐渡地域において『佐渡障がい者スポーツ協会』が島内の福祉・スポーツ関係団体の連携により設立されることとなった。このようなモデルを参考に他地域においても組織化に取り組んでいきたいと考える。

そのためには、コーディネーター・支援者・指導者等の養成、拠点となる活動場所の確保、モノの整備、情報収集・発信などの環境整備を、全体のバランスに充分配慮しつつ推進することが不可欠である。今後、このような視点と連携体制の構築を念頭において、根気強く、継続的に地域振興に取り組んでいきたいと考える。

7 おわりに

本県の地域振興の取り組みは 3 年目であるが、継続的な実施の中で、従前の福祉関係の行政・団体等との連携に加え、県・市町村のスポーツ関係の機関・団体等とも協力・連携体制が格段に進んだことがあげられる。当協会と福祉・スポーツ関係の各行政・団体等の間で、電話やメールによる連絡・相談・情報共有が日常的に行われ、スムーズな連絡調整・事業実施が可能な環境ができたと考えられる。また、特別支援学校体育施設の有効活用についても、各地の教育委員会等での検討が始まっている。

今後、培ったノウハウや連携体制をモデルに、他市町村等へも広げられるよう取り組んでいきたいと考える。

(公財) 日本障がい者スポーツ協会委託事業「地域における障害者スポーツの振興事業」
～特別支援学校連携促進事業～

スポーツ教室（知的障害対象：バスケットボール）開催要項

1 目的

特別支援学校及び関連団体との連携により、特別支援学校の体育館やグラウンドを拠点に、スポーツ活動への支援が受けにくい卒業生や在宅の障害児・者がスポーツに親しむための環境整備を行う。

2 実施主体

主 催：新潟県障害者スポーツ協会

共 催：新潟県特別支援学校体育連盟 FID 新潟バスケットボールチーム
新潟県立江南高等特別支援学校放課後活動クラブ KAAC

3 会 場

新潟県立江南特別支援学校体育館

4 日 時

- ① 8月 9日（日） 9：00～12：00
- ② 8月11日（火） 9：00～12：00
- ③ 8月16日（日） 9：00～12：00
- ④ 8月19日（水） 9：00～12：00
- ⑤ 8月26日（水） 9：00～12：00
- ⑥ 8月30日（日） 9：00～12：00 （全6回コース）

5 対 象

新潟県立江南特別支援学校在校生及び卒業生

6 参加費

無 料

7 指 導

FID 新潟監督 樺沢さん、障がい者スポーツ指導員の皆さん

8 申 込

別紙の申込書に必要事項を記入のうえ郵送または Fax で下記までお申込みください。

申込後に当方より連絡がない場合は受講可とご理解ください。（〆切6月末）

新潟県障害者スポーツ協会

〒950-0121 新潟市江南区亀田向陽1-9-1 新潟ふれ愛プラザ

TEL 025(383)3610 Fax 025(381)1478 担当：長谷川

9 その他

- ・動きやすい服装、内履き持参で参加してください。
- ・実施当日は主催者においてスポーツ障害保険を掛け、応急処置は対応しますが、参加における怪我・健康管理等は各自の責任において対応願います。

平成 27 年度「地域における障がい者スポーツ振興事業」（新潟県）

【特別支援学校連携促進事業】

知的障がい者バスケットボール教室（6 回）を実施



【スポーツ関係者向け障がい者スポーツ支援者育成事業】

① 新発田市（総合型地域スポーツクラブとらい夢と連携）

講義、実技（フライングディスク、ボッチャ）を実施



- ② 長岡市（長岡市スポーツ振興課及びスポーツ推進委員連盟と連携）
講義、実技（視覚障がい伴走・音競走、ポッチャ、フライングディスク）を実施



- ③ 十日町市（総合型地域スポーツクラブネージュと連携）
講義、実技（フライングディスク、陸上競技）を実施



「公認障がい者スポーツサポーター」 養成講習会参加者募集

とらい夢では、障がいのある方が身近な場所で積極的にスポーツに取り組むことができるよう、スポーツ指導・支援ができる「障がい者スポーツサポーター」を養成する講習会を開催します

・開催日時 5月31日(日) 9:30～ 受付

10:00～ 開講式

【講義】障がいの理解と配慮、障がい者スポーツの概要

12:00～ 昼休憩 昼食は各自でお願いします。

13:00～ 【実技】障がい者スポーツの体験・支援技術

～スポーツ車いす体験、フライングディスク、ボッチャほか～

15:00～ 閉講式(認定証授与) 終了

・会場 新発田市カルチャーセンター 会議室、体育館

・対象 新発田市内のスポーツ関係者、障がい者福祉施設・団体の関係者、大学生・高校生、
ほか 障がい者スポーツに興味のある方であれば歓迎いたします。

・定員 30名(先着順)

・講師 新潟県障がい者スポーツ指導者協議会 理事長 丸田 徹 氏

指導員 肥田野篤史 氏

・申込 別添の申込書に必要事項を記入のうえで「とらい夢」までお申込みください。

(FAX 郵送可)

主催：NPO 法人新発田市総合型地域スポーツクラブとらい夢 新潟県障害者スポーツ協会

後援：社会福祉法人のぞみの家福祉会

NPO 法人新発田市総合型地域スポーツクラブ「とらい夢」

〒957-0054 新発田市本町 4-16-83 新発田市カルチャーセンター内

TEL：0254-28-7510(月～金 9時～17時30分)

FAX：0254-28-7511 E-mail：info@trymu.com



「公認障がい者スポーツサポーター」 養成講習会参加者募集

中越地域のスポーツ推進委員を対象に、障がいのある方が身近な場所で積極的にスポーツに取り組むことができるようスポーツ指導・支援ができる「障がい者スポーツサポーター」を養成する講習会を開催します

・開催日時 7月12日(日) 12:30～ 受付

13:00～ 開講式

【講義】障がいの理解と配慮、障がい者スポーツの概要

14:30～【実技】障がい者スポーツの体験・支援技術

～フライングディスク、ボッチャ、視覚障がい者の陸上競技～

16:00 閉講式 終了

・会場 長岡市民体育館

・対象 長岡市、柏崎市、出雲崎町、刈羽村のスポーツ推進委員・市町村社会体育担当者

・定員 150名

・講師 新潟県障がい者スポーツ指導者協議会 会長 笠原 康 氏 理事長 丸田 徹 氏
(公財) 日本障がい者スポーツ協会公認スポーツコーチ 大島 さとみ 氏

・申込 別添の申込書に必要事項を記入のうえで「長岡市市民部スポーツ振興課」までお申込みください。(FAX 郵送可)

主催：長岡市、長岡市スポーツ推進委員連盟、新潟県障害者スポーツ協会

後援：(公財) 長岡市スポーツ協会

長岡市市民部スポーツ振興課（担当：丸山）

〒 940-0084 長岡市幸町2丁目1番1号 さいわいプラザ2階

TEL: 0258-32-6117 FAX: 0258-39-2257

「公認障がい者スポーツサポーター」 養成講習会参加者募集

Neige では、障がいのある方が身近な場所で積極的にスポーツに取り組むことができるよう
スポーツ指導・支援ができる「障がい者スポーツサポーター」を養成する講習会を開催します

・開催日時 11月1日(日) 9:30～ 受付

10:00～	開講式 【講義】障がいの理解と配慮、障がい者スポーツの概要
12:00～	昼休憩 昼食は各自でお願いします。
13:00～	【実技】障がい者スポーツの体験・支援技術 ～フライングディスク、陸上競技～
15:00～	閉講式(認定証授与) 終了

- ・会場 十日町市総合体育館
- ・対象 十日町市内のスポーツ関係者、障がい者福祉施設・団体の関係者、大学生・高校生、
ほか 障がい者スポーツに興味のある方であれば歓迎いたします。
- ・定員 20名(先着順)
- ・講師 新潟県障がい者スポーツ指導者協議会 会長 笠原 康 氏
理事長 丸田 徹 氏
- ・申込 別添の申込書に必要事項を記入のうえで「ネージュスポーツクラブ」までお申込み
ください。(FAX 郵送可)

主催：NPO 法人ネージュスポーツクラブ 新潟県障害者スポーツ協会

後援：社会福祉法人 十日町福祉会

NPO 法人ネージュスポーツクラブ
〒948-0072 十日町市西本町1丁目 十日町市総合体育館内
TEL：025-761-7474
FAX：025-752-4375 E-mail：office@neige-sc.jp



静岡県における障がい者スポーツの地域連携振興事業

- ◆ 静岡県地域ネットワーク型
障がい者スポーツトライアル教室開催事業
- ◆ 静岡県障がい者スポーツフォーラム開催事業

公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会



平成27年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」

『静岡県における障がい者スポーツの地域連携振興事業』報告書

1 はじめに

スポーツ環境の特色

「静岡県スポーツ推進計画」において、スポーツは、人格の形成、体力の向上、健康長寿の礎であるとともに、地域の活性化など、明るく豊かで活力に満ちた社会を形成する上で欠かすことのできないものであり、生涯にわたってスポーツに親しむことができる地域社会をつくることは大きな意義を有するとし、基本理念である「『ふじのくに』生涯スポーツ社会の実現」のための基本目標のひとつである「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」として、県民誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも安全にスポーツに親しむことができる環境の整備を目指し、障がいのある人となない人が共にスポーツができる機会の提供や、障がい者スポーツ指導員の養成と育成に努めるとしている。

実情と課題

障がいのある方の重度化・高齢化を踏まえ、スポーツやレクリエーション(人との交流)をしたくても、受入可能な場所が無い、場所はあるが遠くて(ひとりで)行くことが出来ない等の現状を改善するため、県内各地域の公認指導者と地域との連携により、障がい者スポーツの普及が進んでいない地域を重点的にスポーツのできる環境を整えること。

2 事業の目的・ねらい

障がい者スポーツの振興のためには何が必要かを把握し、普及に対する地域格差を少なくすることを目的に、各地域に合った方法で、公認指導者と地域が連携しスポーツ環境を根付かせるとともに生涯スポーツとして継続・発展させること。

一昨年からの課題として、派遣できる指導員が少ないとしてきた。スキルアップ研修を重ねる事も重要ではあるが、県内各地域の実情に合わせて、その地域の指導員が行政、福祉関係団体、医療機関、スポーツ推進委員他と連携して、自主的に教室や大会を開催できるような支援体制を組み立てることに重点を置くことで、スポーツに気軽に親しむ環境を構築したい。

3 実施概要(内容および実施体制等)

【静岡県地域ネットワーク型障がい者スポーツトライアル教室開催事業】

① くさなぎ運動場まつり

日時:平成27年10月10日(土) 10時～15時

会場:草薙総合運動場(静岡市駿河区)

参加者:1000人(マラソン大会参加人数3000人を除く)

スタッフ:90人

静岡県体育協会(主催)指導員と協働で各種スポーツ体験・体力チェックを実施。

同日、少年野球大会やテレビ局主催の6時間リレーマラソンを開催。

障がい者スポーツブースでは、フライングディスク・スラロームを中心に体験。

くさなぎ 運動場まつり 2015年10月10日(土) 10:00~15:30
 草薙総合運動場 観覧料: 無料

気軽にTry!! 体力チェック

高校生7人ス
 練習試合: 草薙山崎高等学校対草薙山崎高等学校
 練習試合: 草薙山崎高等学校対草薙山崎高等学校

障害者スポーツ協会
 障害者スポーツ協会のブースです。

体験！ 運動！ 障害！
 Experience/Exerc/Use/Exerc/Use/Exerc/Use

花と緑の商店・子ども広場
 花と緑の商店・子ども広場

楽しいテレビ
 楽しいテレビ

草薙少年野球大会



② スポーツ & 健康フェスタ in ふじえだ 2015

日時:平成 27年 12月 12日(土) 9時半~15時

会場:静岡県武道館(藤枝市)

参加者:2200人

スタッフ:290人

藤枝市(主催)スポーツ推進委員中心に実行委員会を組織し、各種スポーツ体験と健康チェックを実施。障がい者スポーツコーナーでは、フライングディスク・ボッチャ等を、スポーツ推進委員と障がい者スポーツ指導員が一緒に担当。

スタッフ:80人

静岡 FID サッカー連盟を中心に県内障がい者サッカー競技団体(ID・ソーシャル・デフ・ブラインド・アンブ
 ティー・電動車椅子)と実行委員会を組織し、サッカー協会の協力のもと企画運営。
 昨年度のプレ大会の経験を踏まえ第1回大会を開催。



●静岡障がい者サッカーフェスティバル人会スケジュール

1月9日(土)

カテゴリー	時間	場所
知的・一般エンジョイ、スタンダード	9:30~15:15	東西ピッチ
知的中学生(8人制)	9:30~14:00	清水南陽中学校 決勝、準決のみ西ピッチ
知的小学生	14:00~15:00	西ピッチ
ブラインドサッカー教室※	9:00~10:30	体育館
アンテナサッカー教室※	12:30~15:00	フットサル場2面
電動車椅子サッカー大会、教室※	10:30~15:00	体育館

※教室は、天候に依り休館できます。多くの参加者をお待ちしています。

1月10日(日)

カテゴリー	時間	場所
知的視覚代表vs横浜マリノスフットロ	10:30~13:30	IAIスタジアム
知的及びろう者サッカー	9:30~14:00	東ピッチ
アンテナサッカー練習会	11:00~13:00	西ピッチ
アンテナサッカー東西対抗	13:00~14:00	西ピッチ
ソーシャルフットボール	10:00~14:00	体育館
障がい者サッカー教室(若でつながろう)※	10:00~12:00	フットサル場

●障がい者サッカーについて知ろう!

- 日本知的障がい者サッカー連盟JFFID <http://jffid.com>
- 日本電動車椅子サッカー協会JCPFA <http://www.web-jcfa.jp/>
- 日本脳性麻痺/人形サッカー協会JCPFA <http://jcpfa.jp/>
- ろう者サッカー協会JDFA <http://jdfa.jp/>
- 日本ブラインドサッカー協会JBFA <http://www.b-soccer.jp/>
- 日本アンテナサッカー協会JAFA <http://j-afa.com/wp/>
- 日本ソーシャルフットボール協会JSFA <http://jsfa-official.jp>

●出場・教室参加のお問い合わせ

第1回静岡障がい者サッカーフェスティバル大会実行委員会
 ※担当事務局 公益財団法人静岡県障がい者スポーツ協会
 〒420-0856 静岡県静岡市葵区藤原町1-70 静岡県総合社会福祉会館内
 電話 / 054(221)0062 FAX / 054(651)2600
 E-mail / s-spokyo@za.tnc.ne.jp



④ チャレンジスポーツ in 静岡

日時:平成 28 年 1 月 31 日(日) 13 時～16 時

会場:静岡市中央体育館(静岡市葵区)

参加者:250 人

スタッフ:60 人

スポーツ協会・県理学療法士会と共催で、体力測定・運動能力測定を実施。

各競技団体(空手・陸上・車椅子バスケットボール・卓球・バドミントン・ボッチャ)に依頼し、選手も含めた体験教室を開催。

パラ出場選手による実技指導(陸上)練習会を開催。

チャレンジスポーツ in 静岡
参加者募集!

日時 平成28年1月31日(日) 13時～16時
会場 静岡市中央体育館(静岡市葵区桜町2-80)
対象 どなたでも(参加無料)

体力測定・運動能力測定
体力測定(身体組成測定)
運動能力測定(筋力測定)

障がい者スポーツ体験
空手・陸上競技・車椅子バスケットボール・卓球・バドミントン・ボッチャ

同時開催
静岡市中央体育館
障がい者スポーツ体験教室
10時～17時(11時30分～12時を除く)
参加費 無料
特別講師 水原由明氏(日本障がい者スポーツ協会スポーツ推進委員)

体力測定 記録用紙

実施日:平成28年1月31日(日)

氏名	性別	男女	年齢	才
姓	名	姓	名	才
身長	cm	体重	kg	BMI
項目	記録			
右	1回目	kg	2回目	kg
左	1回目	kg	2回目	kg
平均	kg			
種別	1回目	cm	2回目	cm
	3回目	cm	4回目	cm
	5回目	cm	6回目	cm
平均	cm			
長身体の高さ	cm			
身長伸び	cm			
1)どなたでも(障がい者の方のみ)	印			
測定日	年 月 日			
測定場所	〒 静岡県静岡市葵区 町 番 号			
エプロン	印			

※お帰りの際に一番上の用紙を受付にお返しください。





【静岡県障がい者スポーツフォーラム開催事業】

日時:平成 28 年 1 月 31 日(日) 10 時～12 時

会場:静岡県総合社会福祉会館7階703会議室(静岡市葵区)

主催:静岡県障害者スポーツ指導者協議会

共催:(公財)静岡県障害者スポーツ協会

後援:静岡県 静岡県教育委員会 (公財)静岡県体育協会

しずおか精神障害者スポーツ推進協議会 (福)静岡県社会福祉協議会

(公社)静岡県精神保健福祉会連合会 (福)静岡県身体障害者福祉会

静岡県知的障害者福祉協会 静岡県精神保健福祉協会 静岡県手をつなぐ育成会

静岡新聞社・静岡放送 中日新聞東海本社

参加者:80 名

スタッフ:21 名

協議会とスポーツ協会、精神障害者スポーツ推進協議会にて実行委員会を組織し、検討会開催。
協議会 20 周年を機に記念誌を作成、県内指導員・関連団体へ障害者スポーツの理解啓発と連携
を目的に配布。



4 成果および評価

一昨年度より継続実施していることで、県内各市町の福祉担当課・生涯スポーツ主管課との意思の疎通が図られ、障がいのある方のスポーツ振興の状況の把握と理解が進んだ。また、スポーツ推進委員、理学療法士等関連団体との連携も深まった。初級指導員養成講習会への参加や問い合わせも増えており、各市町における障がい者スポーツへの取り組みや相談も増加した。

各地域に合った方法で、公認指導者と地域が連携してスポーツ環境を根付かせるとともに生涯スポーツとして継続・発展させることを目的に、自主的に教室や大会を開催できるような支援体制を組み立て、スポーツに気軽に親しむ環境を構築したいと考えていたが、県域開催が多く、各地域に根付かせることができなかつたと思われる。しかし、県域で大きく開催したことにより、テレビ・新聞・ラジオでの周知広報ができ、普及啓発には効果があった。また、東京パラへの影響もあり、各市町単位での障がい者スポーツへの予算確保や、各体育施設・体育協会での障がい者スポーツ教室開催への取り組み、指導員・講師派遣の依頼が増えている。

5 今後の課題(障がい者スポーツ指導者の活動・役割)

市町レベル(より狭い範囲)での開催の必要性。重度障害者への対応。活動できる(派遣できる)指導員の固定化。など課題は多いが、まず、計画した目的をより多く達成させる為に事業実施主体であるスポーツ協会事務局体制の強化と、活動していない指導員へのアプローチ、指導員と関連団体の連携をコーディネートできる「中核となる指導員」の育成が急務である。そして、スキルアップ講習会、現任研修会の定期的な開催をするべきだと感じている。

6 おわりに

・3年目の開催となり、過去にトライアル教室に参加してくれた地域から、今度はいつ来てくれますか？との声が多い。県域中央で開催してしまったため、やはり、遠い方は来るのが難しかった。特に障がいのある方のスポーツの環境の無い地域には、来てもらうの前に、こちらからまず行くことが大事だと感じた。また、以前開催した際に実体験した市の障害者福祉(および生涯スポーツ)担当者から、同じようなものを市として開催したいという声が増えてきた。とてもうれしく思うが、そんな時に地域のスポーツ推進委員と障がい者スポーツ指導員が連携して動けるような環境をつくっていかれたらと思う。

・リハビリ科のある病院、診療所への情報提供を続けている効果として、初級指導員養成講習会への医療関係者参加増加と、通院している障がい者となった方へのスポーツ紹介の相談が増えている。

さらに、県理学療法士会との共催等から、障がいのある方に対するのスポーツの力を、医学的知識の上でとらえていただけており、今後、スポーツのもたらす効果をなんらかの形で数値化していきたいと思う。

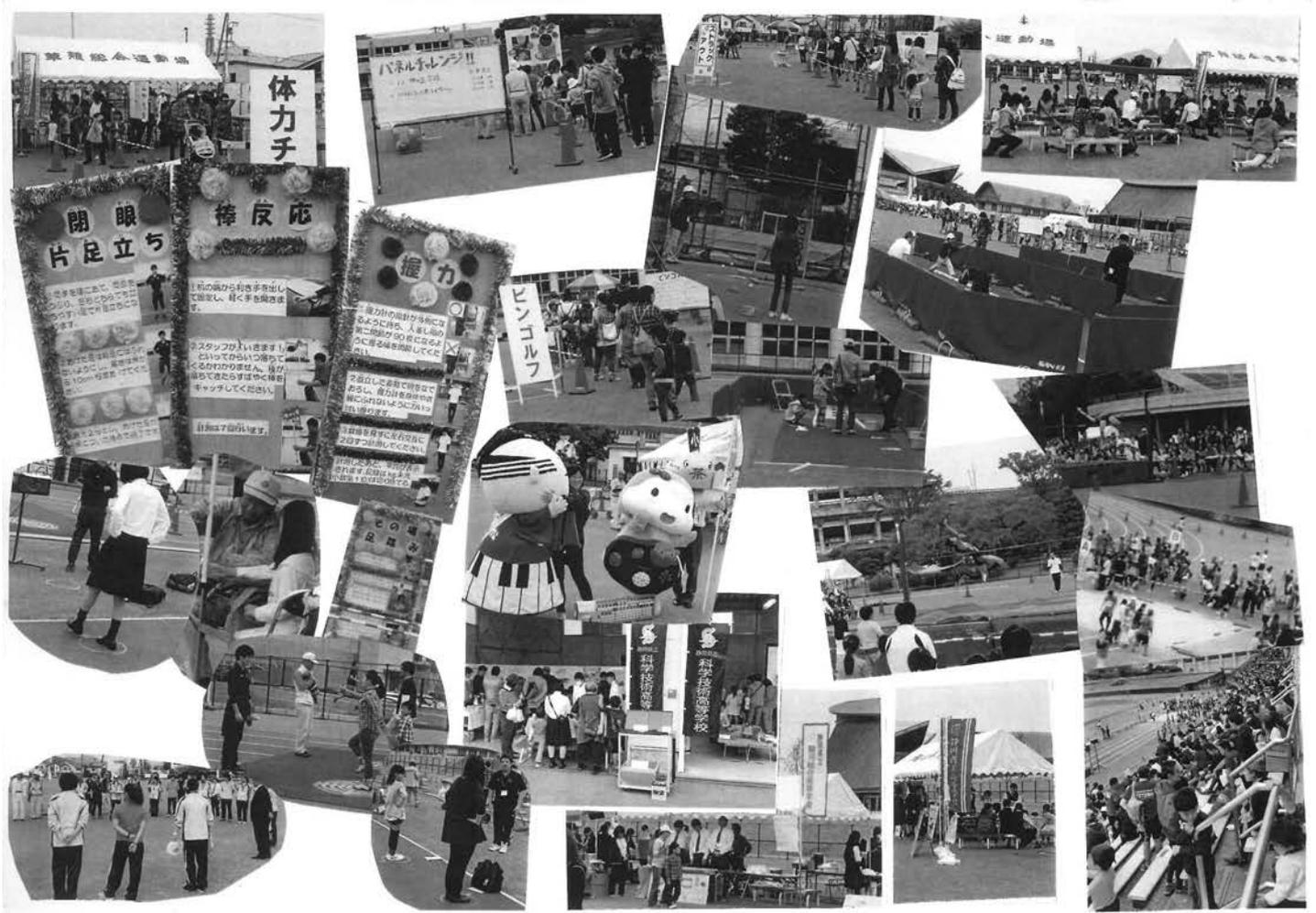
・今年度は、障がいのある方に対して、体力測定からスポーツの必要性を伝えていきたいと考えていたが、まずは現在の状況把握に留まるまでしか出来ておらず、今後もっと勉強をして、各障害別等での測定を実施していきたい。



平成27年度障害者スポーツ振興事業 in 草薙運動場まつり

平成27年10月10日(土) 静岡県草薙総合運動場 (静岡市駿河区栗原)

静岡県障害者スポーツ協会



平成27年度地域における障がい者スポーツの振興事業 スポーツ&健康フェスタ in ふじえだ2015

平成27年12月12日(土) 静岡県武道館 (藤枝市)



バウンドテニス



ノルディック
ウォーキング受付



トランポリン



スポーツ吹矢



ワンバウンド
ふらば〜る
バレーボール



- ① 体成分測定
- ② 歯の健康チェック
- ③ 食育コーナー
- ④ 健康クラブ
- ⑤ 健康チェック
- ⑥ 食品クイズ
最大賞額アンケート
- ⑦ テーピング体験
リハビリ相談
- ⑧ 足裏診断
- ⑨ ストレス解消法と
癒やしのアドバイス
- ⑩ 健康・予防日本一



スポーツ
チャンバラ



卓球



卓球

公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会「平成27年度地域振興事業」
ひろげよう障がいしゃスポーツ in Fujieda
楽しいやアミスクを通して、
フライングディスク・ポッチャなどの
障がいのある方と一緒に参加できるスポーツを体験しよう!!



鳥取県における総合型地域スポーツクラブへの 障がい者参加推進事業

◆障がい者のスポーツ教室事業

一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会

鳥取県における総合型地域スポーツクラブへの障がい者参加推進事業報告書

1 はじめに

鳥取県では、スポーツのさらなる推進を図るため、「鳥取県スポーツ推進計画」を平成26年3月に策定し、様々な年代の人々が年齢や性別、障がい等を問わず、関心、適性等に応じてスポーツに参加することができる環境を整備し、心豊かな生活を営むことができる社会を目指している。

また、同計画では平成26年度から平成35年度までの10年計画を策定しており、目標のひとつとして「地域におけるスポーツ人材の育成とスポーツ環境の充実」を掲げていることから、当協会では県内にある総合型地域スポーツクラブと連携し、身近な地域でスポーツができる教室を企画し実施した。

2 事業の目的

当協会では、障がい者の自立と社会参加を促進し、共生社会の実現に向け様々な事業を展開している。スポーツ教室の開催や支援学校での部活動の推進、生徒の卒業後も活動ができる受け皿として競技団体の育成等に努力している。

しかし、障がいの重度化や高齢化、地域の特性として一人一台の車社会のため公共交通機関の利便性が大変悪く、事業参加の送迎に苦慮する現状がある。そこで、スポーツ活動を実施するにあたり交通手段がなく、参加が難しい障がい者の運動機会を確保する目的で、居住地域で開催している総合型地域スポーツクラブと連携し障がい者スポーツ教室を開催した。

3 事業実施内容及び成果

1) 障がい者スポーツ教室事業

- ・県内の総合型地域スポーツクラブの中で活発に活動している5クラブを指定し、障がい者スポーツ体験教室を実施した。

実施教室①

実施者	NPO法人 地域スポーツ推進協会
事業名	トランポリン教室
日時	11/1(日) 10:00~11:30
会場	ちゃれきんぐ株式会社 体育館
内容	トランポリン教室
参加者	延べ 7名(知的5名、健常者2名)
スタッフ	延べ 4名(初級3名、補助員1名)
連携組織	ちゃれきんぐ株式会社 鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会 鳥取県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

【事業記録】



実施教室②

実施者	若桜町総合型地域スポーツクラブ・若桜クラブ
事業名	障がい者のニュースポーツ教室
日時	10/24(土)・31(土)・11/14(土)・28(土) 12/12(土) 9:30~11:30
場所	若桜町立第2町民体育館
内容	フライングディスク、スポーツ吹き矢、室内グラウンド・ゴルフ、卓球バレー
参加者	延べ 40名(知的18名、身体18名、健常者4名)
スタッフ	延べ 25名(初級9名、補助員16名)
連携組織	若桜町身体障害者福祉協会 鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会 鳥取県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

【事業記録】



実施教室③

事業者	一般社団法人 山陰リンクの会
事業名	山陰リンクの会 障がい者室内グラウンド・ゴルフ教室
日時	10/28(水)・29(木)・11/2(月) 9:50~10:35 10/31(土)・11/7(土) 10:00~12:00
場所	鳥取県立倉吉養護学校 体育館
内容	室内グラウンド・ゴルフ
参加者	延べ 63名(知的45名、身体18名)
スタッフ	延べ 33名(初級4名、補助員29名)
連携組織	鳥取県立倉吉養護学校 倉吉市身体障害者福祉協会 鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会 鳥取県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

【事業記録】



実施教室④

事業者	ほうきスマイリースポーツクラブ
事業名	障がい者レクリエーションスポーツ教室
日時	10/28(水)・11/25(水)・12/16(水) 10:00~12:00
場所	伯耆町総合スポーツ公園、岸本保健福祉センター、町民岸本体育館
内容	グラウンド・ゴルフ(屋外・室内)、卓球バレー、カローリング
参加者	延べ 31名(知的20名、身体3名、精神8名)
スタッフ	延べ 27名(初級9名、補助員18名)
連携組織	特定非営利活動法人伯耆みらい 鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会 鳥取県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

【事業記録】



実施教室⑤

事業者	南部町総合型地域スポーツクラブ スポnet 南部
事業名	なんぶスポーツ・レクリエーション広場
日時	10/7 (水)・11/4 (水)・18 (水) 14:00～15:00 10/21 (水)・12/2 (水) 10:30～11:30
場所	南部町総合福祉センターしあわせ・ほほえみ、南部町民体育館
内容	軽体操、卓球バレー、スポーツ吹き矢、水中運動、ディスクン、エアボールゲーム
参加者	延べ 36名 (知的36名)
スタッフ	延べ 28名 (初級5名、補助員23名)
連携組織	鳥取県西部レクリエーション協会 社会福祉法人鳥取県厚生事業団 西部やまと園 鳥取県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

【事業記録】



4 障がい者スポーツ指導員の活動・役割

地域の指導員を中心に教室運営や指導に積極的に関わり、教室を最後まで進めたことで今後の自信にもなり、居住地域でスポーツ活動への参加の機会が増え指導員活用の場面が広がった。

5 成果及び評価

県内5地区19回のスポーツ教室を行うことで、スポーツ活動への参加機会が少ない中山間地域の方々のきっかけ作りとなり、身近な場所で運動ができる環境を作ることができた。

適切に対応ができる指導員を配置し、施設職員等を補助員として対応して頂くことで、参加者の安心感が増し安全で楽しい教室となった。

また、他団体と新しい連携ができたり、人材の発掘ができた今後につながる成果が得られた。

6 今後の課題

本事業の実施により、スポーツ活動へのきっかけ作りができ、事業終了後も開催を望む声が多く上がっている。しかし、参加費やクラブ会員費徴収の課題が出たことや、在宅者の送迎面の確保や指導員と参加施設の日程調整の課題がある。今後各地域の総合型地域スポーツクラブでの自主運営を長期目標とし財政面の支援やスポーツ指導員の確保の体制を行政機関等と連携し、引き続き整える必要があると考える。

7 おわりに

本事業は、鳥取県で初めて総合型地域スポーツクラブと連携し実施することができた。結果として、初めて障がい者スポーツに触れる方がほとんどであった。

参加者の意見では、障がいのある方々が、自分たちはスポーツに関係ないと思っていたが、障がい者に適したスポーツを体験し楽しさが分かったので、今後も継続的に参加したいと思うとの声を多く頂いた。

今後とも県内の障がい者がスポーツへの興味関心を高めるきっかけとなる事業の実施と、障がい者や高齢者の参加できる生涯スポーツが県内全域へ広がるよう行政や鳥取県体育協会と連携しながら推進していきたい。

事業実績 参加者内訳

全教室数 19回
 参加者延べ 177名
 指導員延べ 117名

実施者	NPO法人 地域スポーツ推進協会
事業名	トランポリン教室
日時	11/1 (日) 10:00~11:30
会場	ちゃれきんぐ株式会社体育館
内容	トランポリン教室
参加者	延べ 7名 (知的5名、健常者2名)
スタッフ	延べ 4名 (初級3名、補助員1名)
連携組織	ちゃれきんぐ株式会社 鳥取県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

実施者	若桜町総合型地域スポーツクラブ・若桜クラブ
事業名	障がい者のニュースポーツ教室
日時	10/24 (土)・31 (土)・11/14 (土)・28 (土)・ 12/12 (土) 9:30~11:30
場所	若桜町立第2町民体育館
内容	フライングディスク、スポーツ吹き矢、室内グラウンド・ゴルフ、 卓球バレー
参加者	延べ 40名 (知的18名、身体18名、健常者4名)
スタッフ	延べ 25名 (初級9名、補助員16名)
連携組織	若桜町身体障害者福祉協会 鳥取県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

事業者	一般社団法人 山陰リンクの会
事業名	山陰リンクの会 障がい者室内グラウンド・ゴルフ教室
日時	10/28(水)・29(木)・11/2(月) 9:50~10:35 10/31(土)・11/7(土) 10:00~12:00
場所	鳥取県立倉吉養護学校体育館
内容	室内グラウンド・ゴルフ
参加者	延べ 63名(知的45名、身体18名)
スタッフ	延べ 33名(初級4名、補助員29名)
連携組織	鳥取県立倉吉養護学校 倉吉市身体障害者福祉協会 鳥取県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

事業者	ほうきスマイリースポーツクラブ
事業名	障がい者レクリエーションスポーツ教室
日時	10/28(水)・11/25(水)・12/16(水) 10:00~12:00
場所	伯耆町総合スポーツ公園、岸本保険福祉センター、町民岸本体育館
内容	グラウンド・ゴルフ(屋外・室内)、卓球バレー、カローリング
参加者	延べ 31名(知的20名、身体3名、精神8名)
スタッフ	延べ 27名(初級9名、補助員18名)
連携組織	特定非営利活動法人伯耆みらい 鳥取県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

事業者	南部町総合型地域スポーツクラブ スポnet 南部
事業名	なんぶスポーツ・レクリエーション広場
日時	10/7(水)・11/4(水)・18(水) 14:00~15:00 10/21(水)・12/2(水) 10:30~11:30
場所	南部町総合福祉センターしあわせ・ほほえみ、南部町民体育館
内容	軽体操、卓球バレー、スポーツ吹き矢、 水中運動、ディスコン、エアボールゲーム
参加者	延べ 36名(知的36名)
スタッフ	延べ 28名(初級5名、補助員23名)
連携組織	西部レクリエーション協会 社会福祉法人鳥取県厚生事業団 西部やまと園 鳥取県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

トランポリン教室開催要綱

- 1 目 的 障がい者が身近な地域でスポーツの喜びや、楽しさに親しむことのできる環境づくりを目的とし、地域のスポーツ振興の統括組織である団体や関係者と連携・協働し、教室等を行うことで地域全体の障がい者スポーツの振興体制の整備に寄与することを目的とする。
- 2 主 催 一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会
- 3 共 催 NPO 法人 地域スポーツ推進協会
ちゃれきんぐ株式会社
- 4 場 所 ちゃれきんぐ株式会社 体育館
〒680-0804 鳥取市田島659
- 5 日 時 平成27年11月1日（日）10時～11時30分
- 6 参加料 無料
- 7 対象者 小・中学生の知的障害、精神障害者で定員は15名
- 8 内 容 トランポリン体験イベント
- 9 その他 傷害保険は当方で加入します
運動のできる服装でお越しください
- 10 申込方法 所定の用紙に必要事項を記入して下記までお申込みください
- 11 申込先 NPO 法人 地域スポーツ推進協会
〒680-0803 鳥取市田島659
TEL0857-24-5507（担当：間屋口）

H27年公益財団法人日本障がい者スポーツ協会委託事業

トランポリン教室

で楽しもう！



日にち 11月1日(日)
時間 10時～11時30分
場所 ちやれきんぐ体育館
定員 15名 定員になり次第締切
参加費 無料 (10/20 締切)

障がい者スポーツ指導員等が指導します。

主催：一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会

共催：NPO法人地域スポーツ推進協会 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 ちやれきんぐ株式会社

申込・問合せ NPO法人地域スポーツ推進協会
鳥取市田島659番地 ☎0857-26-9830 fax0857-26-9920 ✉joinus@npo-sports.com

レッスンの流れ

①

• 準備運動

②

• トランポリン(基本ジャンプ)

③

• トランポリン(応用ジャンプ)

服装



はんそで
OK

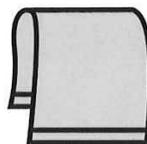
長ズボン

うわばき不要
くつした着用

持ち物



水筒(水分補給用)



タオル(汗拭き用)

会場



鳥取市田島659番地



わくわくトランポリン教室申込用紙

参加者名	保護者名
生年月日 H 年 月 日	性別
ご住所	電話番号
学校名	学年 年
運動をする際の配慮事項	

障がい者のニュースポーツ教室開催要綱

- 目 的 障がい者が身近な地域でスポーツの喜びや、楽しさに親しむことのできる環境づくりを目的とし、地域のスポーツ振興の統括組織である団体や関係者と連携・協働し、教室等を行うことで地域全体の障がい者スポーツの振興体制の整備に寄与することを目的とする。
- 主 催 一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会
- 共 催 若桜町総合型地域スポーツクラブ若桜クラブ
- 場 所 若桜町立第2町民体育館（若桜町若桜501番地）
- 日 時 10/24（土）・10/31（土）・11/14（土）・11/28（土）・12/12（土）
9時30分～11時30分 合計 5回
- 参加料 100円 ※参加当日にお支払い下さい
- 対象者 町内在住の障がい者・支援者の方
- 内 容 フライングディスク・室内グラウンド・ゴルフ・スポーツ吹き矢・卓球バレー
- その他 障害保険は主催者にて加入
運動のできる服装、内履きをご持参下さい

申込み・問合せ先

若桜町総合型地域スポーツクラブ若桜クラブ

〒680-0701

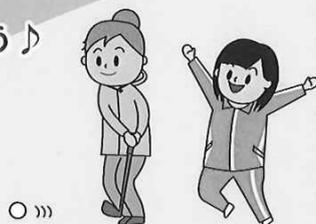
八頭郡若桜町若桜757

TEL0858-71-0253 FAX0858-71-0254

障がい者のニュースポーツ教室

いくつからでも、いつまでも楽しめる
ニュースポーツ！
一緒に楽しみましょう♪

参加費
100円



場所 若桜町立第2市民体育館
(若桜町若桜 501 番地)

時間 9時30分 ▶▶▶ 11時30分
(合計5回)

10/24(土)

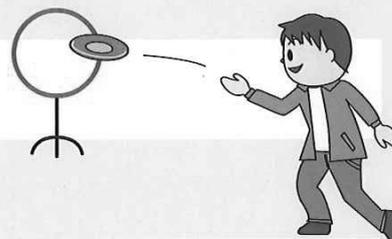
フライングディスク教室 (アキュラシー、ディスタンス)
スポーツ吹矢教室

31(土)

フライングディスク教室 (アキュラシー、ディスタンス)
スポーツ吹矢教室

11/14(土)

室内グラウンド・ゴルフ
スポーツ吹矢教室



28(土)

室内グラウンド・ゴルフ
スポーツ吹矢教室

12/12(土)

フライングディスク教室 (アキュラシー、ディスタンス)
室内グラウンド・ゴルフ

対象者 障がいのある方・支援者の方など

定員 20名(当日参加可能)

「障がい者のニュースポーツ教室」お申し込み

送信先 FAX

▶(0858)71-0254

この申込書に必要事項をご記入の上、ご送信ください。

※参加人数集約のため、第1次び切りを **10月16日(金)** としますが、
定員に空きがあればその後も随時受付をします。

※お預かりした個人情報本スポーツ教室に関するこのみに使用いたします。

お名前		性別	男・女	生年月日	年 月 日
住所				電話番号	
身体状況等					
参加中に起こりうる事故(転倒・他の参加者もしくは、物体との接触、その他を含む全ての危険の可能性)を 承知し、それに対して自らの責任であることに同意します。 平成 年 月 日 お名前					

お申し込み・お問い合わせ先

TEL (0858)71-0253

若桜クラブ事務局(若桜町公民館2階)
E-mail: wakasa.club@sirius.ocn.ne.jp

山陰リンクの会 障がい者室内グラウンド・ゴルフ教室開催要項

目的

障がい者が身近な地域でスポーツの喜びや、楽しさに親しむことのできる環境づくりを目的とし、地域のスポーツ振興の統括組織である団体や関係者と連携・協働し、教室等を行うことで地域全体の障がい者スポーツの振興体制の整備に寄与することを目的とする。

主催

一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会

共催

一般社団法人山陰リンクの会

場所

鳥取県立倉吉養護学校体育館 倉吉市長坂新町1231

日時

平成27年10/28(水)・10/29(木)・11/2(月) 9:50~10:35
10/31(土)・11/7(土) 10:00~12:00

参加料

無料

対象者

市内在住の障害者で室内グラウンド・ゴルフを体験してみたい方

その他

主催者で一括して障害保険へ加入します

当日は動きやすい服装、内履き持参でご参加ください

10月22日(木)申込み締切となりますが、当日参加も可能です

申込み先

一般社団法人山陰リンクの会

〒682-0836 鳥取県倉吉市長坂新町1174

TEL0858-28-3939 (担当:杉谷)

山陰リンクの会



障がい者室内グラウンド・ゴルフ教室



障がいのある方が、身近な地域での交流や楽しさを体験していただける教室を開催します。
お気軽にご参加下さい。



日時 平成27年

10月28日(水)・29日(木)・11月2日(月) 9:50～10:35

10月31日(土)・11月7日(土) 10:00～12:00

場所 鳥取県立倉吉養護学校体育館

倉吉市長坂新町1231

対象者 障がいをお持ちの方、支援者の方など

申込方法 下記申込み用紙に必要事項を記入の上、山陰リンクの会まで
締切 10月22日(木)

**参加料
無料**

申込先 一般社団法人山陰リンクの会

〒682-0836 鳥取県倉吉市長坂新町1174 TEL (0858) 28-3939 (杉谷)

山陰リンクの会 障がい者室内グラウンド・ゴルフ教室

お名前		性別	男・女	生年月日	年 月 日
住所				電話番号	
身体状況等					

この教室に参加するにあたり、健康状態の管理を十分に行い参加します。活動中に起きた事故等による責任は一切クラブ側に請求しません。クラブ側で加入している保険の範囲内で補償を受けることに同意します。

平成 年 月 日

お名前

障がい者レクリエーションスポーツ教室開催要項 (ほうきスマイリースポーツクラブ)

主催	一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会
共催	ほうきスマイリースポーツクラブ・日本障がい者スポーツ協会
場所	伯耆町総合スポーツ公園（伯耆町岸本 B & G 海洋センター）等
参加費	<u>無料</u>

日 程 時間はいずれも 10:00～12:00

	開催日	内容	場所
第1回	10月28日(水)	グラウンドゴルフ 雨天時：カローリング	スポーツ公園 グラウンドゴルフ場 海洋センター 体育館
第2回	11月25日(水)	卓球バレー	岸本保険福祉センター 会議室 (岸本温泉ゆうあいパル)
第3回	12月16日(水)	室内グラウンドゴルフ カローリング 等	町民岸本体育館

参加人数 各回 15 人程度

参加申込 別紙申込書に参加者の氏名をご記入の上、各開催日の1週間前に提出してください。(FAX 可)

※ 申込書に記載された人数をもとに傷害保険に加入しますので、漏れないように記載してください。

※ スタッフ(健常者)の方で参加される方がおられましたら、一緒にご記入ください。

ほうきスマイリースポーツクラブ事務局
担当：瀧田祐吉、遠藤亜矢子
〒689-4102 鳥取県西伯郡伯耆町大原 1006-3
(伯耆町総合スポーツ公園内)
TEL : 0859-68-3775
FAX : 0859-68-4758

なんびスポーツ・レクリエーション広場開催要項

1. 目的

障がいのある方が身近な地域でスポーツの喜びや、楽しさに親しむことのできる環境づくりを目指し、地域のスポーツ振興の統括組織である団体関係者と連携・協働し、教室等を行うことで地域全体の障がい者スポーツの振興体制を整備に寄与することを目的とする。

2. 主催

一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会

3. 共催

NPO 法人南部町総合型地域スポーツクラブ スポ net なんび

4. 場所

南部町民体育館	南部町法勝寺270
南部町総合福祉センターしあわせ	南部町法勝寺331-1
南部町総合福祉センターほほえみ	南部町法勝寺331-1

5. 日時

平成27年10月 7日(水)	14:00~15:00	軽体操・レクリエーション
10月21日(水)	10:30~11:30	ニュースポーツ
11月 4日(水)	14:00~15:00	水中運動
11月18日(水)	14:00~15:00	軽体操・レクリエーション
12月 2日(水)	10:30~11:30	ニュースポーツ

6. 指導者

スポ net なんび運動指導員・鳥取県レクリエーション協会・関係施設指導員
鳥取県障がい者スポーツ協会指導員

7. 参加料

無料

8. 対象者

町内在住の障がい者、支援者の方

9. 申込先

NPO 法人南部町総合型地域スポーツクラブ スポ net なんび

〒683-0351

鳥取県西伯郡南部町法勝寺331-1 南部町総合福祉センターしあわせ内

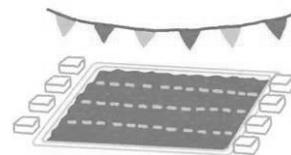
Tel0859-66-5400 fax0859-66-2901

なんぶスポーツ・レクリエーション広場の開催

スポーツの秋。

一緒に身体を動かして気持ちの良い汗をかきませんか？

運動が苦手な方でもできる軽い体操やニュースポーツを中心に体験していただける広場を開催します。 お気軽にご参加ください。



開催スケジュール

日にち	時間	内容	場所
10月7日(水)	14:00~15:00	軽体操・レクリエーション ～座ってできる簡単な体操 etc～ ★指導：スポ net なんぶ指導員	ほほえみ
21日(水)	10:30~11:30	ニュースポーツ ～卓球バレー・スポーツ吹き矢～ ★指導：レクリエーション協会指導員 障がい者スポーツ協会指導員	町民体育館
11月4日(水)	14:00~15:00	水中運動 ～ブカブカ浮いて水で動こう～ ★指導：スポ net なんぶ指導員	しあわせプール
18日(水)	14:00~15:00	軽体操・レクリエーション ～座ったまま単体操でリフレッシュ～ ★指導：スポ net なんぶ指導員	ほほえみ
12月2日(水)	10:30~11:30	ニュースポーツ ～卓球バレーとスポーツ吹き矢で対戦～ ★指導：障害者スポーツ協会指導員	町民体育館

対 象 障がい者の方、支援者の方など

定 員 15 名

参加費 無料

申込方法 下記申込み用紙に必要事項を記入の上、スポ net なんぶまでお申し込みください。

*参加人数集約のため、第1次〆切を9月25日(金)としますが、
定員に空きがあればその後も随時受付をします。

申込・問合せ先 スポ net なんぶ tel 0859-66-5400 fax 66-2901



「なんぶスポーツレクリエーション広場」申込用紙

お名前		性別	男・女	生年月日	年 月 日
住所				電話番号	
身体状況等					

この広場に参加するにあたり、健康状態の管理を十分に行い参加します。活動中に起きた事故等による責任は一切クラブ側に請求しません。クラブ側で加入している保険の範囲内で補償を受けることに同意します。

平成 年 月 日 お名前 _____

島根県における冬季障がい者スポーツの理解・ 障がい者スポーツの振興事業

- ◆ スキー・スノーボード教室の開催
- ◆ チェアスキー・バイスキースタッフ研修会

公益財団法人島根県障害者スポーツ協会

I 事業を企画した経緯

日本海側に位置する島根県は、冬の寒さは厳しく、多くの雪が降る。

そのため、冬季には屋外スポーツはあまり行われず、障がい者が年間を通じてスポーツに親しむという風土が希薄である。

当県には、スキー場が4か所存在し、県内外から多くのスキーヤー、スノーボーダーが来県するが、スキー場自体が障がい者を受け入れる体制がソフト・ハード面ともに脆弱であることも冬季スポーツに取り組む障がい者が少ない一因であると考えられる。

そこで、障がい者が通年でスポーツを楽しむことを普及啓発する観点からも、冬季スポーツに恵まれた環境である本県の特性を生かし、冬季スポーツへの取り組みを促進するとともに、スキー場側にも障がい者利用に対する配慮を学ぶ機会を創出する機会の必要性を感じていた。

II 事業の目的・ねらい

身近な地域で冬季スポーツを経験する機会を提供することで、冬季スポーツの魅力を感じてもらい、冬季スポーツへ取り組む足がかりとして実施した。

また、障がい者が冬季スポーツをはじめするためには、それを指導・介助ができるスタッフが必要であるから、スタッフ育成を目的とし、環境整備を図った。

さらに、スキー場の協力を得て、事業実施することで障がいの理解を促進し、スキー場のソフト・ハード両面の環境整備ならびに来場する方々への障がい者のスポーツへの理解を促進することを目的に実施した。

III 実施概要

スキー・スノーボード教室（チェアスキー・バイスキースタッフ研修会）

詳細については、下記のとおり。

■内容等

日時	場所	受講者数等	連携・協力団体
平成27年 12月19日（土） ～ 12月20日（日）	琴引フォレスト パークスキー場 （飯南町）	30名 ・参加者9名 ・スタッフ19名 ・事務局2名	琴引フォレストパークスキー場、日本身体障害者スキー協会、島根県スキー協会、特別支援学校、島根県障がい者スポーツ指導者協議会
注） 平成28年 1月16日（土） ～ 1月17日（日）	琴引フォレスト パークスキー場 （飯南町）	11名 ・参加者4名 ・スタッフ5名 ・事務局2名	琴引フォレストパークスキー場、島根県スキー協会、特別支援学校、島根県障がい者スポーツ指導者協議会

注）当初予定では、平成27年12月26日（土）～27日（日）に旭テングストーンスノーパークにて、島根県西部地区の開催分として実施予定であったが、雪不足により開催できず、日程および場所を急遽変更し、1月に実施した。

IV 障がい者スポーツ指導者の活動・役割

障がい者スポーツ指導者は、スタッフとしてこの教室に参加し、バイスキーの研修を受講した。受講を通じて、バイスキーの介助方法を学び、ある程度の介助ができるようになった。

また、宿舎等においても食事・入浴の介助等を通じて、様々な障がい者の生活場面を目にすることで、障がい者スポーツ指導者としてのスキルアップにつながった。

V 成果および評価

障がいの種別、程度を問わず、冬季スポーツの場を提供できたことは、障がい者が今後スキーなどの冬季スポーツに取り組むきっかけづくりになった。

また、12月開催のスキー・スノーボード教室は、多くのスタッフ参加があり、今後冬季スポーツを支える支援者の育成につながった(1月開催分については、日程変更によりスタッフ数が半減)。

さらに、スキー・スノーボード教室を開催するにあたり、事前にスキー場関係者ととも会場での点検および研修を行ったことは、スキー場関係者へのバリアフリーの必要性や障がい理解につながり、障がい者を受け入れる体制づくりへつなぐことができた。

VI 今後の課題

今回の参加者数や参加の障がい種別から推測されることは、本県においては、冬季スポーツになじみがないことやスキーなどできないと思っている方が多いと考えられる。

そこで、より多くの方が冬季スポーツに親しむことができるよう雪遊びなどを取り入れ、幼少期からの参加を促したり、障がい種別・程度を問わず、スキーを行なうことが可能であることを啓発していく必要がある。

また、今回はバイスキーの研修のみであったが、多様な障がい者の参加に対応するため、スタッフのレベルアップを図っていく必要がある。

VII おわりに

冬季スポーツの環境(設備など)は、障がい者には大変厳しいものであった。しかし、今回の教室を開催するにあたり県内3か所のスキー場を視察し意見交換をおこなったが、スキー場は障がい者の受け入れを積極的にしていきたいとのことであった。

また、開催に対してもたいへん協力的であった。

今後は、この事業を通じて作り上げた関係を活かし、障がい者が冬季スポーツに取り組みやすい環境づくりを関係者とともにより上げていきたい。







島根県における冬季障害者スポーツの理解・障がい者スポーツ振興事業



1泊2日

スキー・スノーボード教室

〈東部地区〉

日時：平成27年12月19日(土)～20日(日)

会場：琴引フォレストパークスキー場

〒690-3204 島根県飯石郡飯南町佐見 1151 TEL：0854-72-1021

〈西部地区〉

日時：平成27年12月26日(土)～27日(日)

会場：旭テングストーンスノーパーク

〒697-0514 島根県浜田市旭町市木 7600 番地 TEL：0855-47-0101

【募集内容】

◎ 参加者 (各地区 20 名程度)

- ① 障がいのある方 (障がい種別は問いません)
- ② 障がいはないが、障がい者のスキーに興味・関心のある方

◎ ボランティアスタッフ (各地区 20 名程度：参加費不要)

- スキー・スノーボードの指導・介助ボランティア
- ※スキー・スノーボードの技術レベルは問いませんが、事前研修(当日2時間程度)にご参加ください。
- ※事前研修では、障がい特性の説明、チェアスキー・バイスキーの取り扱い・体験等をおこないます。



【バイスキー】



写真提供：NPO 法人79 アーティ7-61

【申込方法】

提出書類：別添「参加申込書」を提出すること。

平成27年12月11日(金) 必着

(公財) 島根県障害者スポーツ協会事務局 TEL：0852-20-7770 FAX：0852-32-5982

【日程】

(東部地区)

第1日目	内容	場所
8:30	出発	いきいきプラザ
9:30	出発(経由)	サンアビリティーズ出雲
11:00	到着	琴引ビレッジ山荘
12:30	昼食	
13:00	教室開始	琴引フォレストパーク
16:00	教室終了	
18:30	夕食	琴引ビレッジ山荘
20:00	交流会	
第2日目	内容	場所
7:00	朝食	琴引ビレッジ山荘
8:30	出発	
9:30	教室開始	琴引フォレストパーク
11:30	昼食	
14:30	教室終了	
15:30	出発	
17:00	到着(経由)	サンアビリティーズ出雲
18:00	到着	いきいきプラザ

(西部地区)

第1日目	内容	場所
8:30	出発	益田駅
10:00	出発(経由)	浜田駅
11:00	到着	旭テングストンスノーパーク
12:00	昼食	
13:00	教室開始	
16:00	教室終了	
19:00	夕食	いこいの村しまね
20:00	交流会	
第2日目	内容	場所
7:00	朝食	いこいの村しまね
8:30	出発	
10:00	教室開始	旭テングストンスノーパーク
11:30	昼食	
14:30	教室終了	
15:30	出発	
17:00	到着(経由)	浜田駅
18:00	到着	益田駅

※ボランティア参加の方々は、1日目に事前研修(9:00～11:00)をおこないますので、東部地区参加の方は、琴引フォレストパークレストハウス内、西部地区参加の方は、旭テングストンスノーパークベースエリアへ8時45分までにお集まりください。

【宿泊場所】

(東部地区) 琴引ビレッジ山荘 (西部地区) 天空の宿おおなんいこいの村しまね

〒690-3204 島根県飯石郡飯南町佐見 1199-3
TEL: 0854-72-1035

〒696-0131 島根県邑智郡邑南町高水 2467-10
TEL: 0855-95-1205

【参加費用】

参加者：大人(高校生以上) ￥14,000 子ども(中学生以下) ￥11,000
ボランティア：参加費不要

※レンタルについては、別途かかります(現地スキー場へ直接お支払いいただきます：2日間で3,000円程度)。

※参加費用については、当日お支払いください。

※参加費の中には、2日分のリフト券代、1泊2食付宿泊代、昼食2食分が含まれます。

※参加者のバス往復代(当協会の準備区間)は、当協会にて負担します。

※交流会費として大人(20歳以上)は、1,500円いただきます。

【その他】

- ① スキー傷害保険は、主催者側でとりまとめて加入します。
- ② 障害部位が悪化するおそれのある者、健康状態が不安な者は、参加をご遠慮願う場合もあります。
- ③ 雪不足。天候不良等により、中止させていただく場合がございます。
- ④ 現地集合・解散も認めますが、出発地～会場間の移動については、各自で確保し、その間の責任は当協会は一切負いません(ボランティア参加の方につきましては、現地集合・現地解散になります)。
- ⑤ 申し込み多数により、参加をお受けできない場合は、ご連絡いたします。

【申込先・問合せ先】 〒690-0011 松江市東津田町 1741-3 いきいきプラザ島根

(公財) 島根県障害者スポーツ協会事務局

TEL 0852-20-7770 FAX 0852-32-5982

Mail info_office@spokyo.org (担当：吉岡・伊藤)



参加申込書

ふり 氏	がな 名		性 別	男・女	生年月日	T・S・H	年		
						月 日 (歳)			
住 所		〒							
		TEL :			FAX :				
連絡先 <small>(日中連絡の取れるところ)</small>		〒							
参加区分 (○をつける)		①参加者として参加し、 ア、障がいがある イ、障がいはないが、障がい者ス キーに興味・関心がある			②ボランティアとして参加し、 ア、スキーまたはスノーボードの指導ができる イ、指導はできないが、ボランティアとして参加				
		参加地区 (○をつける)							
交通手段		バスに乗車する ・ 現地へ直接行く							
		※バス乗車希望の方は、乗車場所に○をおつけください。 東部地区：いきいきプラザ ・ サンアビリティーズ出雲 西部地区：益田駅 ・ 浜田駅							
障がい名 <small>※障がいをお持ちの方のみ</small>		※手帳のない方は、障がい名のみ記入							
補装具の有無		無 ・ 有 ()							
主な既往歴		無 ・ 有 ()							
参加種目選択		スキー・スノーボード・チェアスキー・バイスキー (○をつけてください)							
スキー・スノーボード 技術 (番号に○)		1 全くはじめて							
		2 雪上での歩行・移動、転倒後起立等ができる。							
		3 緩斜面での直滑降およびターンができる。							
		4 中斜面で滑ることができる。							
		5 急斜面・コブなどでも滑れる。							
貸出希望用具 ※スキー・スノーボード 選択者のみ記入		要 ・ 不要 ※貸出用具希望の方は、必要なものをお書きください。 例. スキー用具一式など []							
身 長		※貸出希望がある方のみ			靴のサイズ			※貸出希望がある方のみ	
		c m						c m	
連絡事項 (健康上の留意点等)		記入者氏名 印							

山口県における障害者スポーツ地域推進事業

- ◆ 地域障害者スポーツ教室開催事業
- ◆ 障害者スポーツ体験教室事業
- ◆ 障害者交流スポーツ大会開催事業
- ◆ 障害者スポーツ指導者養成及び派遣事業

一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

「山口県における障がい者スポーツの振興事業」報告書

1 はじめに

山口県においては、平成25年度に「山口県スポーツ推進計画」を策定し、「輝く、夢あふれるスポーツ元気県やまぐち」の実現を目指している。県民誰もが、ライフステージを通じてスポーツ活動に参画できるという基本方針のもとに、障害者がスポーツに参加しやすい環境づくりと競技力の向上を推進している。また、本県は県央部の山口市を中心としているが、同規模の都市が点在しているため、当協会では県内を7ブロックに分け、各地域の組織（拠点）づくりを支援、実践しスポーツ環境づくりに努めている。

本年度は、障害者だけでなく県民参加型のスポーツ教室や交流大会を開催し、共生社会の実現に向けて事業を展開しているが、教室や大会の充実には指導者や支援者、ボランティア等の協力が不可欠であるため、人材の養成や資質向上が望まれる。また、教室や大会を継続していくために、地域の組織を活用したネットワークづくりを推進してきたが、地域差もあり、まだ十分とは言えないのが現状である。

2 地域障害者スポーツ教室開催事業

(1) 事業の目的

身近な地域で、障害者が気軽にスポーツの楽しさを体験し、障害のある方とない方が交流を深めることのできるスポーツ教室を開催した。

また、障がい者スポーツ指導者及び障害者スポーツに関心のある方が活動しやすい教室を開催し、地域組織づくりに役立てる。

(2) 事業内容

地域	実施日	会場	参加者	スタッフ	内容
岩国	12/23	岩国短期大学	6名	指導員 13名 協力者 1名 事務局 2名	指導員のための審判講習会 (ボッチャ、卓球バレー、風船バレー)
柳井	1/22	平生町体育館	32名	指導員 1名 事務局 3名	交流スポーツ教室 (ボッチャ、卓球バレー、風船バレー)
周南・下松・光	8/30	サン・アビリティーズ光		指導員 2名 協力者 7名	「サン・アビふれあいまつり」の体験コーナーで車椅子バスケットボール体験教室
	9/5	下松市スポーツ公園体育館	5名	指導員 11名 協力者 2名 事務局 1名	障害者と楽しみを享受し、指導員としてのレベルアップを図るスポーツ教室(サッカー入門)
	9/20	サン・アビリティーズ光	9名	指導員 3名 協力者 6名 事務局 2名	障害者だけでなく県民参加型のスポーツレクリエーション大会 (ボッチャ、卓球バレー、風船バレー)

	11/29	光市総合体育館	2名	指導員 9名 協力者 2名 事務局 1名	障害者と楽しみを享受し、指導員としてのレベルアップを図る スポーツ教室（フライングディスク）
山口・防府	8/8	スポーツ文化センター	37名	指導員 17名 事務局 5名	障害者だけでなく県民参加型の スポーツ教室（ボッチャ、卓球 バレー、風船バレー）
	9/26	維新公園芝広場	18名	指導員 1名 協力者 1名 事務局 1名	障害者だけでなく県民参加型の スポーツ教室 （グラウンド・ゴルフ）
	11/8	防府ゴールデン ボウル・防府市 勝間公民館		指導員 9名 協力者 1名 事務局 1名	指導員のためのボウリング審判 講習会 （ボウリング）
宇部・山陽小野田	6/28	宇部フロンティア大学	55名	指導員 12名 看護師 1名 事務局 1名	障害者だけでなく県民参加型の スポーツ教室（ボッチャ、卓球 バレー、風船バレー）
	11/8	宇部フロンティア大学	57名	指導員 11名 看護師 1名 事務局 1名	障害者だけでなく県民参加型の スポーツ教室（ボッチャ、卓球 バレー、風船バレー）
	11/8	宇部市総合福祉 会館	40名	指導員 3名 事務局 1名	視覚障害者のレクリエーション 教室 （卓球バレー）
	年間	山陽小野田市高 千帆公民館・高 泊児童館他	105名 （のべ）	指導員 41名 （のべ）	レクリエーションボッチャ教室 （月2回のペースで開催） 17回開催：12月までの集計
下関	6/4	下関市立菊川中 学校	20名	指導員 1名 事務局 2名	障害児・者のスポーツ体験教室 総合型スポーツクラブとコラボ した活動（卓球バレー、風船バ レー、タンDEM）
萩	8/7	萩市立明倫小学 校	40名	指導員 6名 事務局 3名	障害児・者のスポーツ体験教室 （風船バレー、ボッチャ）

（3）実施体制

各地域の障がい者スポーツ指導者が、市町、市町教育委員会、社会福祉協議会、小・中学校、支援学校、大学、児童館、障害者施設、既存の活動組織等と協議し、企画運営にあたった。

総合型スポーツクラブ、各競技団体、ボランティア、スポーツ推進委員、コミュニティスポーツクラブ、民生委員、婦人会等とも連携して実施した。

（4）障がい者スポーツ指導者の活動・役割

各地域の障がい者スポーツ指導者が中心となって企画運営を行っている。企画会議、参加者の募集、プログラムや資料の作成、教室の運営等を連携団体の協力も得て行っていて、年々スムーズに進行できるようになり、地域活動の核となっている。

(5) 成果および評価

山口・防府地域と宇部・山陽小野田地域は定期的に企画会議を開いていたが、今年度は周南地域も企画会議を行ってスポーツ教室を開催した。また指導員の少なかった岩国市で今年度の障がい者スポーツ指導員養成講習会を開催したこともあり、岩国地域では障がい者スポーツ指導員とスポーツ推進委員が協力して活動が始まった。徐々に地域での組織づくりが広がっている。

(6) 今後の課題

各地域では、限られた人材と予算でスポーツ教室を開催していて、今後の教室を充実させ、継続するには、障がい者スポーツ指導者によるところが大きく、人材を育成し、資質を向上させ、予算を確保しつつ、総合型スポーツクラブや競技団体、スポーツ推進委員等とより連携し、活動を広げていきたい。

(7) 所感および特記事項

今年度は各地域で県民参加型のスポーツ教室や指導員のスキルアップを図るスポーツ教室、審判講習のためのスポーツ教室と様々な教室を企画し実施した。また、各地域のスポーツ推進委員の協力が得られるようになり、同委員をスポーツ指導者に取り込み、地域スポーツ教室が障害者や指導者等の情報交換と交流の場となっている。

3 障害者スポーツ体験教室開催事業

(1) 実施目的

障害のある児童生徒が、生涯にわたってスポーツを愛好し親しむ態度を身につけるために、発育・発達時期からスポーツへの参加の機会をつくり、スポーツの楽しさを体験する教室を開催する。

また、障害があってもライフワークにスポーツを取り入れ、生活自立や社会参加の推進に役立つようスポーツ参加の契機になるよう体験教室を行う。

(2) 事業内容

・射撃教室

実施日：10月4日（日）

場 所：山口県立下関南総合支援学校

参加者：生徒33名、講師6名

内 容：下関総合支援学校の文化祭「相愛フェスタ」と連携して、ビームライフル射撃教室を開催した。継続開催を希望されている好評な体験教室である。

・コーディネーション運動教室

実施日：12月17日（木）

場 所：山口県立宇部総合支援学校

参加者：生徒172名、講師1名、事務局2名

内 容：イメージに合わせて体を動かし、巧緻性を高めるコーディネーショントレーニングの教室を開催した。

(3) 実施体制

山口県特別支援学校長会や山口県特別支援学校体育連盟に働きかけ、各支援学校の実情に応じて実施する。実施種目が決まると、各競技団体に依頼して講師を派遣する。

・射撃教室の講師

山口県障害者射撃協会、山口県ライフル射撃協会、山口市ライフル射撃スポーツ協会

・コーディネーション運動教室の講師

中田 徹（山口市立興進小学校教諭）

JACOT協会公認コーディネーショントレーニングブロンズライセンス

山口市レクリエーション協会理事長

(4) 障がい者スポーツ指導者の活動・役割

射撃教室で、障がい者スポーツ指導者が講師として指導にあたった。今年度は体験教室を2回しか実施できなかったため、指導者の活動の場が少なかった。体験教室では指導者は講師として派遣されているので、主体的活動までいっていないのが現状である。

(5) 成果および評価

各支援学校と協議し、実情に合わせて企画しているため運営は順調であり、障害のある生徒がスポーツを楽しく体験する機会を提供できた。しかしながら、第3回目の体験教室として「アーチェリー体験教室」を実施する予定であったが、アーチェリーを行うには安全性の確保が難しいということで中止となり、実施種目の検討に課題が残った。

(6) 今後の課題

今年度は体験教室を2回しか実施できず、残念であった。第3回のアーチェリーを行えなくなったときに他の種目への変更も考えたが、支援学校と実施日等が合わずに中止となった。この事業では、支援学校の要望が優先され変更が難しいので、支援学校、競技団体、スポーツ指導者等とのしっかりとした事前協議が重要である。

(7) 所感および特記事項

射撃教室もコーディネーション運動教室も生徒に好評で、体を動かす喜びが伝わってくる活動であり、これからも障害があっても生涯にわたってスポーツを楽しめる児童生徒の育成事業は継続していきたい。

4 障害者交流スポーツ大会開催事業

(1) 実施目的

障害者が身近で気軽にスポーツを楽しみ、障害の有無にかかわらず一緒にスポーツすることで交流を深めることを目的に障害者スポーツ大会を開催する。また、障害者スポーツ大会を開催することで県民の障害者スポーツへの理解の促進を図り、障害者スポーツの振興を図る。

(2) 事業内容

・山口県障害者卓球選手権大会

実施日：6月7日（日）

場 所：スポーツ文化センター（山口市）

参加者：70名

スタッフ：障がい者スポーツ指導員4名、審判員13名、看護師1名、ボランティア3名
手話通訳者2名、事務局2名 合計25名

協力団体：山口県障害者卓球協会

内 容：男子の部、女子の部、初心者の部に分けて参加者を募集する卓球大会。午前中に予選リーグ戦を、午後から決勝トーナメント戦を行う。

・山口県サウンドテーブルテニス大会

実施日：6月28日（日）

場 所：山口県身体障害者福祉センター（山口市）

参加者：40名

スタッフ：障がい者スポーツ指導員9名、審判員7名、看護師1名、ボランティア5名
事務局3名 合計25名

協力団体：山口県卓球協会、山口県障害者卓球協会、山口県サウンドテーブルテニス協会

内 容：視覚障害者を対象としたサウンドテーブルテニス大会。男子の部と女子の部に分かれ、予選リーグ戦、決勝トーナメント戦を行う。

・ヨット教室

実施日：8月26日（水）

場 所：山口県スポーツ交流村（光市）

参加者：15名

スタッフ：障がい者スポーツ指導員7名、講師4名、手話通訳者1名、事務局3名
合計15名

協力団体：山口県セーリング連盟

内 容：アクセスディンギーという2人乗りヨットやクルージングを楽しむマリンスポーツの教室。今年はバナナボートにも挑戦した。

・山口県ボウリングフェスティバル

実施日：12月6日（日）

場 所：小郡スーパーボウル（山口市）

参加者：108名

スタッフ：障がい者スポーツ指導員8名、審判員4名、手話通訳者1名、事務局3名
合計16名

協力団体：山口県ボウリング連盟、山口県障害者ボウリング協会

内 容：午前中は知的障害者を対象に、午後からは全障害者を対象にしたボウリング大会。午後は重度レーンの部も設けている。

(3) 実施体制

開催に当たっては、各競技団体に運営協力を依頼し、審判員の派遣を受けている。また、大学等にボランティアの派遣依頼をし、障がい者スポーツ指導員が運営に参加している。

加えて、山口県、山口県教育委員会、山口県特別支援学校長会、山口県障がい者スポーツ指導者協議会、山口県手をつなぐ育成会、山口県知的障害者福祉協会、山口県障害者社会参加推進センター、山口県身体障害者団体連合会、山口県精神障害者福祉会連合会、山口県障害福祉サービス協議会等と連携して大会を運営した。

(4) 障がい者スポーツ指導者の活動・役割

各大会の当日の運営だけでなく、卓球大会とSTT大会では、プログラム編成会議を開き、指導者が選手の組み合わせを考えた。ボウリング大会では、指導者が事前にボウリング審判講習会を開催し、大会では審判としても活躍した。指導者の役割が増えてきている。

(5) 成果および評価

障害があっても何かスポーツがしたいという問い合わせは、日常的にあり、初心者でも楽しめる卓球大会やボウリング大会では参加者が増加し、ヨット教室は普段体験しがたいマリンスポーツを体験できるので人気が高い。このような現状のため、各大会の参加者からは、また来年も参加したいという声が聞かれ、指導者やボランティアとの交流もでき、互いの理解を深めることに役立っている。

(6) 今後の課題

現在の大会では、当協会の依頼で障がい者スポーツ指導者や審判員が活動しているが、将来的には、各競技団体と指導者がより連携を深め、大会を自主的に運営し、当協会はサポートに回ることも検討していきたい。

(7) 所感および特記事項

大会開催において、競技団体は審判員の派遣等で、障害者施設は職員の派遣や障害者の参加等で事業に協力する体制が確立してきた。指導員も含め交流も深まり、障害者スポーツの振興に役立っている。

5 障害者スポーツ指導者養成及び派遣事業

(1) 実施目的

障害者スポーツの振興には、障害者スポーツを支える人材が不可欠であり、障害者スポーツボランティア養成講習会を開催する。

また、障がい者スポーツ指導者が、安全により効率的・効果的に活動ができるために障害者スポーツ支援相談会を開催する。

(2) 事業内容

・障害者スポーツボランティア養成講習会

実施日：11月21日（土）

場 所：山口県スポーツ交流村（光市）

参加者：9名

スタッフ：講師2名、事務局2名

内 容：「障害のある人々のスポーツ」と「ボランティア論～すべてはみんなの笑顔のために」の2講義と「卓球バレー」と「風船バレー」の体験を行う。

・障害者スポーツ支援相談会

実施日：12月20日（日）

場 所：パルトピアやまぐち（山口市）

参加者：36名

スタッフ：医・科学委員10名、事務局4名

内 容：医・科学委員による「フィジカルトレーニング（ストレッチ、アイシング）に関する最近の情報から」「体づくりを支える栄養指導」「関節可動域の拡大、柔軟性や筋協調性の向上を目指して」の3講義と「フライングディスク競技」「バレーボール競技」を支援する指導者4名からの活動事例報告を行う。最後に参加者からの質問に医・科学委員が回答する。

(3) 実施体制

開催にあたっては、山口県、光市、光市教育委員会、光市社会福祉協議会、山口県障がい者スポーツ指導者協議会、光市スポーツ推進委員協議会、周南市スポーツ推進委員協議会、下松市スポーツ推進委員協議会、障害者スポーツ医・科学サポート活用推進委員会の後援、協力を得て運営した。

(4) 障がい者スポーツ指導者の活動・役割

ボランティア養成講習会では、障がい者スポーツ指導者が講師を務め、障害者スポーツを紹介した。

支援相談会では、障がい者スポーツ指導者が参加して、医・科学委員からの情報提供を受けスキルアップにつなげた。また、競技団体に活躍中の指導者が活動事例を発表し、意見交換を行い今後の活動に活かせるようにした。

(5) 成果および評価

ボランティア養成講習会を受講後、ボランティアとして地域のスポーツ教室に参加された方もおられ、障害者スポーツに関わるきっかけづくりに役立っている。引き続き、指導者養成講習会への参加も案内していきたい。

相談会では、専門家の意見や指導者の活動事例発表等で情報交換ができ、指導者の資質の向上につながった。

(6) 今後の課題

ボランティア養成講習会の受講者が少なくなりつつあるので、関係団体にも協力をお願いして、周知の方法に工夫が必要かと思われる。障害者スポーツの発展のためには人材確保は必至であり、スポーツ推進委員等も巻き込んで人材の養成とスキルアップを目指したい。

(7) 所感および特記事項

当協会は平成24年度に人材バンクを設立し、障がい者スポーツ指導者を登録して、地域のスポーツ教室や競技団体、スポーツクラブに派遣している。障害者が身近な地域でスポーツを楽しめる環境づくりのためにも人材バンクの充実と活用に努めていきたい。

地域スポーツ教室

<岩国地域>



12月23日

<柳井地域>



1月22日

<周南・光・下松地域>



9月5日

<周南・光・下松地域>



9月20日

<山口・防府地域>



8月8日

<山口・防府地域>



11月8日

<宇部・山陽小野田地域>



6月28日

<宇部・山陽小野田地域>



11月8日

<宇部・山陽小野田地域>



11月8日

<下関地域>



6月4日

<萩地域>



8月7日

スポーツ体験教室

<射撃教室>



10月4日

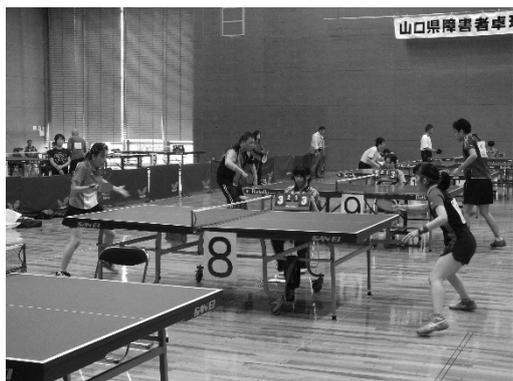
<コーディネーション運動教室>



12月17日

スポーツ大会

<卓球大会>



6月7日

<STT大会>



6月28日

<ヨット教室>



8月26日

<ボウリング大会>



12月6日

指導者養成事業

<講習会>



11月21日

<相談会>



12月20日

スポーツの楽しさ体験

山口障害者ら60人参加

山口地域障害者スポーツ教室が8日、山口市維新公園の県スポーツ文化センターであった。視覚や身体に障害を持つ人と、障害を持たない人の計約60人が参加した。

障害者が気軽にスポーツが気軽にスポーツを争う競技「ポッチャ」

山口地域障害者スポーツ教室が8日、山口市維新公園の県スポーツ文化センターであった。視覚や身体に障害を持つ人と、障害を持たない人の計約60人が参加した。

障害者が気軽にスポーツが気軽にスポーツを争う競技「ポッチャ」

【松田栄二郎】

などが行われた。中に鈴を入れた風船のようなボールを使う風船バレーでは、参加者が、鈴の音を鳴らしながらフワリと浮き上がったボールを落とさないよう「はい次」と声を掛け合いながら、相手コートに打ち返していた。

ポッチャで目標球に向かって球を投げる参加者

8月9日 毎日新聞

愛媛県障害者スポーツ理解啓発事業

- ◆ 愛媛県障害者サイクリング大会開催事業
- ◆ 愛媛県障害者ハンドサイクル等体験会
- ◆ 愛媛県障害者スポーツ紹介事業

愛媛県障害者スポーツ協会

①はじめに

本県では、平成 23 年 3 月に「愛媛県スポーツ振興計画（後期）」が策定され、子どもから高齢者・障害者まで地域住民誰もが、身近に好きなスポーツを気軽に楽しむことができるよう地域に根ざしたスポーツの振興を図ることとしている。また、平成 29 年に本県で開催される全国障害者スポーツ大会への理解と認識を積極的に推進していく必要がある。このため、今回、誰もが身近にできる障害者スポーツを楽しむ体験事業と全国障害者スポーツ大会の普及啓発のための事業を企画した。

②実施目的・ねらい

平成 29 年に本県で全国障害者スポーツ大会が開催されることとなっており、全国障害者スポーツ大会の啓発と障害者の心身の健康増進や社会参加に対する理解が得られるよう「愛媛県障害者スポーツ理解啓発事業」を実施する。

③実施概要

・事業内容および協力団体

(1) 愛媛県障害者ハンドサイクル等体験会

日時：平成 27 年 9 月 12 日（土）13：00～16：00

場所：愛媛県身体障害者福祉センター運動場

参加：参加者 14 名（障害者 14 名）実施協力者：6 名

実施協力：愛媛県、愛媛県障害者スポーツ指導者協議会、NONちゃん倶楽部他

内容：日頃、自転車に乗る機会の少ない障害者に、ハンドサイクルやハンドバイクの試乗体験を通して、障害者の自立と支援を行うとともに、障害者の健康増進と障害者スポーツの振興を図る。

(2) 愛媛県障害者サイクリング大会（しまなみ海道と島四国めぐり）

日時：平成 27 年 9 月 27 日（日）10：00～15：00

場所：しまなみ海道（今治～（来島海峡大橋）～大島バラ公園）

参加：参加者 110 名（知的、視覚、聴覚及び肢体障害者 35 名。介助者 2 名）

実施協力者：69 名

実施協力：愛媛県、愛媛県障害者スポーツ指導者協議会、NONちゃん倶楽部、愛媛県庁サイクリングチーム、愛媛銀行サイクリングチーム他

内容：しまなみ海道の自転車専用部分及び一般道【今治～（来島海峡）～大島】約 20 ㎞のコースを、普段自転車に乗る機会のほとんどない視覚障害者や知的障害者等が、タンデム自転車やハンドサイクル等で、途中の島四国めぐりを巡りながらサイクリングを楽しむ。

(3) 愛媛県障害者スポーツ紹介事業（4回実施）

実施日：第1回 平成27年10月3日（土）13：30～15：30

第2回 平成27年12月5日（土）9：30～11：30

第3回 平成28年1月15日（金）13：30～15：30

第4回 平成28年1月16日（土）9：00～12：00

実施場所：内子町（1回目）、西条市（2回目）、愛南町（3回目、4回目）

参加者：約100名（障害者、スポーツ指導員、一般）

実施協力：愛媛県教育委員会、愛媛県障害者スポーツ指導者協議会、フライングディスク協会他

内容：県内各市町等を訪問し、障害者スポーツ体験会（フライングディスク）を実施した。

また、併せて障害者スポーツの啓発チラシ及びグッズを作成し、県内各市町の福祉団体や障害者関係機関等に配布し、障害者スポーツの普及啓発に努めた。

④障がい者スポーツ指導者の活動・役割

本県では、障害者スポーツ協会が発足間もないことから、各事業等の実施において障害者スポーツ指導員の役割は大きく、常に連携して事業を実施している。特に今回のサイクリング大会においては、パイロットとしての役割は勿論、カメラマンやDVD編集係、事前準備等幅広く協力していただき、1つの事業を実施することで今まで以上に連携が図られた。また、障害者スポーツ紹介事業においても、フライングディスク協会のサポートや参加の障害者の皆さんの手足として、さまざまのところで支援していただき、障がい者スポーツ指導者と障害者スポーツ協会との連携の大切さを改めて感じた。

⑤成果及び評価

(1) 愛媛県障害者ハンドサイクル等体験会及び愛媛県障害者サイクリング大会開催事業

日頃、外へ出る機会が少ない障害者で、自転車は初体験の障害者も多く、ハンドサイクルやハンドバイク、タンDEM自転車等でサイクリングを楽しむことができたことは、有意義であった。障害者の人たちも十分満足した様子で「来島海峡大橋を自転車で初めて走ることができて、爽快だった。来年は違う場所を走りたい。」「来年はいつ実施するんですか。」等の声も多数あり、思い出に残る大変貴重な体験ができた。本県では、県を挙げてサイクリングを積極的に取り組んでいることもあり、協力していただいた県庁サイクリングチームや愛媛銀行サイクリングチーム等との連携が図られ、「是非、来年も実施しましょう。」という声も多く聞かれた。

(2) 愛媛県障害者スポーツ紹介事業

啓発チラシ及びグッズを作成し配布したことで、「国体開催は知っていたが、障害者スポーツの全国大会のことは知らなかった。」という声も聞かれた。テレビ・新聞等は勿論、県内各市町や関係機関のポスターや広報誌等で紹介され、県民の皆さんに周知していただいていると思っていたが、直接、チラシやグッズを配付してみると、まだまだ不十分で普及啓発の大切さを肌で感じた。

また、26年度は、特別支援学校で生徒を中心に体験会を実施し、今年度は、県内各市町へ出向き、県内各地の障害者やスポーツ推進員等に対し障害者スポーツの体験会を実施した。いろいろな競技を実施したかったが、今年度は、すべての地域でフライングディスク競技の希望であった。参加者からは、「面白かった。来年の県の障害者スポーツ大会には、

フライングディスク競技で参加したい。」という声も聞かれた。また、平成 29 年の本番でフライングディスク競技の会場となる西条市では、「本大会で是非、ボランティアで参加したい。」「来年度以降もいろいろな障害者スポーツを紹介して欲しい。」というような声もあった。平成 29 年に本県で開催される全国障害者スポーツ大会の普及啓発が一層図られるとともに、普段体験したことのない障害者スポーツを体験することができ、大変有意義な事業となった。

(3) 新たな連携

「ハンドサイクル等体験会」、「障害者サイクリング大会」及び「障害者スポーツ紹介事業」を実施したことで、サイクリング関係者や市町の福祉関係部局等、いままでつながらなかった団体間との連携が新たに生まれるとともに活動の輪が広がり大きな成果があった。今後、この連携の輪を愛媛県障害者スポーツ協会の活動に活かしていけるのではないかと考えている。

⑥今後の課題

(1) 愛媛県障害者ハンドサイクル等体験会及び愛媛県障害者サイクリング大会開催事業

実施に際し、多くのスタッフの応援等が不可欠で、応援者の人員の確保が必要である。また、県内ではタンDEM自転車の台数に限りがあり、これ以上の参加者への対応等を検討する必要がある。次年度以降の実施にあたっては、人員の確保面では、今年度協力いただいた愛媛県、愛媛県障害者スポーツ指導者協議会、NONちゃん倶楽部、愛媛県庁サイクリングチーム、愛媛銀行サイクリングチームに対し、人員の増員をお願いするほか、今回、日程があわず協力者のなかった伊予銀行サイクリングチームにも協力をお願いしたい。また、タンDEM自転車をNONちゃん倶楽部で新たに確保できたが、タンDEM自転車については、なかなか確保が難しいため、実施方法を検討（複数回実施する等）し、より多くの障害者に楽しんでもらえるよう努力していきたい。

(2) 愛媛県障害者スポーツ紹介事業

障害者スポーツの普及啓発に努めており、全国障害者スポーツ大会への理解は、ある程度得られたと思われるが、より一層の普及啓発に努める必要性を感じた。今後、愛媛県障害者スポーツ指導者協議会や関係機関と連携し、フライングディスク競技以外の競技も実施し、障害者スポーツの普及啓発に努めていきたい。また、県内の 9 箇所の競技開催予定市町とも連携し、開催市町等でのイベント開催時には、障害者スポーツの普及啓発を進めていきたい。

⑦その他所感、特記事項等

平成 29 年の全国障害者スポーツ大会開催を契機として、平成 25 年 4 月に愛媛県障害者スポーツ協会が発足し、25 年度は、県からの委託事業の実施だけで終わった感があったが、昨年度から「地域における障害者スポーツ振興事業」をさせていただき、今年度で 2 回目の開催となった。

自主事業を主催することで、愛媛県障害者スポーツ協会の存在意義も、少しずつではあるが、示すことができたのではないかとと思う。

今後も機会を捉え、いろいろな事業を企画し、障害者スポーツの普及に努めて参りたい。

愛媛県障害者サイクリング大会開催要項

(しまなみ海道と島四国めぐり)

- 1 目的 障害者が瀬戸内しまなみ海道、世界初3連吊り橋の来島海峡大橋を爽快に走り、島四国めぐりを行いながらサイクリングするとともに、健康増進と交流を深め、障害者スポーツの振興を図ることを目的とする。
- 2 主催 愛媛県障害者スポーツ協会
- 3 協力 愛媛県障害者スポーツ指導者協議会・NONちゃん倶楽部
愛媛県庁サイクリングチーム・愛媛県障害福祉課
愛媛銀行サイクリングクラブ・EBCサイクリング部
今治市役所サイクリングクラブ
- 4 日時・場所 平成27年9月27日(日) 9:00～15:00
しまなみ海道・来島海峡大橋
- 5 集合場所 今治市サンライズ糸山(松山から送迎車を運行)
- 6 参加募集人員 30名程度(自転車に乗車可能で20km走行可能な障害者)
- 7 参加費 1000円(昼食代及び保険代)
- 8 申し込み先 〒790-0843 松山市道後町2丁目12番11号
愛媛県障害者スポーツ協会 電話 089-924-2101
FAX 089-923-3717
メール syo-supo@ehime-swc.or.jp
- 9 申込締切 平成27年9月6日(日)
- 10 実施方法 ①1人乗り自転車の部
②2人乗り(タンデム)自転車の部
(前の座席は前乗り経験のあるパイロットが運転します。)
③ハンドサイクルの部
- 11 コース サンライズ糸山 ～ 来島海峡大橋 ～ 島四国めぐり ～ よしうみバラ公園(昼食)
9:00集合 12:00～12:50
10:30出発
よしうみいきいき館 ～ 来島海峡大橋 ～ サンライズ糸山
13:20～13:50 14:30
- 12 送迎 ・7:30愛媛県身体障害者福祉センターに集合。貸切バスにて
今治市サンライズ糸山に移動。(JR松山駅、JR今治駅でも乗車可)
・15:00閉会后貸切バスにて17:00頃松山着
・希望する個人所有の自転車は松山から今治までトラックで搬送します。

13 その他

- ①貸自転車及びタンDEM車(二人乗り自転車)及びヘルメットは主催者が用意しますが、台数には限りがあります。(20台程度)
- ②ハンドサイクルの貸し出しはありません。
- ③大会中の万一の事故については、主催者の加入する傷害保険の範囲内での保障となる旨ご了承ください。
- ④盲導犬を連れて参加される方、手話通訳の必要な方は、申し込みの際にお知らせください。
- ⑤小雨決行です。
- ⑥動きやすい服装(裾が広がらないズボン等)運動靴、手袋(軍手等)をご用意ください。
- ⑦参加決定の可否は、申込期間終了後に連絡します。
- ⑧レースではなく、サイクリングを楽しむ走行イベントです。

愛媛県障害者サイクリング大会参加申込用紙

ふりがな 氏名		性別	男・女	年齢	歳	障害名	
住所	〒		電話・携帯番号				
ふりがな 同行者氏名		性別	男・女	年齢	歳	携帯 番号	
レンタル自転車希望	有・無		タンDEM自転車希望		有・無		
送迎希望	有・無		自転車搬送サービスの利用		有・無		
バス乗降希望場所	身障センター・JR松山駅・JR今治駅						
盲導犬を連れて参加希望	有・無		手話通訳希望		有・無		

愛媛県障害者ハンドサイクル等体験会開催要項

- 1 目的 日頃、ハンドサイクル等に乗る機会が少ない方々を対象に、体験会を開催することで、風をきる喜びを体感し自立と健康増進を図り、県内ハンドサイクル愛好者の増加と生涯スポーツとして、障害者スポーツの振興を図ることを目的とする。
- 2 主催 愛媛県障害者スポーツ協会
- 3 協力 愛媛県障害者スポーツ指導者協議会
NONちゃん倶楽部
県庁サイクリングクラブ
愛媛県障害福祉課
- 4 日時・場所 平成27年9月12日(土) 13:00～16:00
(雨天時は10月3日(土)に実施します。)
愛媛県身体障害者福祉センター運動場
- 5 参加募集人員 障害者20名程度
- 6 参加費 無料
- 7 申し込み先 〒790-0843 松山市道後町2丁目12番11号
愛媛県障害者スポーツ協会 電話 089-924-2101
FAX 089-923-3717
メール syo-supo@ehime-swc.or.jp
- 8 申込締切 平成27年8月31日(月)
- 9 実施方法 ハンドサイクル・ハンドバイク・車いす対応自転車の試乗体験を行います。
- 10 その他 ①動きやすい服装と運動靴、手袋(軍手等)をご用意ください。
②開催中の万一の事故については、主催者の加入する傷害保険の範囲内での保障となる旨ご了承ください。

障害者ハンドサイクル等体験会参加申込用紙

ふりがな 氏名		性別	男・女	年齢	歳
住所	〒				
電話番号					
携帯番号					
障害名					

障害者スポーツ紹介事業（体験会）

～障害者スポーツの魅力！お伝えします！！～

1 目的

2年後に愛媛県で開催される『第17回全国障害者スポーツ大会～愛顔つなぐえひめ大会～』の成功に向け、住民の参加機運を高めるとともに、障害者スポーツの振興を深めることを目的に普及啓発紹介事業（体験会）を開催する。

2 主催

愛媛県障害者スポーツ協会

3 協力（予定）

愛媛県、愛媛県障害者スポーツ指導者協議会、愛媛県障害者フライングディスク協会等

4 日程

平成27年9月～平成28年1月の間で、実施希望団体と日程調整後実施する。

5 会場

各市町や学校等の屋内運動場やグラウンドにおいて実施する。

6 概要【障害者スポーツ体験会】

- ・実施方法：各市町や学校等へ愛媛県障害者スポーツ協会職員等を派遣して体験会を実施する。体験種目、日程等は実施希望団体と協議して決定しますが、全国障害者スポーツ大会関係競技を中心に実施する。

（実施競技の例）

体験会①：スラローム競技～いざ、タイムトライアル！～

体験会②：フライングディスク～アキュラシー5にチャレンジ！～

体験会③：車椅子バスケットボール～フリースロー&ドリブルシュートに挑戦～

体験会④：ブラインドテニス～ラケットに当てることができるかな？～

- ・参加者：1会場20～40人程度（体験会に参加できる障害者、障害者と関わりのある職場等の関係者、障害者スポーツに理解や関心のある方）

7 費用

- ・体験会の講師謝金、派遣旅費、使用道具等は、愛媛県障害者スポーツ協会が負担する。但し、会場までの参加者の旅費等は、参加者負担でお願いします。

8 その他

- ・詳細は、愛媛県障害者スポーツ協会へ連絡いただくか、ホームページをご覧ください。
[〒790-0843 松山市道後町2丁目12-11 電話 089-924-2101](tel:089-924-2101)
- ・予算に限りがありますので、実施競技等が調整できた団体等から、順次、予算の範囲内で実施します。

障害者スポーツ紹介事業（体験会）参加申込書

平成 年 月 日

所属団体住所・氏名 _____ 印

連絡先 _____

障害者スポーツ紹介事業（体験会）に下記のとおり申込書を提出します。

記

- 1 実施希望競技名 （ _____ ）

- 2 実施希望日時 第1希望（ 月 日（ ） : ~ : ）
第2希望（ 月 日（ ） : ~ : ）
第3希望（ 月 日（ ） : ~ : ）

- 3 実施予定会場名 （ _____ ）

- 4 参加予定者及び人数 （障害者 _____ 名、その他 _____ 名）

◆実施競技、日時等を協議して決定する場合、未定と記載してください。

障害者スポーツ紹介事業（体験会） 喜多郡内子町 五十崎自治センター
平成27年10月3日（土）13:30~15:30



愛媛県障害者ハンドサイクル等体験会
平成27年9月12日（土）13:00~16:00



愛媛県障害者サイクリング大会（しまなみ海道と島四国めぐり）

平成 27 年 9 月 27 日（日）10：00～15：00



障害者スポーツに参加してみませんか！！

障害者スポーツは、何らかの障害のある人も、自分で活用できる能力を生かしてプレーができるように工夫されたスポーツです。健康づくりや、さまざまな人との親睦や交流などをして楽しみませんか。

また、障害者スポーツは、審判や選手の介助、手話及び要約筆記などのボランティアが必要です。

皆さんも障害者スポーツに参加してみませんか。

◎愛媛県障害者スポーツ協会の紹介

障害者の心身の健康増進と社会参加の促進を図るため、障害者スポーツの振興に関する諸事業を実施しています。詳細は、協会ホームページをご覧ください。当協会へお問い合わせください。



障スポ
みきやん

○愛媛県障害者スポーツ大会開催事業

・陸上競技、アーチェリー、フライングディスク、卓球(STTを含む)、水泳、ボウリング、精神障害者バレーボールを実施します。

○全国障害者スポーツ大会選手派遣事業

・県大会等で優秀な成績を収め、選考された選手を派遣します。



(昨年の長崎大会)

○障害者スポーツ指導員養成事業

・障害者スポーツの指導に習熟した指導者育成の講習会を実施します。

○障害者スポーツ講習事業

・フライングディスク、卓球、バスケットボール、バレーボール、サッカーの5種目を実施します。



(講習風景)

○地域における障害者スポーツの振興事業

・障害者サイクリング大会を9/27(日)にしまなみ海道で開催します。



(昨年のサイクリング大会)

・障害者ハンドサイクル等体験会を9/12(土)に身体障害者福祉センター運動場で開催します。

・障害者スポーツ紹介事業(体験会)を県内の希望する市町等で、実施します。

◎スポーツ・レクリエーションについて

ゲーム的な要素のものから、スポーツの要素が含まれるものまでとても幅広い種目があり、障害の有無や年齢、性別を問わず、誰もがそれぞれのライフスタイルに応じて取り組むことができます。

種目等の詳細については、愛媛県障害者スポーツ協会にお問い合わせください。



カロリング



ヒューストン



フライングディスク

第17回全国障害者スポーツ大会



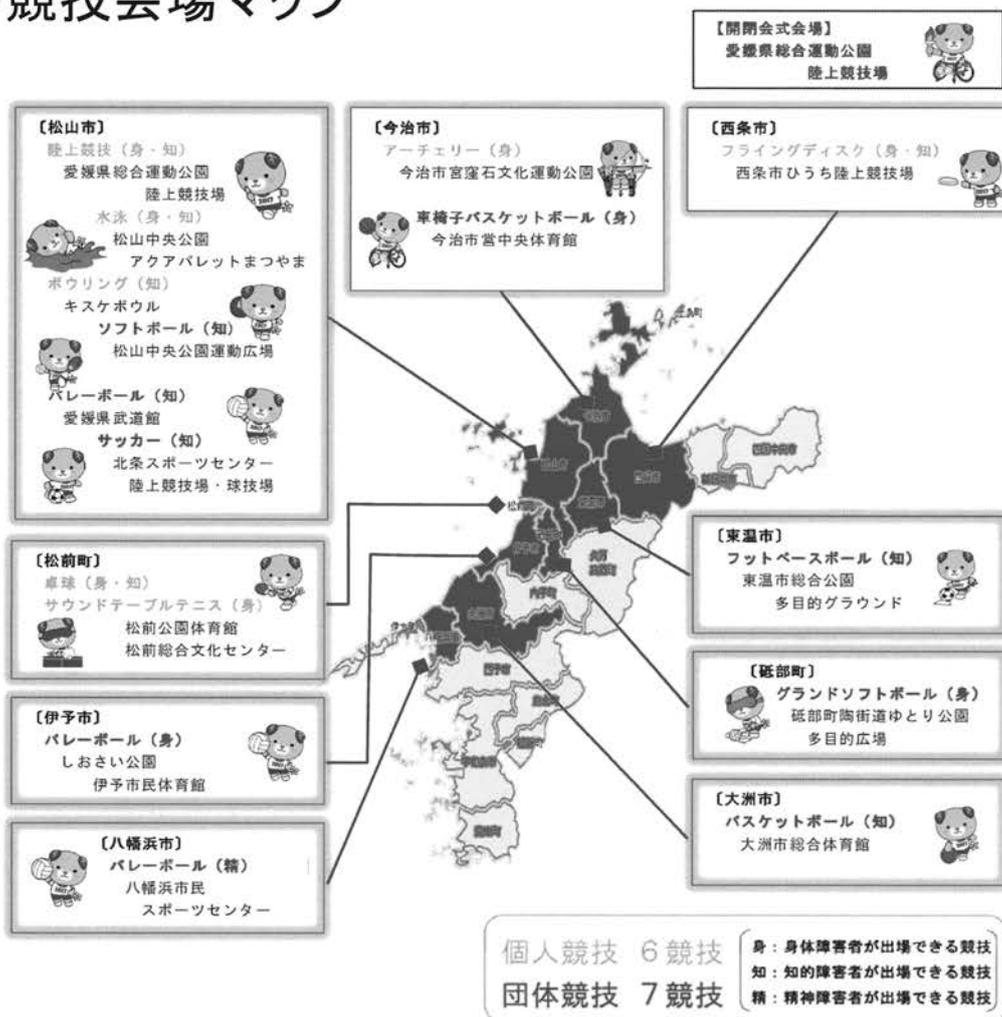
えがお
愛顔つなぐえひめ大会 の会期が決定しました。

第17回全国障害者スポーツ大会 君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え

平成29年10月28日(土)～10月30日(月)の間に県内9市町で開催されます。

本県からは約300名の選手が参加できます。障害に応じて参加できる競技も多くありますので、皆さんの積極的な参加をお待ちしております。(選手は、各競技の予選会等で決定されます。)

○競技会場マップ



愛媛県障害者スポーツ協会事務局
〒790-0843 愛媛県松山市道後町2丁目12-11
(愛媛県身体障害者福祉センター内)
TEL: (089)924-2101 FAX: (089)923-3717
e-mail: syo-supu@ehime-swc.or.jp
HP: 愛媛県障害者スポーツ協会 [CLICK!](#)

福岡県内における障害者スポーツ振興事業

- ◆ スポーツフェスタ（車椅子バスケットボール等）
- ◆ マリンスポーツ教室
- ◆ 車椅子ソフトボール教室

福岡県障害者スポーツ協会

福岡県における障害者スポーツ振興事業の実績報告書

I はじめに

本県では、平成 26 年 3 月に「福岡県スポーツ推進計画」が策定され、「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」、「学校や地域における子供のスポーツ機会の充実」、「県民が主体的に参画する地域スポーツ環境の整備充実」、「県民に希望や元気を与える競技スポーツの推進」、「スポーツの活力を活かした地域の魅力の創造と国際交流の推進」の 5 つの事項を柱として展開している中で、障害者スポーツの推進では、「場づくり」、「人づくり」、「しくみづくり」などに取り組み、関係機関と連携しスポーツ活動の推進を行っている。

これまでは、地域におけるスポーツ活動の場づくり、認定校の学生や地域指導者の経験の場づくり等、より身近な地域でスポーツ活動ができるよう拠点づくりを中心に、「場づくり」、「人づくり」、「しくみづくり」に取り組んできた。事業の成果もあり、地域での活動も定着しつつあり、参加できる教室等も少しずつではあるが県域に増えてきている。しかし、障害者が自らスポーツを楽しむ機会はまだまだ少なく、活動の場や種目などは限られているのが現状である。

II 事業の目的・ねらい

本事業では、日頃経験することができない「マリンスポーツ」や「車椅子ソフトボール教室」などを実施し、障害者が自らスポーツを楽しみ、環境（サポート体制）づくりを中心に、イベントや教室の開催を行う。また、特に認定校との連携により、大学のスポーツ施設の活用をすることで、地域での障害者スポーツ活動の拠点となり、今後の地域の障害者スポーツを担う指導者の育成や人材確保を行うことを目的に実施する。

Ⅲ 事業実施概要

(1) スポーツフェスタの開催

事業名	障害者スポーツフェスタ 2015
日時	平成 27 年 11 月 29 日(日) 9 時 30 分～16 時 30 分
場所	福岡大学 第一記念会堂 (福岡市城南区)
参加者	67 名(認定校学生)
スタッフ	審判員 4 名、指導員 2 名、看護師 1 名、協会職員 3 名
補助員	福岡大学男子バスケットボール部 10 名、女子バスケットボール部 10 名
協力	福岡県障害者スポーツ協会会員クラブ 車いすバスケットボールチーム「福岡 Breez」
連携組織	福岡大学地域ネット推進センター 福岡大学バスケットボール部、福岡県内認定校 5 校 協会会員クラブ 車いすバスケットボールチーム「福岡 Breez」
<p>実施体制及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会を組織し、企画から準備、当日の運営を主体的に実施した。 ・実行委員の構成は、障害者スポーツ指導員の資格を有し、指導経験を持つ若手指導員 2 名及び事務局指導員 3 名で行った。 ・内容としては、障害者スポーツの理解の促進を第一の目的に、参加型イベント「車いすバスケットボール」体験、交流試合を認定校の学生を対象に開催した。 	
<p>成果及び評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者との交流の機会が少ない学生にとって、選手との交流や障害者スポーツの体験はとても貴重な経験の場となった。 ・昨年、実施した「ツインバスケットボール」より、ルールが分かり易いこともあり、競技を楽しむ学生の姿が多く見られ、障害者スポーツを身近に感じてもらえる機会となった。また、選手や指導員のプレーを生で観戦し、興味・関心を持った学生もおり、指導員や選手と情報交換する姿が見られた。 ・この活動を通して、指導員の活動の場の拡大や若い世代との協働はリーダー的な核となるための貴重な体験の場となった。 	
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントとしてはたいへん盛況ではあったが、一過性的なもので継続して活動ができる環境づくりには至っていない。 ・興味・関心をもった学生達をいかに引き込むか、障害者スポーツに関わる人を増やし障害者スポーツの裾野を広げていくためには重要な課題である。そのためには、在学中から関わりや経験ができる「しくみづくり」を関係機関と連携を図りながら、行っていく必要がある。 	

【活動の様子】

平成 27 年 11 月 30 日 西日本新聞朝刊（21 面）に掲載されました！！



**福岡、佐賀の学生
車いすバスケット体験**
福大でフエスタ

大学生に障害者スポーツに親しんでもらう「障害者スポーツフエスタ2015」が29日、福岡市城南区の福岡大であった。県障害者スポーツ協会が主催し、

今年で2回目。福岡と佐賀の4大学から67人が参加し、車いすバスケットボールを体験したII写真。

最初に、飯塚市の車いすバスケットボールチーム「福岡breez（ブリーズ）」が試合を見せてルールを説明。学生たちは選手から競技用車いすの扱い方や、ドリブル、パスなどの基本動作を教えてもらい、試合にも挑戦した。

福大スポーツ科学科3年でバスケット部に所属する瀬来尊之さん(21)は「座ったままの動作は難しく、選手のすごさが分かった」。同協会は「障害者スポーツに関わる人を増やして裾野を広げたい」としている。



～開始式・・主催者あいさつ・・～



～福岡 Breez によるエキシビジョン～



～交流試合の様子①～



～交流試合の様子②～

【活動の様子】



～交流試合の様子③～



～交流試合の様子④～



～交流試合の様子⑤～



～指導員 VS 福岡 Breez～



～表彰～



～参加した認定校の学生より感想を・・・～



車椅子バスケの難しさと楽しさを体感！！

共にできる素晴らしさを学んだ！！

とても有意義な時間でした。

～参加者、スタッフの皆さんとの記念撮影～

(2) マリンスポーツ教室の開催

事業名	マリンスポーツ教室
日時	平成27年8月30日(日) 9時30分～14時30分
場所	マリナタウン海浜公園(福岡市西区)
参加者	12名
スタッフ	専門指導者4名、指導員6名、協会職員4名
連携組織	NPO法人 福岡海浜スポーツ振興協会 福岡市海浜公園指定管理者 マリゾン・博多湾環境整備共同体事業 福岡県・ハンディキャップスポーツ・サポートの会(F.H.Sの会)
<p>実施体制及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門指導者と、NPO法人海浜スポーツ振興協会の方と会場の下見なども兼ねて事前打ち合わせを行った。 ・実行委員会を組織し、専門指導者からの助言を基に実行委員会において、実施内容等を決定し企画から準備、当日の運営を主体的に実施した。 ・実行委員の構成は、障害者スポーツ指導員の資格を有し、指導経験を持つ若手指導員2名及び事務局指導員3名で行った。 	
<p>成果及び評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海に行く機会が減多にない、馴染みがないなど、初めて海に触れる参加者もあり、車椅子利用者にとって、海や浜辺で遊ぶことは容易ではないということが事前アンケートでも調査できた。 ・保護者としては、この機会を利用し、海で楽しく遊ばせたい！海でスポーツを楽しめることを体験させたいなど、日頃経験することができないスポーツに対する期待の声の大半を占めていた。 ・きっかけづくりとしては、参加者、指導員、専門指導者にとっても満足ができる内容だった。 ・障害に対する理解やスポーツを実践するうえで安全に留意すれば、海のスポーツ活動もできることを当事者や保護者、サポートするスタッフが理解してもらえるきっかけとなった。 ・実際にマリンスポーツを体験したこと(成功体験)が自信となり、参加者自身の新たな可能性を引き出すことができた。海を怖がっていたものが、率先してカヤックに乗ったり、徐々に一人で艇を乗りこなせるようになったり、わずかな時間の中で、一人一人の成長をみることができた教室だった。 	
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者を限定したことにより、参加者の情報(障害名、程度、運動能力など)を事前に把握ができていたことで、適切な指導や支援ができた。今後、参加者を限定せず教室を開催した際に、今回と同様な実施体制で行えるか、スタッフ体制の充実や参加者数の見直しなど検討していく必要がある。 	

【活動の様子】



～パドル操作～



～浜辺も楽に移動ができる水陸両用バギー～



～指導員と一緒に、いざ海へ！～



～カヤック、パドルサーフィンの様子①～



～カヤック・パドルサーフィンの様子②～



～潮干狩り体験①～



～潮干狩り体験②～



～参加者・スタッフで記念撮影～

(3) 車いすソフトボール教室

事業名	車いすソフトボール教室
日時	1回目：平成27年11月14日（土）10時00分～12時00分 2回目：平成27年11月21日（土）13時00分～15時00分 3回目：平成27年12月5日（土）13時00分～15時00分 4回目：平成27年12月13日（日）13時00分～15時00分 計4回
場所	1・2回目：クローバープラザ 体育館 3回目：桜花台体育館 4回目：北九州市立大学
参加者	延べ 33名
スタッフ	延べ 26名 専門指導者（講師）2名、指導員4名、看護師1名、協会職員2名 北九州市立大学 学生 延べ30名
連携組織	北九州市立大学 地域創生学群 地域総合型スポーツクラブ 桜花台クラブ 福岡県・ハンディキャップスポーツ・サポートの会（F.H.Sの会）
<p>実施体制及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会を組織し、北九州市立大学の学生と協働で事業内容を決定し、企画から準備を実行委員会で行い、教室当日の主体的運営を学生が行った。 ・競技用車椅子を利用したことが無い参加者等については、車椅子操作や参加の障害に応じた指導は指導員が行った。 ・毎回、教室終了後、学生と指導員で実施内容について、フィードバックを行い、次回プログラムなどに反映できるようミーティングを実施した。 	
<p>成果及び評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定校の学生の実践の場となった。認定校の学生が主体的に実践することで、対象者にあった指導・実践することの難しさなどを感じる機会となった。また、ミーティングを通して、指導員からのアドバイスなど受け学べる場となった。 ・福岡地区、筑後地区での開催により、「車いすソフトボール」という競技を、知るきっかけづくりができた。 ・定期的な活動には至っていないが、2月に開催される「第3回北九州市車椅子ソフトボール大会」に2チーム編成し参加することとなり、社会参加の促進に繋がった。また、新たな可能性や目標ができたことは大きな成果であった。 	
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な活動を望む声があげられていた。北九州地区のような核となる活動場所や関わるスタッフなどの確保が必要である。 ・障害によっては、走る、投げる、打つという動作が難しいため、参加者が限定されていた。楽しむスポーツ、親しみやすいスポーツとして、練習方法などをさらに工夫し、誰でも参加できる教室として競技人口の拡大に努めていきたい。 	

【活動の様子】



～クローバー①～



～クローバー②・学生による競技説明～



～桜花台① 車椅子操作・ノック練習～



～桜花台② バッティング練習～



～北九州市立大① キャッチボール練習～



～北九州市立大② シート練習～



～北九州市立大③ 試合前のミーティング～



～参加者・スタッフのみんなと記念撮影～

IV おわりに

「マリンスポーツ教室」や「車いすソフトボール教室」事業を通して、当事者のスポーツ活動機会の提供やスポーツへの新たな可能性を引き出すことができた。また、関係機関と連携体制や関わる指導者にとって資質向上の機会となった。

「スポーツフェスタ」では、認定校の学生と選手との交流が図られ、共に楽しむ機会ができ、障害者スポーツへの理解・啓発に繋がった。

本事業の実施にあたり、支援、協働していただいた皆様へ深く感謝申し上げますとともに、認定校をはじめ関係機関等との連携を図りながら、県内全域で障害者スポーツが普及、推進できるよう取り組みを強化していきたい。

障害者スポーツフェスタ 2015 開催要項

～みんなで車椅子バスケットボールを体感しよう～

1 目 的

車椅子バスケットボールチーム「福岡 Breez」との交流をとおして障害を理解すると共にスポーツの楽しさを体感する。また、(公財)日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導員資格取得認定校(以下認定校と略す。)と連携し、在学中に障害者との交流を行うことにより、障害者スポーツに興味・関心を持ち障がい者スポーツ指導員としての活動意識の向上を図る。更に当協会と認定校が連携し、地域などにおける継続的なスポーツ活動のサポート体制の構築を図る。

2 主 催

福岡県障害者スポーツ協会

3 運 営

障害者スポーツフェスタ 2015 実行委員会

4 共 催

福岡大学

5 協 力

福岡大学バスケットボール部、車椅子バスケットボールチーム「福岡 Breez」

6 会 場

福岡大学 第一記念会堂

7 日 程

平成27年11月29日(日)

受付開始	9:30～ ※福岡大学第一記念会堂 バスケットボールコート入口
開 会 式	10:00
	10:30～10:50 「福岡 Breez」によるエキシビジョンゲーム
	10:50～12:10 車椅子操作・ドリブル&シュート・チームプレーの習得
	12:10～13:00 昼食
	13:00～15:30 交流試合
閉 会 式	15:40

8 対象者

福岡県内認定校の学生及び障害者スポーツに興味・関心のある者。

9 参加費

参加費一人/100円。 フェスタ当日、受付にて徴収します。

10 申込方法及び期限

別紙参加申込書に必要事項を記入し、**平成27年11月24日(火)までに**下記事務局へお申込みください。(FAX・メール可)※メールでの申し込みをされる場合は件名「障害者スポーツフェスタ申込書」と入れてください。

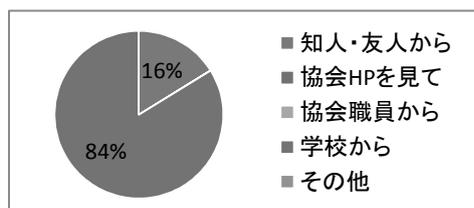
11 申込先・連絡先

福岡県障害者スポーツ協会(クローバープラザ受箱15号) 担当 染谷・山野
〒816-0804 春日市原町3丁目1-7 TEL 092-582-5223 FAX 092-582-5228
メールアドレス : fhspokyo@ktj.biglobe.ne.jp

障害者スポーツフェスタ2015に関する参加者アンケート（回答者数68名）

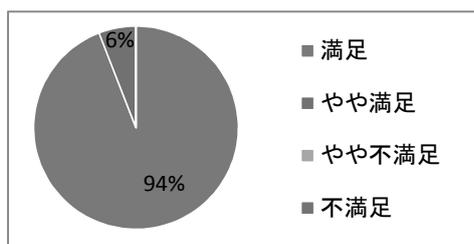
1 このフェスタを何で知りましたか。

項目	回答数
知人・友人から	11
協会HPを見て	0
協会職員から	0
学校から	57
その他	0



2 フェスタの内容全般について、ご満足いただけましたか。（4択）

項目	回答数
満足	64
やや満足	4
やや不満足	0
不満足	0



（満足・やや満足の理由）

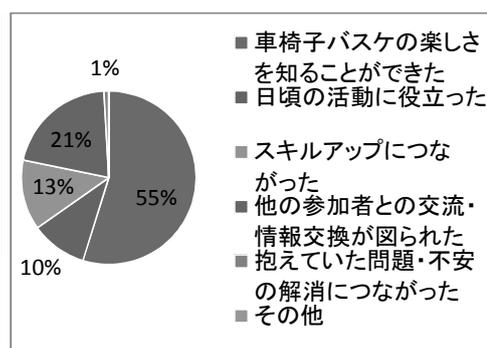
- ・選手の試合を生で見ることができてよかった。
- ・みんなで楽しくバスケができ、障害者スポーツと向き合えた。
- ・普段できない貴重な経験ができ、車椅子バスケの難しさと楽しさを知ることができた。
- ・車椅子に乗って体験できる時間が長く、指導は親切丁寧で楽しめた。
- ・交流ができた。

（やや満足の理由）

- ・怪我をしていたため
- ・普段体験できないことができ、車椅子バスケの良さを知ることができた。

3 参加して、どのような点が良かったですか。（複数回答可）

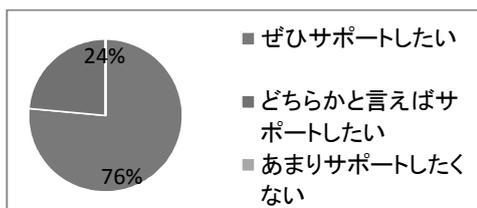
項目	回答数
車椅子バスケの楽しさを知ることができた	63
日頃の活動に役立った	12
スキルアップにつながった	15
他の参加者との交流・情報交換が図られた	24
抱えていた問題・不安の解消につながった	1
その他	0



- ・チームで頑張るところが良かった。
- ・サークルで車椅子ツインバスケに関わっているが、そこでは知れなかったスキル等があって面白かった。
- ・やっぱりやってみることが大切でした。
- ・将来も関わってみたいと思った。
- ・体験しながら楽しめたので良かった。

4 今後、障害者スポーツのサポートをしたいと思いますか。（4択）

項目	回答数
ぜひサポートしたい	52
どちらかと言えばサポートしたい	16
あまりサポートしたくない	0
サポートしたくない	0



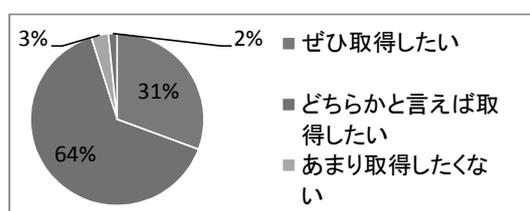
- ・日頃できない経験ができ、自分を成長させる良いきっかけになるから。
- ・障害者スポーツの楽しさを知れたから。
- ・大学のサークルで関わりがあるため、今後も継続していきたい。
- ・こんなにも楽しいスポーツを多くの人に知ってもらうためにサポートをしたい。
- ・学んでいることを活かしていきたい。興味がわいた。
- ・健常者から障害者まで一緒にすることができる素晴らしいものもあつた。

5 障がい者スポーツ指導員の資格について。

①現在、資格未取得者の方へ

今後、障がい者スポーツ指導員の資格を取得したいと思いますか。（4択）

項目	回答数
ぜひ取得したい	19
どちらかと言えば取得したい	40
あまり取得したくない	2
取得したくない	1



（ぜひ取得したい理由）

- ・支える側にまわってみたい。
- ・今ある関わりを活かしていきたい。

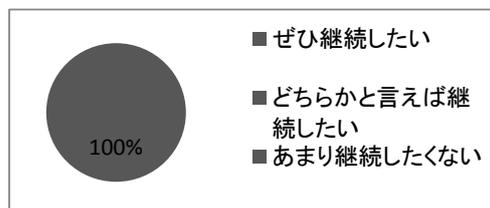
（どちらかと言えば取得したい理由）

- ・自分のためにもなると思うから。
- ・多くのスポーツを見たり、自分の知らないことに関わっていききたいから。
- ・発展に貢献したい。
- ・サポートする立場として現場を見てみたい。
- ・障害者スポーツの楽しさが分かったから。

②現在、資格取得者の方へ

今後、障がい者スポーツ指導員の資格を継続したいと思いますか。（4択）

項目	回答数
ぜひ継続したい	4
どちらかと言えば継続したい	0
あまり継続したくない	0
継続したくない	0



（ぜひ継続したい理由）

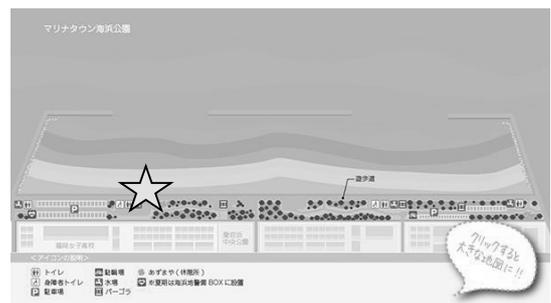
- ・今後も関わりたい。
- ・もっと活躍して、もっと知りたい。

6 何かあればご自由にお書きください。

- ・今後も参加したい。
- ・選手の試合を見たい。
- ・最高！
- ・普段やっている個人競技と逆のチーム競技を経験できてよかった。とても楽しい時間でした。
- ・このような機会を増やしてほしい。
- ・いい経験になった。

障がい者スポーツ理解啓発事業
マリンスポーツ教室 シーカヤック体験 実施要項

- 趣 旨： マリンスポーツ（シーカヤック）に親しむ機会を設けることで、スポーツへの参加機会の拡大を図る。また、一人では日常を味わうことが出来ない体験を通して自然の素晴らしさや海との一体感などを感じてもらう。
- 主 催： 福岡県障害者スポーツ協会
- 主 管： マリンスポーツ教室実行委員会
- 協 力： NPO法人 福岡海浜スポーツ振興協会
福岡県・ハンディキャップスポーツ・サポートの会（F.H.Sの会）
福岡市海浜公園指定管理者 マリゾン・博多湾環境整備共同事業体
- 日 時： 平成27年8月30日（日）※雨天時順延 9時30分～14時30分
【予備日 平成27年9月13日（日）】
- 場 所： マリナタウン海浜公園 愛宕浜西駐車場奥（福岡女子高校裏）
所在地：福岡西区愛宕浜2丁目、3丁目地先



- 対 象： 身体障害児・者（小中高生）と その家族
- 定 員： 10名程度
- 内 容： パドル操作やカヤックの基本的な扱い方などを学び、愛宕浜の海でシーカヤックを体験する。また、ビーチスポーツの体験をする。
- 参 加 料： おひとり 4,000円
(ただし、シーカヤック、パドル、ライフジャケット、保険代等を含みます。)
- 申 込 方 法： 下記申込先へ、FAXまたは直接お申し込み下さい。
※FAXの方は、送信後確認のご連絡をお願い致します。
- 申込・問合せ先： 福岡県障害者スポーツ協会
〒816-0804 福岡県春日市原町3-1-7 クローバープラザ6階
TEL：(092) 582-5223 FAX：(092) 582-5228 (担当：染谷)
- 申 込 期 間： 平成27年7月21日(火)～とし、随時受け付けます。
(定員になり次第締め切ります)
- 準 備 品： 水着、スイミングキャップ、濡れても大丈夫な服装と履物、帽子、タオル、飲み物、昼食

公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 受託事業
平成 27 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」

マリンスポーツ教室 シーカヤック体験

夏だあ！ 海だあ！ 自然と遊ぼう！



2015

8.30 SUN



9時30分～14時30分

マリナタウン海浜公園
愛宕浜西駐車場奥
(福岡女子高校裏)

主 催： 福岡県障害者スポーツ協会
主 管： マリンスポーツ教室実行委員会
協 力： NPO法人 福岡海浜スポーツ振興協会
福岡県・ハンディキャップスポーツ・サポートの会 (FHS の会)
福岡市海浜公園指定管理者 マリゾン・博多湾環境整備共同事業体

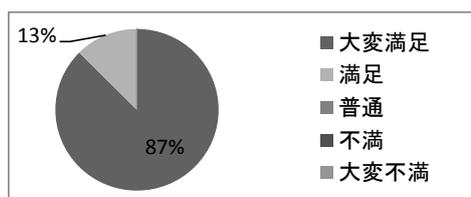
お問合せは・・・福岡県障害者スポーツ協会

〒816-0804 福岡県春日市原町3-1-7
TEL 092-582-5223 FAX 092-582-5228

マリンスポーツ教室に関する参加者アンケート（回答者数8名）

1 教室は満足する内容でしたか。

項目	回答数
大変満足	7
満足	1
普通	0
不満	0
大変不満	0



（大変満足の理由）

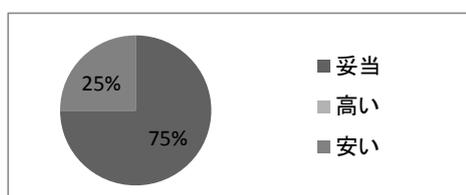
- ・親とでは全くできないスポーツなので、とてもよかったと思う。
- ・親子で個人的に連れて行くことが難しいので、みなさんとやれる企画だと安心して参加できます。
- ・最初の取り掛かりは不安そうだったのに、笑顔で話してくれたから。
- ・初めてのシーカヤック大変楽しめました。
- ・海に入ることがほとんどないので。
- ・海で楽しむことをする機会がない。マリンスポーツは人生で初めてだった。

（満足の理由）

- ・初めての体験でしたが、楽しかったから。

2 参加費（1人4,000円）について。

項目	回答数
妥当	6
高い	0
安い	2



（妥当の理由）

- ・ボランティアスタッフも、指導員もたくさんいて、長い時間お世話していただいたので。（2）
- ・旅行などで行けばもっと高いので、ありがたかった。
- ・妥当だが、人数によって割引があると、親も参加しやすいと思います。

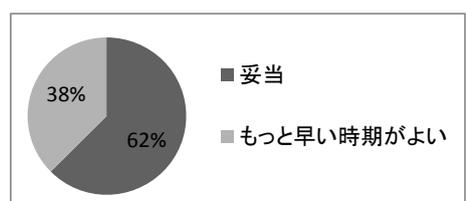
（高い理由）

- ・もう少し安いと助かりますが、マリンスポーツをできることの方が嬉しい。

3 開催時期について

（1）8月末開催について

項目	回答数
妥当	5
もっと早い時期がよい	3
もっと遅い時期でもよい	0



（妥当の理由）

- ・天候に恵まれたのでよかった。
- ・気温、水温的にはちょうどよい。
- ・夏休み最後の週末くらいがちょうどよい。

（もっと早い時期がよい理由）

- ・8月末で学校が始まっていたため、もう少し早い時期がよい。
- ・7月でもよいのでは。
- ・夏休み後半まで待てない。

（2）時間帯（10時～15時）

項目	回答数
妥当	8
もっと短くてよい	0
もっと長い方がよい	0



4 今後もこのような教室があれば参加したいと思いますか。

項目	回答数
参加したい	8
参加したくない	0
その他	0



- 色々な体験をさせたい。
- こどもが楽しんでいる姿を見られたから。
- このようなチャンスはないと思うから。

5 マリンスポーツ教室についてのご意見がありましたらお書きください。

- 体験できないことをさせていただいて、感謝しています。
- 百道と近い場所でマリンスポーツを楽しめてびっくり。あんな場所があると知りませんでした。
- これからもぜひやってください。
- とても楽しかったです。カヤックに乗ることはできないと思っていたので大満足でした。
- とにかく楽しかったです。

障がい者スポーツ教室事業「車椅子ソフトボール教室」 開催要項

1 目的

新たなスポーツの選択肢を増やし、スポーツ活動の場や、スポーツを知る機会を提供する。
また、3つの地域で開催することにより、それぞれの地域での、選手及び指導者の発掘・育成、
今後の普及、競技人口の拡大と充実を図る。

2 主催

福岡県障害者スポーツ協会

3 主管

車椅子ソフトボール教室実行員会

4 協力

北九州市立大学地域創生学群

桜花台クラブ

福岡県・ハンディキャップスポーツ・サポートの会(F.H.Sの会)

5 日時・場所(全4回)

日程	時間	会場
① 11月14日(土)	10時～12時	クローバープラザ
② 11月21日(土)	13時～15時	クローバープラザ
③ 12月 5日(土)	13時～15時	桜花台体育館
④ 12月13日(日)	13時～15時	北九州市立大学

6 対象者及び定員

小学生以上の身体障がい児・者、サポートを希望する健常者 15名

7 参加費

1,000円(傷害保険料等)徴収します。

8 申込方法及び期限

希望者は、別紙申込書に必要事項を記入し11月4日(水)までに申込むこと。(FAX可)
定員に満たない場合は、随時受け付けます。

※FAXで申し込みをされる場合は、必ず送信確認をお願いします。

9 申込先

福岡県障害者スポーツ協会(クローバープラザ受箱15号) 担当 古藤(こうとう)

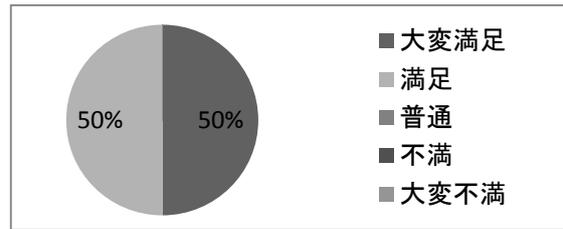
〒816-0804 春日市原町3丁目1-7

TEL:092-582-5223 FAX:092-582-5228

車いすソフトボール教室に関する参加者アンケート（回答者数4名）

1 教室は満足する内容でしたか。

項目	回答数
大変満足	2
満足	2
普通	0
不満	0
大変不満	0



（大変満足の理由）

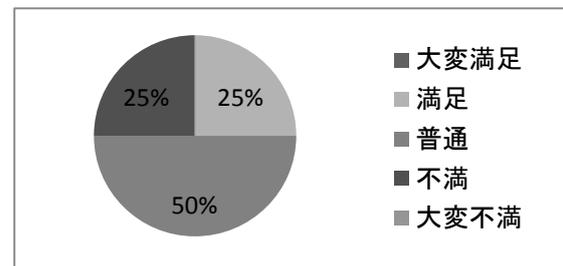
- ・北九大の学生さんが1人1人についてくださり、安心してお任せできた。

（満足の理由）

- ・楽しそうだったから。

2 教室の回数・場所について。

項目	回答数
大変満足	0
満足	1
普通	2
不満	1
大変不満	0



（満足の理由）

- ・もう少し回数が増えるとよい。

（普通の理由）

- ・回数が増えるとよい。

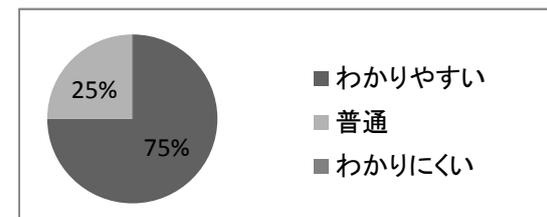
- ・遠くへの移動が大変なため、近い場所だけ参加しました。（クローバープラザ）

（不満の理由）

- ・場所が遠いと参加しにくい。

3 講師・指導員の指導はわかりやすかったですか。

項目	回答数
わかりやすい	3
普通	1
わかりにくい	0

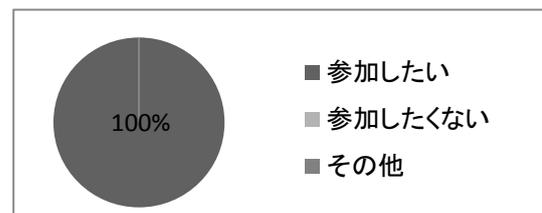


（わかりやすい理由）

- ・大学生の方々と接することができて楽しそうにやっていました。
- ・技術面も少し成長したと思う。

4 今後も車いすソフトボール教室があれば参加したいと思いますか。

項目	回答数
参加したい	4
参加したくない	0
その他	0

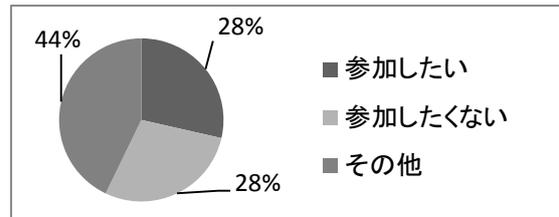


（参加したい理由）

- ・楽しそうにしていたので。

5 今後、大会に参加したいと思いますか。

項目	回答数
参加したい	2
参加したくない	2
その他	3



(参加したい理由)

- 試合で練習の成果を出したい。

(その他の理由)

- まだ小さいので、技術的に無理かなと思う。
- 本人が希望すれば検討したい。

6 車椅子ソフトボール教室についてのご意見がありましたらお書きください。

- 練習だけでも参加できたらと思っています。
- 北九州市での練習に参加するのが難しいので、クローバープラザでの開催がよい。

鹿児島県障がい者スポーツ普及・振興・強化事業

- ◆ 全国障害者スポーツ大会団体種目普及育成事業
(知的障がい者バスケットボール)
- ◆ 鹿児島県知的障がい者デュアルレーン方式による
ボウリング教室及び大会
- ◆ 県民レクリエーション祭における障がい者スポーツ
ブース設置事業

鹿児島県障害者スポーツ協会

平成27年度「地域における障がい者スポーツ振興事業」
【鹿児島県障がい者スポーツ普及・振興・強化事業】事業報告書

1 はじめに

平成22年6月に制定された「スポーツ振興かごしま県民条例」は、障がい者スポーツの推進にかかわる条文が含まれている。条例に基づいて作成された「スポーツ振興かごしま基本方針」では、障がい者がスポーツに親しむことで自立や社会参加、県民の障がい者への理解が促進され、ノーマライゼーション推進につながると期待されている。

昨年度の障がい者スポーツ所管省庁の移管を契機に、本県の文部科学省系の担当課やスポーツ推進委員等との連携が進んでいる。東京オリンピック・パラリンピックが開催される平成32年には、本県で国体と全国障害者スポーツ大会が開催されるため、今後本県における障がい者スポーツは、さらに県民から注目されることが予想される。

この大会開催に向け、行政や関係団体と話し合う中、以下の課題が考えられた。

○課題1

本県は全国障害者スポーツ大会団体戦のブロック予選に5競技5種目しか出場できていない。(九州ブロック予選は6競技12種目で実施)そのため、早急な普及・強化が必要である。

○課題2

知的障がい者のボウリングは、全国障害者スポーツ大会でデュアルレーン方式が採用されているが、本県では参加者の競技習熟度が低いため県大会(全スポ予選)でシングルレーン方式を採用している。結果、競技習熟度が上がらず、デュアルレーンに対応できる選手選考に苦慮している。

○課題3

県民にはとってオリンピックや国体は認知度が高いが、パラリンピックや全国障害者スポーツ大会の認知度は低い。平成32年度に向けた認知度向上が不可欠。

「地域における障がい者スポーツの振興事業」を活用し、これらの課題を克服できないかと考えたことが、本事業を企画した経緯である。

2 事業の目的・ねらい

課題1を解消する目的で、知的障がい者バスケットボールの普及育成を行った。本県の知的障がい者バスケットボールは今年度男子が予選出場を果たしたが、初戦敗退。女子はチームが組めない状況であった。この事業を通して男子チームの強化、女子チームの予選出場だけでなく、県内の特別支援学校を活用することにより今後の選手発掘や活動拠点としての協力・連携が期待された。

課題2を解消する目的で、知的障がい者を対象にデュアルレーン方式によるボウリング教室及び大会を開催した。県大会でもデュアルレーン方式を採用できるよう浸透を図るとともに、競技力向上も期待された。

課題3を解消する目的で、県民レクリエーション大会における障がい者スポーツブースを設置した。この大会は、県内の地区で輪番開催されており、レクリエーション関係者やスポーツ推進

員のほか一般県民が、毎年 3000 人程度参加しているイベント。ブースを設置し、体験や展示閲覧を通し障がい者スポーツの理解促進を図った。

3 実施概要と成果

(1) 全国障害者スポーツ大会団体種目普及育成事業（知的障がい者バスケットボール）

日 程：平成 27 年 7 月～平成 28 年 2 月

会 場：県内の特別支援学校等（13 ヶ所）、ハートピアかごしま等

参加者：460 名（内訳：特別支援学校の児童生徒，施設入所者等）

スタッフ：65 名（内訳：障害者指導員，プロバスケットボール選手）

内 容

- ・県内の特別支援学校や総合型地域スポーツクラブと連携を図り，選手発掘を兼ねた練習会を 13 ヶ所で実施した。
- ・上記練習会の成果として特別支援学校対抗バスケットボール大会の実施。
- ・男子チームの強化として，プロバスケットボールチームの前座ゲーム（チャレンジマッチ）を実施した。
- ・審判技術向上を目的として上記練習会に鹿児島県 FID（知的障がい者部門）審判部が参加し，大会では審判を担当した。

成 果

県内の特別支援学校、総合型スポーツクラブ、県バスケットボール協会、プロバスケットボールチームと連携し、普及練習会、特別支援学校対抗大会、審判講習会を開催し、県内における知的障害バスケットボールの普及・啓発、女子チーム結成につながる選手発掘、男子チームの強化、今後の活動に向けた特別支援学校との連携体制構築といった成果があった。

(2) 鹿児島県知的障がい者デュアルレーン方式によるボウリング教室及び大会

日 程：平成 27 年 11 月 15 日（日）

会 場：サンライトゾーン（鹿児島市東郡元町 1-10）

参加者：40 名（内訳：知的障がい者 22 名、支援者 18 名）

スタッフ：9 名（内訳：県スポーツ協会 1 名、スポーツ指導員 2 名、県手をつなぐ育成会 2 名、県ボウリング連盟 1 名、補助員 3 名）

内 容

- ・デュアルレーン方式によるボウリング教室を実施。
- ・上記教室の後、デュアルレーン方式によるボウリング大会を実施。

成 果

22 名の知的障害選手が参加。教室をしてから大会を開いたため、ルールが浸透し、今後、本県の県大会（全スポ予選）で同方式を採用するなど普及の可能性が確認された。

(3) 県民レクリエーション祭における障がい者スポーツブース設置事業

日 程：平成 27 年 11 月 22 日（日）

会 場：隼人体育館 鹿児島県霧島市

参加者：138名※ブース来訪者（内訳：地区スポーツ推進員、県・市町村教育委員会職員、教員、学生、地域住民等）

スタッフ：6名（内訳：県障害者スポーツ協会1名、県障害者スポーツ指導者協議会3名、県知的障害バスケットボールチーム2名）

内 容

- ・ボッチャやバスケットボール用車椅子でのタイムトライアルなど、障がい者スポーツ体験ブースを設置した。
- ・ブースの壁面を利用し、障がい者スポーツをパネルで紹介した。

成 果

138名がブースを来訪し、スポーツ体験やパネルを閲覧した。体験により障がいや障がい者スポーツへの理解が深まり、パネル展示は障がい者スポーツの魅力や幅広さを伝えることができた。

4 障がい者スポーツ指導者の活動・役割

鹿児島県障害者スポーツ指導者協議会が鹿児島県障害者スポーツ協会と連携し、当事業の企画運営を担当した。

全国障害者スポーツ大会団体種目普及育成事業においては、指導員が教室での指導、大会企画・運営に活躍した。

鹿児島県知的障がい者デュアルレーン方式によるボウリング教室及び大会では、教室での指導補助、大会企画・運営面での役割を遂行した。

県民レクリエーション祭における障がい者スポーツブース設置事業では、展示する写真やキャプション制作、体験用物品の調達、体験プログラムの企画、当日の指導やパネル説明を行った。

5 評価

当事業は、2020年の全国障害者スポーツ大会かごしま大会に向けたスポーツの普及・強化・県民への啓発の一助となった。

当事業により連携した各団体と、今後も手を取り合い、本県の障がい者スポーツ普及・促進・啓発に取り組んでいく契機となった。

平成28年度から全国障害者スポーツ大会かごしま大会がある平成32年度まで、鹿児島県が実施する「障害者スポーツ振興事業」を鹿児島県障害者スポーツ協会が受託することになった。大会に向けた選手の発掘強化や未整備団体種目の普及と本県代表チーム結成が主となるこの事業を実施する上で、「地域における障がい者スポーツの振興事業」での成果や他団体との連携は、大きな財産となる。

6 今後の課題

本県は本土部分の中央に錦江湾、加えて南北600kmに渡って離島が点在するなど、1箇所に集まりにくく、障がい者スポーツを県内に普及・振興・強化を推進するにあたり拠点が複数必要になる。

これらの地域の機関や団体と連携し、拠点となる場所の確保や活動を主導できる人づくりが課題である。

7 所 感

当協会は専任職員が皆無（他の団体との兼務職員2名）で、「地域における障がい者スポーツの振興事業」を活用して素晴らしい成果を地域にもたらしている他県の実績を知りつつも、手を上げる余力は無いのが現状であった。

しかしながら、全国障害者スポーツ大会開催を5年後に控えながら団体競技の普及・育成が進まず、大会の認知度はなく、会場や整備案も決まらない本県の状況を考え、使命感から応募した。

結果、県障害者スポーツ指導者協議会や県手をつなぐ育成会など、業務の主要部分を任せられる団体をはじめ、多くの機関や人々の協力をいただき、事業を成功裡に終えることができた。今では、思い切って手を上げて良かったと感じている。

来年度は、上述の「障害者スポーツ振興事業」を県から受託するため、「地域における障がい者スポーツの振興事業」に手を上げる余裕はないが、今後、業務に支障がなければ積極的に応募し、地域の障がい者スポーツを活性化させたい。



第31回 県民レクリエーション祭

Smile for all

県央の大地で育む レクの風 心も体も元気が一番

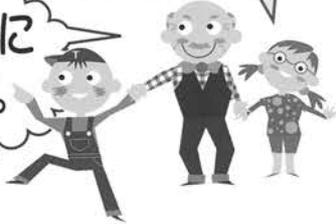
期日 平成27年
11月22日(日)
＜小雨決行＞

日程 8:30～9:00 受付
9:00～9:40 開会式・アトラクション
(隼人農村環境改善センター)
9:40～10:00 移動・準備
10:00～15:30 (隼人体育館他)
各ブースでの体験活動及び舞台発表
競技種目は、会場移動の後、競技・体験活動
※会場については裏面をご覧ください。

参加費：無料

スタンプラリーで
景品をゲットしよう!

だれでも気軽に
参加できます。

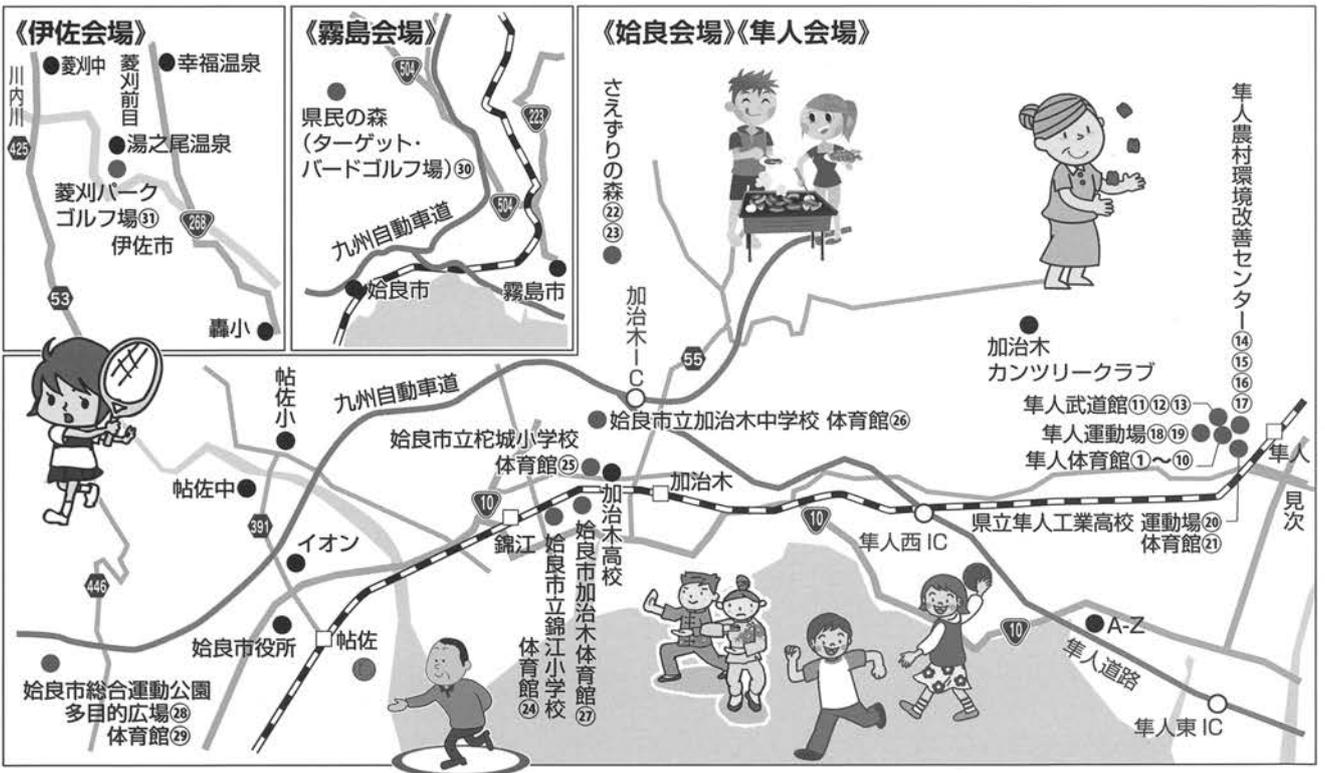


主催 鹿児島県 鹿児島県教育委員会 霧島市教育委員会
伊佐市教育委員会 始良市教育委員会 湧水町教育委員会
鹿児島県レクリエーション協会

主管 県民レクリエーション祭始良・伊佐地区実行委員会
県レクリエーション協会各地域及び種目団体

趣 旨

県民参加によるレクリエーションのつどいを開催し、参加者相互のふれあいの中で連帯感を育み、県民の健康増進と明るく豊かな生活の実現に寄与するとともに、「マイライフ・マイスポーツ運動」の推進に資する。



鹿児島県レクリエーション協会

〒890-0062 鹿児島市与次郎1-4-20(県総合体育センター内)
TEL 099-255-0225 FAX 099-296-1192

第31回県民レクリエーション祭 会場一覧

平成27年11月22日(日) 10:00～15:30

番号	種目名	内容	連絡先	会場
		総合開会式		単人農村環境改善センター
1	スポーツチャンバラ	エアソフト剣を使う8種からなる競技です。子どもから大人まで、初心者から武道経験者まで楽しめます。	☎090-5298-4820 (井川)	単人体育館(各ブース)
2	ユニカール	初心者講習をし、自由参加で交流試合をします。	☎080-6400-5727 (青山)	
3	武術太極拳	身体を動かし、楽しみながら健康づくりをしましょう。初めての方を大歓迎します。	☎0995-56-2562 (槐島)	
4	マジック	ビックリ、歓声、拍手喝采。マジックの不思議な力、楽しませる術をあなたも身につけましょう。	☎099-253-2000 (須部)	
5	スポーツ吹矢	初めての方も楽しく参加できます。	☎0995-62-1905 (宮路)	
6	ニュースポーツ	誰でも楽しく出来るニュースポーツの数々を一緒に体験しましょう。	☎099-255-0225 (県レク)	
7	カーリンコン	初めての人でもすぐプレーでき、手軽に楽しめるニュースポーツです。	☎090-1879-4513 (南)	
8	真向法体操	初めての方も楽しく参加できる内容です。	☎099-282-1945 (下窪)	
9	お手玉	なつかしいお手玉遊びを、だれでもたのしく参加できる内容で実施します。	☎0995-65-8630 (山本)	
10	障がいのある人のためのスポーツ体験コーナー	障がいのある方でも楽しめるスポーツレクリエーションの体験コーナーです。	☎099-228-6271 (前田)	
11	フォークダンス			単人武道館
12	日本民踊	初めての方も楽しく参加できる内容です。楽しく踊りましょう。	☎099-282-2464 (瀬尾)	
13	レクリエーションダンス			
14	余暇開発相談	余暇に関する相談を行います。	☎090-4993-7135 (山下)	単人農村環境改善センター
15	ジャズ体操	年齢に関係なく、動ける体操です。身体を動かし方を楽しみましょう。	☎099-281-7055 (畠中)	
16	エアロビック	初めての方も楽しく参加できる内容です。	☎090-5477-3373 (佐藤)	
17	ティーボール	ソフトボール形式のニュースポーツです。ティーに乗せたボールを専用のバットで打ちます。だれでも簡単に体験できます。	☎099-264-3509 (今村)	単人運動場
18	カントリーボール	誰でも楽しくプレーすることができます。	☎090-1162-1976 (馬場)	
19	凧あげ	凧製作会及び凧揚げ体験。連凧をはじめ珍しい凧を大空高くあげます。奮って参加ください。	☎099-285-0738 (栃木)	県立単人工業高校 運動場
20	フライングディスク	ディスクスポーツ4種目の体験可。投げ方一つにしても楽しむことができる奥の深いスポーツです。	☎090-2395-0725 (有川)	県立単人工業高校 体育館
21	ソフトバレーボール	やわらかいボールを使ったバレーボール。1チーム4人で実施します。	☎099-222-2510 (吉水)	さえずりの森
22	ネイチャーゲーム	自然とふれあい五感を使って、ネイチャーゲームなどの楽しい体験活動ができます。	☎090-3665-7277 (上野)	
23	デイキャンプ	食材及クラフト材料代 中学生以上/1,000円 小学生/600円 未就学児/無料	☎099-285-8841 (福満)	始良市立錦江小学校 体育館
24	スポンジテニス	スポンジボールを使って、年齢に関係なく体育館の中で楽しく競技できます。	☎090-6427-3409 (盛永)	
25	バウンドテニス	初心者でも楽しめるテニスです。	☎090-6290-7100 (龍園)	始良市立柁城小学校 体育館
26	インディアカ	羽根のついたボールを6人制バレーボールのルールに準じて素手で打ち合うゲームです。	☎090-3609-3117 (屋久)	始良市立加治木中学校 体育館
27	3B体操	ベル、ベルダー、ボールを使って身体を動かし、楽しみながら健康づくりをしましょう。	☎090-4777-9451 (森山)	始良市加治木体育館
28	ペタンク	交歓試合(自由参加の2人1組)を実施します。男女混成によるチーム編成でも参加できます。	☎090-7534-3098 (楠木)	始良市総合運動公園 多目的広場
29	ドッジボール	小学生ドッジボール大会を実施します。	☎099-251-1948 (荒武)	始良市総合運動公園 体育館
30	ターゲット・バードゴルフ	合成樹脂の羽根つきボールを普通のゴルフのアイアンで打つミニゴルフの一種です。	☎099-256-4705 (徳富)	県民の森(ターゲット・バードゴルフ場)
31	パークゴルフ	子どもからお年寄りの方まで、男女を問わず楽しめるスポーツ。太陽の光を受けながら楽しく遊みましょう。	☎0995-24-1801 (松崎)	伊佐市菱刈パークゴルフ場

※ドッジボールは9:30開始です。

第31回県民レクリエーション祭 「障がいのある人のためのスポーツ体験コーナー」

平成27年11月22日（日）

霧島市隼人体育館

○競技用車いす体験コーナー



小学生のリピーターが後を絶たない



外国の方？も記録に挑戦



バスケットボール用車椅子に乗りタイムを競うタッチアンドゴー

男子、女子、ジュニア男子、ジュニア女子と部門を分け、ホワイトボードの記録更新を目指す。

○ボッチャ体験コーナー



ミニボッチャコートでゲームを体験

ボッチャは重度脳性麻痺者のカテゴリも存在するパラリンピックの正式種目。白い目標球に赤と青のボールを寄せる。投げる動作が困難な場合、ランプ（左）を使用することができる。2020年の全国障害者スポーツ大会鹿児島大会では正式競技に加えられる可能性もあり、今後の普及が待たれる。



○障がい者スポーツ写真展示コーナー



障がい者スポーツの解説パネルやパラリンピック種目を中心とした写真を展示し、その魅力を紹介



鹿児島県障害者スポーツ協会、鹿児島県障害者スポーツ指導者協議会を中心としたスタッフで対応

沖縄県における障がい者スポーツ振興事業

- ◆ うるま市就労支援施設ネットワーク連絡協議会スポ・レク大会
- ◆ 浦添市制 45 周年記念ユニバーサルスポーツフェスタ
- ◆ 特別支援学校及び小中学校等障がい者スポーツ体験教室

特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会

平成 27 年度障害者スポーツ振興事業
「地域における障がい者スポーツの振興事業」
事業報告書

① はじめに

本県においては、離島県ということもあり、障がい者スポーツの情報や活動内容が遅れていたことは否めない。しかし、各スポーツ団体の地道な取り組みによりスポーツチームが増加してきたものの、支援する指導員やボランティア等の不足、高齢化等により低迷している。また、専用のスポーツ施設等も限られていることから、離島地域や北部等においては、未だ拡大の課題がある。

その反面、パラリンピック日本代表を輩出するなど、アスリートの成長は目覚ましいものがある。2020 年の東京大会に向けて、障がい者スポーツが日常の中で、ジュニアから高齢者まで親しまれ、協働社会の構築につながることを期待するものである。

② 事業の目的・ねらい

障がい者スポーツをとおして、障がいを有する人に限らず、学校、地域が広く関わる機会をもつことにより、障がい者への正しい理解とスポーツの持つ仲間づくり、健康増進への取り組みやすいジャンルとして定着させる。

③ 実施概要

- ・ 事業内容・・・障がい者福祉施設等の連合によるスポ・レク大会、地域住民がともに参加するユニバーサルスポーツフェスタ、学校関係と連携したスポーツキャラバンの実施等
- ・ 実施体制・・・福祉施設等連絡協議会、地域市町村、学校並びにスポーツ指導員連絡協議会等との連携により実施する。
- ・ 参加者内訳等・・・1) 福祉施設スポ・レク祭り(利用者、指導者合計 300 人)
2) 浦添市ユニスポーツ祭り(市役所、ボランティア、指導員、ダンス、テニス他各スポーツ団体:計 150 人)
3) 学校キャラバン(指導生徒等、保護者、教師延べ 170 人)



浦添市ユニスポーツ祭り



学校キャラバン (大山小)

④ 障がい者スポーツ指導者の活動、役割

地域住民の各層において、障がい者スポーツへの取り組みや問い合わせが増加する中で、スポーツ指導者が現場において各団体と関わる機会が少ない、中、北、南部離島といった地域別のばらつきを解消すべく、各地域を巡回した活動の展開によりスポーツ指導員の動員を目指したい。

⑤ 成果および評価

事業内容がイベント形式になっていることから、年に1回といった頻度になっているので、各地域を巡回した広汎性と形態を限定した種目別実施等の工夫により、より多くの住民参加を目指す必要がある。

実施した地域では、「また参加したい、もっと実施してほしい」の賛同が多く、より頻回に実施する体制づくりを目指したい。

⑥ 今後の課題

各地域に核となるスポーツ指導員を把握し、連携強化により「地域別取り組み」を強化する必要がある。また、各市町村社会福祉協議会等との連携を広げ、市町村単位の取り組みも可能性は大である。

⑦ おわりに

日本障がい者スポーツ協会の時宜に合った事業により、人の動員や地域取り組みへの広がりを実感した。特に課題としたスポーツ指導員の活性化は今後もこうした事業展開により拡大を図ってまいりたい。



学校キャラバン（陽明）



福祉施設スポ・レク祭り



学校キャラバン（沢岨小）

